令和４年度生

SYLLABUS

履修の手引き

授　業　案　内

大垣市医師会看護専門学校

目　　次

Ⅰ．教育理念・教育目的・教育目標　・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ．看護の基本概念　・・・・・・・・・・・・　2

Ⅲ．教育課程

1．基礎分野の考え方と科目構成及び内容　・・・・・・・・・・　9

2．専門基礎分野の考え方と科目構成及び内容　・・・・・・・・　10

3．専門分野Ⅰの考え方と科目構成及び内容　・・・・・・・・・　10

4．専門分野Ⅱの考え方と科目構成及び内容　・・・・・・・・・　11

5．統合分野の考え方と科目構成及び内容　・・・・・・・・・・　14

6．教科外活動　・・・・・・・・・・・・　17

7．教育課程および教育計画　・・・・・・・・・・・・　18

8．学科進度表　・・・・・・・・・・・・　20

Ⅳ．教育内容

1．基礎分野　・・・・・・・・・・・・　23

2．専門基礎分野　・・・・・・・・・・・・　39

3．専門分野Ⅰ　・・・・・・・・・・・・　59

4．専門分野Ⅱ　・・・・・・・・・・・・　69

5．統合分野　・・・・・・・・・・・・　101

6．臨地実習・科目の順序性　・・・・・・・・・・・・　113

Ⅰ．教育理念
教育目的
教育目標

Ⅱ．看護の基本概念

Ⅰ　教育理念・教育目的・教育目標

1　教育理念

命の尊厳・人間の尊重を基盤とした豊かな人間性を養い、科学的思考に基づく看護実践能力と共に、多様化する社会のニーズに対応し、主体的に考え行動できる能力を備えた看護専門職を育成する。

2　教育目的

教育基本法の精神に則り、学校教育法並びに保健師助産師看護師法の定めに従い、看護師として必要な知識・技術を教授し、地域に根ざした人間性豊かな専門職業人を育成する。

3　教育目標

1　生命の尊厳と基本的人権をもとに、個人の信念や価値観を尊重できる感性豊かな人間性を養う。
2　人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を養う。
3　人々の健康と生活を自然環境、社会・文化的環境とのダイナミックな相互作用の観点から理解する能力を養う。
4　健康上の課題を解決するために、科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。
5　保健・医療・福祉制度を理解し、チームの一員として他職種との調整・連携ができる基礎的能力を養う。
6　看護の向上を目指し、常に問題意識をもち、自ら学び続ける態度を養う。

4　主要概念の定義

人間　1　人間とは、身体的・精神的・社会的側面をもった統一体である。
2　人間は、個人として尊重され、基本的人権を持つ。
3　人間は、基本的欲求を持っている。それは、普遍的でありながら、それぞれに特有で個別のものである。
4　人間は、意思を持つ自立的存在である。
5　人間は、環境と相互作用し合い、身体的・精神的・社会的に適応しようと変化し、成長・発達し続けている存在である。
6　人間は、生物体としての共通要素をもつが、それぞれの社会的背景の中で、固有の信念・価値観・役割・関係を持つ社会的存在でもある。

健康　1　健康とは疾病や障害の有無だけではなく、身体的・精神的・社会的にバランスがとれた状態であり、その人の能力が最大限に発揮されている状態である。
2　健康は対象のライフサイクルにおいてそれを取り巻く状況、文化、民族などの環境が影響する極めて流動的なものである。

環境　1　環境とは、人間を取り巻くすべてであり、内的環境と外的環境がある。
1）内的環境とは、ホメオスタシスに基づいた生体内の環境をさす。
2）外的環境は、自然環境と社会・文化環境に大別される。
⑴　自然環境は、生物学的環境と非生物学的環境に分けられる。
①　生物学的環境とは、
人間、動植物、微生物など生物の生態系に関係するものをいう。
②　非生物学的環境とは、
物理的環境（気候、気圧、地形、光、熱、音、振動、放射線、電磁波など）と、
化学的環境（大気のO_2、CO_2、無機・有機化合物、有毒ガスなど）をいう。
⑵　社会・文化環境とは、
社会的環境（家族、親族、地域社会、職業、教育、犯罪）と
文化的環境（言語、慣習、行動様式、価値、歴史、宗教、道徳）と
政治や経済的環境（家計、労働、市場、制度、政策、国際関係）である。
2　環境と人間は常に相互作用している。
3　環境は人間のパーソナリティに深く関わるものである。

看護　1　看護は、専門職として独自の機能を有し、あらゆる成長・発達段階・健康レベルにある個人及びその家族、集団、地域社会を対象とする。
2　看護は、人間が生命や健康を保つために本来もっている自己の能力を高め、可能性を発揮し、その人らしく生活できるように援助することである。
3　看護は、対象の顕在的・潜在的な課題に対して、科学的知識を活用し、適切な技術と系統的なアプローチで看護ケアを実践するものである。
4　看護は、対象にあった生活を対象なりに健康で生きがいをもって送るために、保健・医療・福祉システムを理解し、関連する他職種と連携・協働するとともに、それらをマネジメントする役割を担う。

教育　1　教育とは、目的意識を持った人間形成へ働きかけることである。
2　人間関係を基盤とした活動の中で、学習者の価値観を尊重し、豊かな人間性を育てることである。
3　学習者の潜在能力を引き出すために、環境を整え意図的に働きかけることである。
4　学習者が自己実現を目指し、主体的に活動できるよう支援することである。
5　学習者と教育者が共に成長するものである。

5　カリキュラムデザイン

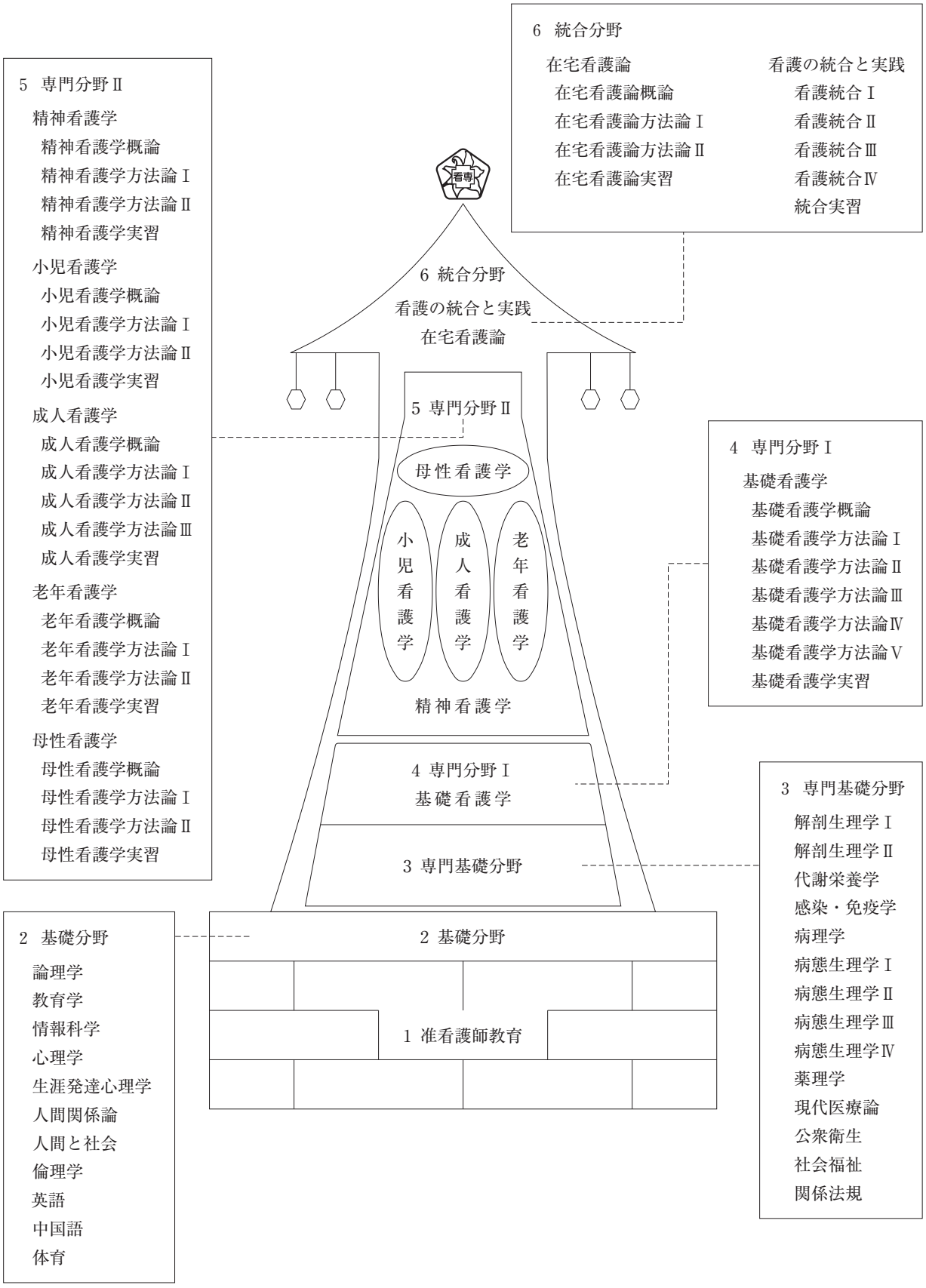
構造図の考え方

本校が設立されている大垣市は、日本列島のほぼ中央に位置し、中山道や美濃路が通り、日本の東西の経済・文化の交流地点として栄えてきた。また、俳聖・松尾芭蕉が船町港を訪れ「蛤のふたみに別れ行く秋ぞ」の俳句を詠み、「奥の細道」の旅を終えた結びの地として知られる。その俳句を詠んだ場所に立つ「住吉灯台」は水運でにぎわった面影を残し、現在もこの地のシンボルとして地域の人々に親しまれている。

本校では、この住吉灯台を教育課程のシンボルとして、地域に根ざした職業人を育成するため以下のような意味を込めてカリキュラムを構築した。

1　灯台を支える礎として、本校の教育課程の土台となる准看護師教育を位置づけた。
2　基礎分野は人間理解と科学的思考の基盤作り、また人間としての成長につながるような教育内容として、准看護師教育の上に積み上げた。
3　基礎分野の上には、個別性のある看護を提供する力を高めるために必要な専門基礎分野を積み上げた。
4　専門基礎分野の上には、すべての看護の基盤となる専門分野Ⅰを置いた。
5　精神看護学は、基礎分野・専門基礎分野及び専門分野Ⅰの土台を受け、すべての看護領域における対象（小児・成人・老年・母性）と関わる看護領域であることから、それぞれの分野と接触するようにした。
6　統合分野は、屋根と壁をあらわし、それまでのすべての学びを統合し、看護実践能力を身につけられるように位置づけた。
7　屋根の上には、当校の校章を載せシンボルを強調した。
8　軒の四隅につけられた風鐸は、学生を現代社会が必要としている看護師として成長できるように導く目印とした。

灯台は水路を行く船を正しい方向に導く役割をもつ。住吉灯台を本校の構造図に生かしたことで、学生に実践力をもった自律した看護師となれるよう導き、地域の医療に貢献できる専門職として活躍できることを願う。


6 統合分野
在宅看護論
在宅看護論概論
在宅看護論方法論Ⅰ
在宅看護論方法論Ⅱ
在宅看護論実習
看護の統合と実践
看護統合Ⅰ
看護統合Ⅱ
看護統合Ⅲ
看護統合Ⅳ
統合実習
5 専門分野Ⅱ
精神看護学
精神看護学概論
精神看護学方法論Ⅰ
精神看護学方法論Ⅱ
精神看護学実習
小児看護学
小児看護学概論
小児看護学方法論Ⅰ
小児看護学方法論Ⅱ
小児看護学実習
成人看護学
成人看護学概論
成人看護学方法論Ⅰ
成人看護学方法論Ⅱ
成人看護学方法論Ⅲ
成人看護学実習
老年看護学
老年看護学概論
老年看護学方法論Ⅰ
老年看護学方法論Ⅱ
老年看護学実習
母性看護学
母性看護学概論
母性看護学方法論Ⅰ
母性看護学方法論Ⅱ
母性看護学実習
4 専門分野Ⅰ
基礎看護学
基礎看護学概論
基礎看護学方法論Ⅰ
基礎看護学方法論Ⅱ
基礎看護学方法論Ⅲ
基礎看護学方法論Ⅳ
基礎看護学方法論Ⅴ
基礎看護学実習
3 専門基礎分野
解剖生理学Ⅰ
解剖生理学Ⅱ
代謝栄養学
感染・免疫学
病理学
病態生理学Ⅰ
病態生理学Ⅱ
病態生理学Ⅲ
病態生理学Ⅳ
薬理学
現代医療論
公衆衛生
社会福祉
関係法規
2 基礎分野
論理学
教育学
情報科学
心理学
生涯発達心理学
人間関係論
人間と社会
倫理学
英語
中国語
体育
看専
6 統合分野
看護の統合と実践
在宅看護論
5 専門分野Ⅱ
母性看護学
小児看護学
成人看護学
老年看護学
精神看護学
4 専門分野Ⅰ
基礎看護学
3 専門基礎分野
2 基礎分野
1 准看護師教育

Ⅱ　教育目的・教育目標と各科目との関連

目的	教育基本法の精神に則り、学校教育法並びに保健師助産師看護師法の定めに従い、看護師として必要な知識・技術を教授し、地域に根ざした人間性豊かな専門職業人を育成する。

	目標　1	目標　2	目標　3	目標　4	目標　5	目標　6
教育目標	生命の尊厳と基本的人権をもとに、個人の信念や価値観を尊重できる感性豊かな人間性を養う。	人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を養う。	人々の健康と生活を、自然環境、社会・文化的環境とのダイナミックな相互作用の観点から理解する能力を養う。	健康上の課題を解決するために、科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。	保健・医療・福祉制度を理解し、チームの一員として他職種との調整・連携ができる基礎的能力を養う。	看護の向上を目指し、常に問題意識をもち、自ら学び続ける態度を養う。
関連科目	論理学 教育学 心理学 生涯発達心理学 人間関係論 人間と社会 倫理学 体育 英語 中国語 現代医療論 公衆衛生 社会福祉 関係法規 各看護学	教育学 心理学 生涯発達心理学 人間関係論 人間と社会 倫理学 体育 英語 中国語 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 各看護学	人間関係論 人間と社会 英語 中国語 感染・免疫学 病態生理学Ⅱ 病態生理学Ⅲ 現代医療論 公衆衛生 各看護学	論理学 教育学 情報科学 心理学 生涯発達心理学 人間関係論 人間と社会 解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 代謝栄養学 感染・免疫学 病理学 病態生理学Ⅰ 病態生理学Ⅱ 病態生理学Ⅲ 病態生理学Ⅳ 薬理学 各看護学	心理学 人間関係論 人間と社会 体育 現代医療論 公衆衛生 社会福祉 関係法規 各看護学	論理学 教育学 情報科学 倫理学 現代医療論 関係法規 各看護学

Ⅲ　年次別目標

教育目標	1年次	2年次	3年次
1　生命の尊厳と基本的人権をもとに、個人の信念や価値観を尊重できる感性豊かな人間性を養う。	・自己理解に努め、他者に関心をもつことができる。 ・社会人としての基本的行動がとれる。	・他者の価値観を受け入れ、円滑な人間関係を形成できる。	・生命の尊厳を基盤に、倫理に基づいた行動がとれる。 ・他者を思いやり、共感した行動がとれる。
2　人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を養う。	・人間を身体的・社会的精神的な存在であると理解できる。 ・人間のライフサイクル、成長発達が理解できる。	・看護の対象である人間の身体的・精神的・社会的情報を収集・統合できる。	・人間を統合的に捉え、看護を実践できる。
3　人々の健康と生活を自然環境、社会・文化的環境とのダイナミックな相互作用の観点から理解する能力を養う。	・地域で生活する人々の背景を知ることができる。 ・社会情勢や地域社会の変化に関心をもち、健康と生活の関連に気づくことができる。	・環境が人々の健康と生活に及ぼす影響を理解できる。	・人々の健康と生活に影響を与える環境に、働きかける基礎的能力を身につける。
4　健康上の課題を解決するために、科学的根拠に基づいた、看護が実践できる基礎的能力を養う。	・科学的根拠に基づいた問題解決技法がわかる。 ・科学的根拠に基づいた看護技術が理解できる。 ・自己の看護行為を振り返り、省察することができる。	・対象の特徴をふまえた問題解決技法を身につける。	・健康上の課題を解決するために、問題解決技法を用いて看護が実践できる基礎的能力を身につける。
5　保健・医療・福祉制度を理解し、チームの一員として他職種との調整・連携ができる基礎的能力を養う。	・保健・医療・福祉チームの中での看護師の果たす役割を認識することができる。 ・グループの一員としての責任と役割を果たすことができる。	・保健・医療・福祉制度を理解できる。 ・社会資源の活用と調整について考えることができる。 ・グループの一員として協調性をもち積極的な行動がとれる。	・対象の健康生活を支援するチームの一員としての役割を果たす基礎的能力を身につける。
6　看護の向上を目指し、常に問題意識をもち、自ら学び続ける態度を養う。	・自己の看護観を見つめなおすことができる。 ・学習習慣を身につける。	・他者の看護観を受け入れ、自己の看護観を深める。 ・問題意識をもって主体的に学習することができる。	・自己の看護観を明確にすることができる。 ・看護を追求する姿勢をもち、自己の課題を明らかにすることができる。

Ⅳ　教育課程編成における基本的な考え方

看護を取り巻く環境は、少子高齢社会、高度先進医療の進展、医療安全に関する意識の向上等大きく変化している。また、人々の価値観もさまざまで、看護に求められる社会のニーズも変化している。それに伴い看護教育には、科学的根拠に基づいた質の高い看護を提供できる専門職業人の育成が求められている。

一方、家族構成の変化や地域社会における人間関係の希薄化は、自己中心的で感性が乏しい人間を形成している。さらに情報機器の発達で、言語を用いたコミュニケーション能力の低下をきたしている。これらの現象は、いびつな人間関係を招いている。そのため、良好な人間関係の形成ができない人が増えており、看護学生にも同様な傾向がみられる。しかし、看護は、人間に関わる知識と技術であり、人と人との相互作用の行為である。そのため看護基礎教育では、コミュニケーション能力の強化と、他人を尊重できる倫理観の確立が求められている。

これらをふまえ、本校の教育課程では、社会の中の人間、環境と人間の関係をより深く理解し、感性豊かな人間として成長できること、准看護師で培った知識・技術をもっているという強みを生かすとともに、その強みを省察し、科学的な考えを養い、看護実践できる人材の育成を目指し構築した。

Ⅲ. 教育課程

1　基礎分野の考え方と科目構成及び内容

1）　基礎分野の考え方

基礎分野は、准看護師教育で培った知識・技術・倫理を土台に、専門基礎分野、専門分野の基礎として位置づける。

まず、看護の対象となる人間をより深く理解するために、人間のあり方と生活・社会との関係について学ぶ。特に、地域に根ざした看護師を育成するために、東西文化の交わる岐阜県西濃地域の環境や慣習の特徴と生活の実際について深く理解できる内容とした。そして、人間を大切に思う心を育み、対象の痛みや思いを受容できる感性を磨くとともに、自己の健康的な心身を作り上げることができるようにした。

次に、科学的根拠に基づく看護が提供できるように、その基盤となるコミュニケーション能力や論理的思考能力を高めるようにした。

さらに、情報交流都市という特徴から、在日外国人が多いため、コミュニケーションを図る基礎的能力を高めるため外国語を工夫した。

2）　基礎分野の科目構成及び内容

科学的思考の基礎の科目は、論理学、教育学、情報科学の３科目を設定した。

〔論理学〕　論理的思考を身につけ、様々な問題について議論することや論理性のある文章作成をすることで、看護における科学的な思考が高められることを目的としている。

〔教育学〕　教育の本質、目的、方法を学び人間形成における教育の機能について理解を深める内容とした。

〔情報科学〕　情報の管理やその利用について正しく理解するために情報を判断・整理し、処理する基本的な能力や情報活用能力を養う内容とした。

人間と人間生活の理解の科目は、心理学、生涯発達心理学、人間関係論、人間と社会、倫理学、外国語２科目、体育の８科目を設定した。

〔心理学〕　人間の基礎となる心の動きと行動との関係を理解するとともに、自己理解・他者理解を深める内容とした。

〔生涯発達心理学〕　人間のライフステージ別に、人生の課題や発達的な問題および支援を学び、発達的視座から身体的・精神的・社会的存在としての人間への理解を深める。

〔人間関係論〕　人間関係が希薄となり、対人関係技術が苦手な学生が増えていることや看護における人間関係能力が重要なことから、人間関係の基本を学び患者理解とともに自己理解を深める内容とした。

〔人間と社会〕　社会と人間との関係や社会における問題を学ぶとともに西濃地域で生活する人々の社会的・文化的特性と生活環境を学び、人間とその生活について理解を深める内容とした。

〔倫理学〕　倫理的思考を学ぶことで、人間とは何か、人間のあり方、善悪、道徳性を学び、人権の尊重に基づいた倫理観を培い、倫理的課題を理解する内容とした。

〔英語〕　視野を広め国際社会に対応し、看護の現場に役立つ基礎的コミュニケーション能力を養う。

〔中国語〕　西濃地域に多い在日外国人を理解するために中国語を学ぶ。

〔体育〕　心と身体を一体としてとらえ、健全な心身が人間に与える影響を健康・疾病・運動との関連より考え、自己の健康の保持・増進方法を考える。また、スポーツを通しチームワークや礼譲を学ぶ内容とした。

2　専門基礎分野の考え方と科目構成及び内容

1）　専門基礎分野の考え方

准看護師教育と基礎分野を土台に、人体を系統的に理解し、健康障害に関連した知識を深めるとともに、今までの医療従事者としての経験をふまえ、倫理的判断力を養う。

また、保健医療福祉に関連した制度や関連職種の役割を理解することで、人々の健康レベルに応じた社会資源が活用できる知識を深めることを目標にした。

2）　専門基礎分野の科目構成及び内容

本校では、上記の教育内容を教授するために計14教科（14単位315時間）を設定した。

「人体の構造と機能」では、人体を系統立てて理解できるように、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、代謝栄養学の３科目を設定した。

〔解剖生理学Ⅰ・Ⅱ〕　人体を構成する各器官の形態と機能を系統的に学ぶ内容とした。

〔代謝栄養学〕　生命の維持・成長発達に必要な栄養素と代謝のプロセスを学び、栄養のアセスメントの基礎を学ぶ。また、疾病の予防や治療における食事療法の基礎を学ぶ内容とした。

「疾病の成り立ちと回復の促進」では、人間に疾病と機能障害が発生する一連のプロセス、その原因、治療について知識を深める目的で、感染・免疫学、病理学、病態生理学Ⅰ～Ⅳ、薬理学の７科目を設定した。

〔感染・免疫学〕　感染と感染防御に関わる基礎知識を学ぶ内容とした。

〔病理学〕　疾病の原因や発生機序、形態・機能的変化についての基礎的知識を学ぶ内容とした。

〔病態生理学Ⅰ～Ⅳ〕　疾病により身体の正常な機能が破綻することで、身体内部が変化するプロセスを学ぶ内容とした。

〔薬理学〕　薬理学の基礎的知識と薬物療法を学ぶ。薬理作用・副作用を医薬品の安全対策と合わせて理解する内容とした。

「健康支援と社会保障制度」では、生命倫理に基づいた医療の役割や健康を維持・増進・回復できるように支援するための基礎的知識を学ぶ内容で、現代医療論、公衆衛生、社会福祉、関係法規の４科目を設定した。

〔現代医療論〕　医療の変遷から現代医療のかかえている問題を理解し、生命倫理を考える内容とした。

〔公衆衛生〕　健康の指標や保健統計を理解する中で、個々の生活習慣や価値観を重視し、あらゆる生活の場での人々の健康の保持・増進を支援するための保健活動を理解する内容とした。

〔社会福祉〕　生活者の健康を保障する社会の制度を理解し、それらを社会資源として活用する能力の基礎的知識として学ぶ内容とした。

〔関係法規〕　保健医療福祉に関する諸制度の概要を学び、また、看護師の役割が規定されている保健師助産師看護師法について理解する内容とした。

3　専門分野Ⅰの考え方と科目構成及び内容

1）　専門分野Ⅰの考え方

今、看護に求められているものの一つに、対象のＱＯＬ向上を目指し、療養生活支援の専門家として的確な看護判断を行い、適切な看護技術を提供するというものがある。そのためには、自律して看護実践ができる看護職の育成が求められる。

専門分野Ⅰでは、専門分野Ⅱの土台となり統合分野へと繋がる知識、技術を含み、看護師として倫理的判断力を養う内容とする。また、対象の安全・安楽・自立に向けての看護援助を行なうための基礎を学習し、さらに科学的根拠に基づいた看護援助が実施できるように演習内容を工夫した。

2） 基礎看護学の考え方と科目構成及び内容

基礎看護学は、看護を学ぶ上での基礎となるものである。また、基礎分野、専門基礎分野で学習した内容をもとに専門分野Ⅱと統合分野を支える土台になる。

本校の学生は、准看護師教育を終え、基礎看護技術についてのHOW TOは既習している。しかし、科学的根拠に基づく思考過程には至っていない。また、准看護師としての勤務をしているが、看護師としてのマネージメント能力は学習できていない。そのため、科学的知識の習得と、チーム医療の中で看護が果たす役割が理解できる学習内容が必要となってくる。

人の声に耳を傾け、また人の非言語的メッセージを受け止められる看護師を育成するために、基礎看護学では、コミュニケーション能力向上を目指し学内演習の強化を図る内容とした。

そこで、基礎看護学は、基礎看護学概論、基礎看護学方法論Ⅰから基礎看護学方法論Ⅴの６つの授業科目と基礎看護学実習で構成する。

基礎看護学概論では、看護とは何かを深めるために、看護の歴史、看護理論を学び、さらに、専門職業人としての倫理観を育む内容とした。

基礎看護学方法論Ⅰでは、共通基本技術として対象の理解をするための、コミュニケーション、フィジカルアセスメントと、医療安全、記録・報告を学習し、基礎看護学方法論Ⅱでは、日常生活の援助技術を、基礎看護学方法論Ⅲでは診療の補助技術を学習する。特に基礎看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、事例を交えながら学内技術演習を行い、対象に応じた援助技術を提供できる授業内容とした。

基礎看護学方法論Ⅳでは、基礎看護学から、各看護学へと移行できるように臨床場面での共通性を組み込みながら知識・技術を深められる内容とし、基礎看護学方法論Ⅴでは、看護実践能力の基礎として、看護の独自の機能を知るために看護過程を学ぶ。基礎看護学実習では、看護師教育での初めての臨床場面のため、新たな気持ちで対象を取り巻く環境を理解し、看護過程の基礎を展開する機会として位置付ける。

4　専門分野Ⅱの考え方と科目構成及び内容

1） 専門分野Ⅱの考え方

現在、高度化・複雑化している医療の中で、専門職である看護師に求められるものは、看護理論と技術を結びつけて、対象にあった看護を実践できる能力である。

したがって、専門分野Ⅱでは、看護の対象である人間をライフサイクルに沿って、小児期・成人期・老年期に区分し、看護の対象者を理解し、各期の特徴的な看護を学べる内容とした。また、母性看護学と精神看護学はすべてのライフサイクルに絡みあう領域として位置づけた。特に精神看護学では、対象の心の成長発達過程に関連する内容であるため、専門分野Ⅱを包括するように位置づけた。

⑴ 成人看護学の考え方と科目構成及び内容

成人期は、心身の機能の成熟期であり、成長・成熟・老化の過程をたどるライフサイクルの中で最も長く充実した時期である。成人期にある人は、人とのかかわりも広がり、家庭や職場・地域などで多様な役割をもち、社会に貢献している。

このような責任を担う社会生活の中で、ストレスが増大しやすい状況にあり、心のバランスを保つことが困難になりやすい。また、社会の生活様式の変化と個人の生活習慣が、がんによる死亡率の上昇、慢性疾患の増加を招くなど、成人の健康に大きな影響を及ぼしている。

成人看護学では、対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、成人期に生じやすい健康問題の予防と回復に向けて、科学的根拠に基づいた看護実践ができる基礎的能力を養うことをねらいとする。

科目の構成は、五つに分け、他の看護学より単位数を増やし、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ、成人看護学方法論Ⅱ、成人看護学方法論Ⅲ、成人看護学実習とした。それは、事例を通

して、経過別看護の充実・機器を用いた演習内容の充実を図ること、看護過程を独立させ思考過程を強化することをねらいとした。

成人看護学概論では、成人期の対象の特徴を理解し、成人保健の動向と社会の現状を学ぶ。そして、多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの考え方や方法を学習する。

成人看護学方法論Ⅰでは、急性期の経過をたどる対象及び家族に対して生命の脅威、また、心理的危機的状況からの回避及び早期回復に向けての援助方法を学習する。そして、急性期からのリハビリテーションを考える必要があるため、それらの経過に応じた看護を学ぶ内容とする。

成人看護学方法論Ⅱでは、慢性期・終末期にある対象の健康問題の改善及び生活の質を高めるための援助方法を学習する。慢性期では、対象がセルフコントロールできるように援助方法を学び、終末期では対象の人格・尊厳が保たれ、限られた時間をその人らしく生き、「生」を全うできるように支援するための知識・技術・態度を学習する。

成人看護学方法論Ⅲでは、社会的役割を担う対象が抱える健康問題の事例をもとに看護過程を展開する内容とした。

臨地実習では成人看護学で学んだ理論を基に知識・技術を統合し、対象を尊重した個別的な看護実践ができる能力を身につける。

⑵　老年看護学の考え方と科目構成及び内容

日本の少子高齢社会は世界でも例のない速さで進み続けている。高齢人口の増加は、急性疾患の拡大から慢性疾患の蔓延へと人々の健康問題をも変化させ、看護を必要としている高齢者を急増させた。それは医療費配分の変化や在宅看護の発展をもたらし、また介護問題や社会保障に対する課題を提起している。このような社会の現状は、高齢者がその人らしく生き抜くことに大きな影響を与え、高齢者のＱＯＬを妨げることにつながっている。

また、老年期は人間の発達段階におけるラストステージにあたり、さまざまな人生経験により人として完成し、いずれ穏やかな死を迎える段階にある。そして、老年期にある人は、本来人生の先輩として、誰もが尊敬されるべき対象である。しかし、高齢者は加齢に伴い様々な身体生理機能に変化をきたすとともに、精神・社会面の変化が生じることから、マイナスイメージをもたれやすい。また、近年の家族形態の変化や他者に対する無関心などにより健康に生きる高齢者のイメージをとらえられない人が増えている。さらに、当校の学生は、疾病や障害をもつ高齢者との関わりの中で、健康的な高齢者の姿がとらえられなくなっている状況がある。

そのため、老年看護学では健康的な高齢者の理解と老年観を育み、高齢者がその人らしく生きるための支援ができる能力を養うことが必要である。

科目の構成は、老年看護学概論、老年看護学方法論Ⅰ、老年看護学方法論Ⅱ、老年看護学実習とする。

老年看護学概論では、日本の高齢社会の現状における高齢者の生活を学ぶことやシルバー体験を行うことをきっかけに、長い人生を生き抜いた高齢者が尊重される存在であることを再認識させ、高齢者が生き生きと生活するための看護とは何かを考えることが出来るように工夫した。

老年看護学方法論Ⅰでは、高齢者の健康的な生活を支える援助方法と高齢者が来たしやすい症状や徴候に焦点を当てた援助方法を学ぶと共に、施設などの生活の場における看護の役割などを学べるよう構築した。また人生の終焉を迎える高齢者という観点からの高齢者の終末期看護に関する内容も加えた。

老年看護学方法論Ⅱでは、高齢者の特徴である老化と健康障害による影響を受けた高齢者に対する事例をもとに、看護展開する内容とした。

老年看護学実習では、老年看護学実習Ⅰで、施設での高齢者の生活と看護の役割を理解するために、介護老人保健施設と介護老人福祉施設における施設実習を行い、老年看護学実習Ⅱでは、健康障害をもつ高齢者の健康問題をとらえ、残存機能を生かしたその人なりのセルフケア能力を高める看護展開ができる実習とした。

⑶　小児看護学の考え方と科目構成及び内容

小児期は、成長･発達が著しく、人間形成に向けての大切な時期であるため、家族や社会によって擁護され、独立したひとりの人格としての尊重されなければならない。しかし、少子化、核家族化が進み、養育環境、養育者の価値観・育児観などが変化し、子どもの健全な成長・発達に影響を与えるようになった。そして、小児を取り巻く社会問題として、不登校、いじめ、虐待などがクローズアップされるようになってきた。

それらを踏まえて、小児看護学では、小児の成長・発達、各期の特徴・遊びについて理解し、小児を取り巻く状況を学ぶ必要がある。その上で、小児の主要な疾患、障害の経過、症状、検査･処置・治療について学ぶことで、健康上の課題を明確に判断し、その児に適した看護を実践する必要がある。

科目の構成は、小児看護学概論、小児看護学方法論Ⅰ、小児看護学方法論Ⅱ、小児看護学実習とする。

小児看護学概論では、小児の成長・発達、各期の特徴、遊び、そして小児を取り巻く状況とその動向などを学ぶ。

小児看護学方法論Ⅰでは、小児の主要な疾患、障害を理解し、その経過、症状、検査・処置・治療に応じた特有な看護を学ぶ。

小児看護学方法論Ⅱでは、事例を通して、小児に特有な看護過程を学ぶ。

小児看護学実習は２つに分ける。小児看護学実習Ⅰでは、子どもに接する機会が少ないため、地域で生活する健康な子どもとかかわる機会を設け、健康な小児の成長・発達を学ぶ。そして小児看護学実習Ⅱでは、健康障害を抱えた小児とその家族への看護の実際を学ぶこととした。

⑷　母性看護学の考え方と科目構成及び内容

女性を取り巻く社会の状況は、高学歴化、社会進出、晩婚・非婚化など、女性の生き方の自由化や家族形態の多様化をもたらし、家族機能の低下の一因となっている。また、生殖先端医療の進歩は、生命誕生に関わる倫理という新たな課題を生み出している。さらに、思春期における健康問題、育児不安や幼児虐待をはじめとする心の問題、分娩場所の減少に伴う、妊娠出産への安全性と快適性の確保に関する環境問題などが生じている。そこで、妊産褥婦および新生児への看護に限らず、女性の一生を通じた健康の維持・増進、疾病の予防を目的とした看護が求められている。

これらのことを踏まえ、幅広い年齢層で、性役割や家族機能、生命倫理に対する考え方も多様な本校の学生に対し、母性看護学では、妊産褥婦および新生児への看護だけでなく、女性のライフサイクル各期における特性を理解し、対象自身が健康を維持増進できるような看護が実践できる能力を養うことをねらいとした。また、生命誕生や新しい家族の誕生の時期に関わるため、生命の神秘性や家族や親子の絆に触れることも多く、生命の倫理観や母性観、父性観について考える機会としたい。

科目の構成は、母性看護学概論、母性看護学方法論Ⅰ、母性看護学方法論Ⅱ、母性看護学実習とする。

母性看護学概論では、母性の特徴を理解し、女性のライフサイクルを健全に送るために必要な看護について学習する。また、母性看護における倫理について学習する内容とした。

母性看護学方法論Ⅰでは、正常な経過にある妊産褥婦の特徴を理解し、その看護について学習する内容とした。また、臨地で実践する看護を体験的に学習できるよう授業方法に演習をとりいれる内容とした。

母性看護学方法論Ⅱでは、ハイリスクな状態にある妊産褥婦の特徴を理解し、その看護について学習する。また、正常な妊娠・分娩経過をたどる褥婦の事例をもとに看護展開方法を学習する内容とした。

母性看護学実習では、妊産褥婦とその家族を理解し、対象に対して適切な援助ができる能力を

養う実習とした。

⑸　精神看護学の考え方と科目構成及び内容

家族構成の変化・地域力の減退・メディアの発展により、小児期から人との繋がり、社会との繋がりが変わってきた。生まれてから死を迎えるまで、人は社会でさまざまな経験を積み重ねながら生きている。そうした社会の変化は、人間に大きな影響を与え、『ストレス社会』『コミュニケーション様式の変化』をもたらした。そして、その変化は心に大きな影響を与え、精神の健康問題を抱える人は、年々増加し、低年齢者の発症も多くみられるようになった。

看護では、多様化する人間のニーズ、対象の生育歴から現在・未来の環境までを考え、対応できる力が必要となる。特に精神看護学では、すべてのライフサイクルにある人間の生理的側面・心理学的側面・社会的側面を捉え、身体の健康と心の健康を切り離すことなく、現代社会における精神の健康の保持・増進ができる看護実践能力を養う。さらに、精神の健康問題を抱える人の理解を深め、その人の生活が維持・向上できるよう働きかける基礎的能力を学ぶ必要がある。

科目の構成は、精神看護学概論、精神看護学方法論Ⅰ、精神看護学方法論Ⅱ、精神看護学実習とする。

精神看護学概論では、精神看護の役割と、ライフサイクルにおけるストレス・危機・防衛を理解し、精神看護の実践に必要な基礎的知識を学ぶ。そして、精神医療・保健・看護の歴史から患者の人権や看護倫理、今後の課題を考える内容とした。

精神看護学方法論Ⅰでは、精神の障害をもつ対象の特徴を学び、治療的関わりや生活支援など、他職種との関わりも含め、看護者として必要なアプローチを理解する内容とした。

精神看護学方法論Ⅱでは、看護の対象である人間と看護者の関係に重点を置き、自己理解・他者理解ができる内容とした。そして、精神に障害をもつ対象に必要な看護過程を展開する内容とした。

精神看護学実習では、精神に障害をもつために、日常生活や対人関係に問題を抱えている対象へのかかわりを通して、その人らしい生活を送るための援助の実際ができるようにした。また、精神保健福祉に関連した社会資源の理解と今後の課題について考えることができるようにした。

5　統合分野の考え方と科目構成及び内容

1）　統合分野の考え方

現在の医療現場は、医療費の増大、慢性疾患の増加を招き、在院日数の短縮などから、看護を取り巻く環境は急激に変化している。そのため、看護師には、あらゆる健康レベルにある全ての対象に対し、様々な場での看護実践能力が求められている。

しかし、新人看護師には、多重課題等に対する看護実践能力の基礎が身についていない現状がある。その原因の一つとして、机上の学びと、臨地実習での学びには限界があり、臨床での実際との解離があると考えた。

そのため統合分野では、様々な看護の場を想定し、その対象の状況に応じて知識・技術を統合させることで、看護実践能力の基礎を学習する内容とした。

以上のことから、統合分野は基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱの屋根とし、基礎に繋がる全ての教育内容を包括できるよう位置づけた。

⑴　在宅看護論の考え方と科目構成及び内容

急激な高齢化による疾病構造の変化や介護ニーズの増大は、医療保険・介護保険制度等の改革をもたらし、施設中心から在宅重視への政策転換につながり、在宅に医療依存度の高い療養者が増加した。

また、在宅看護に求められる対象のニーズは、健康や生活のＱＯＬに対する価値観の変化に伴い、住み慣れた環境で生活を送りたい、大切な人々に囲まれながら最期を迎えたい等のように、多様化・専門化・複雑化してきている。

在宅看護は、年齢や疾病・障害の種類、健康レベルもさまざまな対象が、住み慣れた自宅やそれに準じた環境で、自分らしく望む生活を維持・向上できるよう、保健・医療・福祉、さらに学校・職場などとの連携・協働しながら支援することである。

これらを踏まえ、在宅看護論では、在宅看護の対象の特徴や在宅療養を支える家族を理解し対象の自己決定権を尊重しながら、健康の保持増進、疾病の予防と治療、健康の回復、安らかな死に向けての看護が実践できる基礎的能力を養う内容とする。

また、生活の場の特性を学び、在宅療養生活を支える社会資源と関係職種の役割を理解し、それらを調整する看護師のマネジメント能力の必要性を学ぶ。居宅訪問という特徴をもつ在宅看護では、プライバシーの保持や人間関係に影響を与える社会人としてのマナーを守ることも重要であり、対象の人権や倫理について学ぶ内容とした。

科目の構成は、在宅看護論概論、在宅看護論方法論Ⅰ、在宅看護論方法論Ⅱ、在宅看護論実習とする。

在宅看護論概論では、在宅看護が必要とされる背景と基本理念、在宅看護の対象、在宅看護の特徴、在宅療養を支える社会資源などを学習する。また、在宅看護における倫理、在宅におけるリスクマネジメントや災害時の看護など在宅看護における安全性の確保についても学習する。

在宅看護論方法論１では、在宅看護に必要な日常生活援助技術と医療処置技術を学習する。また、終末期ケアなど在宅で療養する対象の健康状態に応じた看護を学習する内容とする。

在宅看護論方法論Ⅱでは、事例を用い、療養者とその家族の生活と価値観、自己決定、家族介護力、社会資源の活用に着目した看護過程の展開について学ぶ内容とする。

在宅看護論実習Ⅰでは、在宅療養を支える施設の役割と看護について、在宅看護論実習Ⅱでは在宅で療養している療養者とその家族を理解し対象に応じた援助の実際を学ぶこと、社会資源の活用や関係職種との連携・協働の実際を通して重要性や継続看護の実際を学び、退院指導・退院調整に活かせる視点を養う実習とした。

⑵　看護の統合と実践の考え方と科目構成及び内容

従来の看護基礎教育では、思考過程を踏まえた科学的看護実践力を重視してきた。しかし、目まぐるしく医療が展開される臨床現場にリアリティショックを感じ、大きなストレスを抱えることで、人々が求める看護に応えることができなくなる新人看護師が多くなってきた。そこで、医療現場の高度化、複雑化、多様化に対応できる専門職業人の育成が必要となったため、思考過程をふまえた看護を提供する力だけではなく確実な看護技術を修得し、臨床現場で即戦力として活躍できる能力の育成を目指そうと考えた。

本校の学生の多くは、准看護師としてさまざまな臨床現場での経験をもっており、自己に与えられた多くの業務を実践する力は身につけている。しかし、看護マネジメントの体験は少なく、その時々で看護の優先度を判断し、多くの課題を実践する力は身についていない。このような学生の背景を考えて、各看護学で学んだ知識・技術を統合させることをねらいとした。さらに、拡大しつづける看護活動の場への理解が深まるような内容とした。

科目の構成は、看護統合Ⅰ、看護統合Ⅱ、看護統合Ⅲ、看護統合、看護統合実習とした。

看護統合Ⅰでは、看護管理とは何かを考え、組織における看護師の役割を理解するとともにリーダーシップ等について考える内容とした。

看護統合Ⅱでは、医療事故に対しての社会的関心の高まりや、医療事故の増加の背景を知り、医療安全に対応できる知識を身につけ。看護業務と医療事故の構造を理解した上で、事故防止の方法を学ぶ内容を組み入れた。災害看護では、多発している自然災害や人為的災害に対し順応できる必要な知識と基礎的技術とを学び、災害時における看護師の役割を学ぶ内容とした。また国際社会における現状を学び、保健医療福祉分野における国際協力の必要性、看護師として広い視野に基づき諸外国との協力を考えることができる内容とした。

看護統合Ⅲでは、あらゆる健康レベルにある複数の対象の看護マネジメントができるような工

夫をし、臨床現場に対応できる能力を習得する内容とした。また卒業前の統合技術として、特に安全面をとらえた技術の習得を目指した演習を組み入れる内容とした。

看護統合Ⅳでは、看護の専門性と看護研究の基礎的知識を学び、研究的態度を身につけることができる内容とした。

統合実習では、複数課題への取り組みを通し、看護実践能力を高めるとともに、夜間実習などを通じ臨床に適応できるような体験をする内容とした。また論証での看護管理の実際を学び、さらに看護をマネージメントする実際を学び体験することで、その必要性と重要性が理解できる内容も加えた。

6　教科外活動

学習目的：教科外活動を通して、主体性、創造性、協調性を養う。また、自己発見や個々の役割を認識する中で、豊かな人間性を養う機会とする。

※数字は時間数

項　目	1年次	2年次	3年次	小計	目　　標
入学式・始業式	4	4	4	12	本校の学生としての自覚を持ち、学ぶ姿勢を養う動機づけをする。
ガイダンス	8	2	2	12	学校の概要や教育理念、履修内容及び方法を理解するとともに、学習の動機づけをする。
新入生歓迎球技大会	4	4	4	12	スポーツを楽しみ健全な心身を育成するとともに、新入生を交えて、学生相互、教職員との交流を通し連帯感や親睦を図る。
健康診断	4	4	4	12	自己の健康状態を知り、健康管理の意識を高める。
防災訓練	2	2	2	6	消火方法、避難方法などを身につけるとともに、防災に対する意識を高める。
卒業生送別会	2	2	2	6	学生の主体性・協調性・創造性を培うとともに、卒業生の卒業を祝い、よき思い出をつくる。
卒業式	4	4	4	12	看護基礎教育を終了し、看護を担う専門職業人としての決意を新たにする。
終業式	1	1		2	自己を振り返り、本校の学生としての自覚と学ぶ姿勢を養う動機づけをする。
ＨＲ 他					学生間の交流を図り、ともに考え学級づくりを図る。
実習オリエンテーション 実習総括					実習全体像を把握し、実習の心構えと意欲を持つ。また、看護実践の評価を共有し、自己の成長につなげる。
国家試験対策					

7　教育課程および教育計画

区分	教育内容	教科目	単位数	時間数	施行年次及び時間数 1	2	3	期間
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	30			令和４年11月～令和５年２月
		教育学	1	30		30		令和５年４月～令和５年７月
		情報科学	1	30		30		令和５年10月～令和５年12月
	人間と生活・社会の理解	心理学	1	30	30			令和４年４月～令和４年７月
		生涯発達心理学	1	30	30			令和４年８月～令和４年12月
		人間関係論	1	30	30			令和４年９月～令和４年12月
		人間と社会	1	30	30			令和４年４月～令和４年７月
		倫理学	1	15	15			令和４年５月～令和４年７月
		英語	1	30	30			令和４年８月～令和４年12月
		中国語	1	15	15			令和５年１月～令和５年３月
		体育	1	45	45			令和４年４月～令和４年７月
	小　計		11	315	255	60		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	30	30			令和４年４月～令和４年７月
		解剖生理学Ⅱ	1	30	30			令和４年５月～令和４年７月
		代謝栄養学	1	30	30			令和４年９月～令和４年12月
	疾病の成り立ちと回復の促進	感染・免疫学	1	15	15			令和５年１月～令和５年３月
		病理学	1	15	15			令和４年５月～令和４年７月
		病態生理学Ⅰ	1	30	30			令和４年11月～令和５年３月
		病態生理学Ⅱ	1	30	30			令和４年９月～令和４年11月
		病態生理学Ⅲ	1	30	30			令和４年９月～令和４年11月
		病態生理学Ⅳ	1	15	15			令和５年１月～令和５年３月
		薬理学	1	30		30		令和５年４月～令和５年７月
	健康支援と社会保障制度	現代医療論	1	15		15		令和５年４月～令和５年６月
		公衆衛生	1	15		15		令和５年12月～令和６年３月
		社会福祉	1	15		15		令和５年12月～令和６年３月
		関係法規	1	15			15	令和６年４月～令和６年５月
	小　計		14	315	225	75	15	
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30	30			令和４年４月～令和４年７月
		基礎看護学方法論Ⅰ	1	30	30			令和４年４月～令和４年７月
		基礎看護学方法論Ⅱ	1	30	30			令和４年７月～令和４年11月
		基礎看護学方法論Ⅲ	1	30	30			令和４年12月～令和５年３月
		基礎看護学方法論Ⅳ	1	30	30			令和４年８月～令和４年12月
		基礎看護学方法論Ⅴ	1	30	30			令和４年12月～令和５年３月
		基礎看護学実習	2	90		90		令和６年１月～令和６年２月
	小　計		8	270	180	90		
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	30	30			令和４年11月～令和５年３月
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30		30		令和５年５月～令和５年７月
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30		30		令和５年４月～令和５年７月
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30		30		令和５年８月～令和５年10月
		成人看護学実習	2	90			90	令和６年５月～令和６年11月
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	30			令和４年９月～令和４年12月
		老年看護学方法論Ⅰ	1	30		30		令和５年４月～令和５年５月
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30		30		令和５年５月～令和５年７月
		老年看護学実習	2	90			90	令和６年５月～令和６年11月
	小児看護学	小児看護学概論	1	30		30		令和５年４月～令和５年７月
		小児看護学方法論Ⅰ	1	30		30		令和５年８月～令和５年10月
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30		30		令和５年10月～令和５年12月
		小児看護学実習	2	90			90	令和６年５月～令和６年11月

区分	教育内容	教科目	単位数	時間数	施行年次及び時間数			期　　間
					1	2	3	
専門分野Ⅱ	母性看護学	母性看護学概論	1	30		30		令和５年４月～令和５年７月
		母性看護学方法論Ⅰ	1	30		30		令和５年９月～令和５年12月
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30		30		令和５年12月～令和６年３月
		母性看護学実習	2	90			90	令和６年５月～令和６年11月
	精神看護学	精神看護学概論	1	30		30		令和５年５月～令和５年７月
		精神看護学方法論Ⅰ	1	30		30		令和５年８月～令和５年10月
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30		30		令和５年10月～令和５年12月
		精神看護学実習	2	90			90	令和６年５月～令和６年11月
	小　　計		26	930	60	420	450	
統合分野	在宅看護論	在宅看護論概論	1	30		30		令和５年10月～令和５年12月
		在宅看護論方法論Ⅰ	1	30		30		令和５年12月～令和６年３月
		在宅看護論方法論Ⅱ	1	30			30	令和６年４月～令和６年５月
		在宅看護論実習	2	90			90	令和６年５月～令和６年11月
	看護の統合と実践	看護統合Ⅰ	1	15		15		令和５年11月～令和５年12月
		看護統合Ⅱ	1	30		30		令和６年１月～令和６年３月
		看護統合Ⅲ	1	30			30	令和６年４月～令和６年５月
		看護統合Ⅳ	1	15		15		令和５年９月～令和５年11月
		統合実習	2	90			90	令和６年12月
	小　　計		11	360		120	240	
合　　計			70	2190	720	765	705	

8　学科進度表

区分	科目	単位数	学年 月 / 時間	1年次 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	2年次 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	3年次 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
基礎分野	論理学	1	30								←				→																								
	教育学	1	30													←				→																				
	情報科学	1	30																			←				→													
	心理学	1	30	←				→																															
	生涯発達心理学	1	30						←				→																										
	人間関係論	1	30						←				→																										
	人間と社会	1	30	←				→																															
	倫理学	1	15		←			→																															
	英語	1	30				←					→																											
	中国語	1	15										←		→																								
	体育	1	45	←				→																															
	小　計	11	315	9単位（255時間）												2単位（60時間）																								
専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ	1	30	←				→																															
	解剖生理学Ⅱ	1	30		←			→																															
	代謝栄養学	1	30						←				→																										
	感染・免疫学	1	15										←		→																								
	病理学	1	15		←			→																															
	病態生理学Ⅰ	1	30								←				→																								
	病態生理学Ⅱ	1	30						←			→																											
	病態生理学Ⅲ	1	30						←			→																											
	病態生理学Ⅳ	1	15										←		→																								
	薬理学	1	30													←				→																		
	現代医療論	1	15													←			→																			
	公衆衛生	1	15																					←			→											
	社会福祉	1	15																					←			→											
	関係法規	1	15																									←		→								
	小　計	14	315	9単位（225時間）												4単位（75時間）												1単位（15時間）											
専門分野Ⅰ	基礎看護学概論	1	30	←				→																															
	基礎看護学方法論Ⅰ	1	30	←				→																															
	基礎看護学方法論Ⅱ	1	30				←				→																												
	基礎看護学方法論Ⅲ	1	30									←			→																								
	基礎看護学方法論Ⅳ	1	30					←				→																											
	基礎看護学方法論Ⅴ	1	30									←			→																								
	基礎看護学実習	2	90																						←		→												
	小　計	8	270	6単位（180時間）												2単位（90時間）																								
専門分野Ⅱ	成人看護学概論	1	30								←				→																								
	成人看護学方法論Ⅰ	1	30														←		→																				
	成人看護学方法論Ⅱ	1	30													←			→																				
	成人看護学方法論Ⅲ	1	30																	←		→																
	成人看護学実習	2	90																										←						→				
	老年看護学概論	1	30						←			→																											
	老年看護学方法論Ⅰ	1	30													←	→																					
	老年看護学方法論Ⅱ	1	30														←		→																				
	老年看護学実習	2	90																										←						→				
	小児看護学概論	1	30													←			→																				
	小児看護学方法論Ⅰ	1	30																	←		→																
	小児看護学方法論Ⅱ	1	30																			←		→														
	小児看護学実習	2	90																										←						→				
	母性看護学概論	1	30													←			→																				
	母性看護学方法論Ⅰ	1	30																		←		→															
	母性看護学方法論Ⅱ	1	30																				←		→													
	母性看護学実習	2	90																										←						→				
	精神看護学概論	1	30														←		→																				
	精神看護学方法論Ⅰ	1	30																	←		→																
	精神看護学方法論Ⅱ	1	30																			←		→														
	精神看護学実習	2	90																										←						→				
	小　計	26	930	2単位（60時間）												14単位（420時間）																								
統合分野	在宅看護論概論	1	30																																				
	在宅看護論方法論Ⅰ	1	30																																				
	在宅看護論方法論Ⅱ	1	30																																				
	在宅看護論実習	2	90																																				
	看護統合Ⅰ	1	15																																				
	看護統合Ⅱ	1	30																																				
	看護統合Ⅲ	1	30																																				
	看護統合Ⅳ	1	15																																				
	統合実習	2	90																																				
	小　計	11	360													5単位（120時間）												6単位（240時間）											
総　計		70	2190	26単位（720時間）												27単位（765時間）												17単位（705時間）											

Ⅳ．教育内容

１．基礎分野

１）論理学　・・・・・・・・・　23

２）教育学　・・・・・・・・・　24

３）情報科学　・・・・・・・・・　25

４）心理学　・・・・・・・・・　26

５）生涯発達心理学　・・・・・・・・・　27

６）人間関係論　・・・・・・・・・　29

７）人間と社会　・・・・・・・・・　30

８）倫理学　・・・・・・・・・　32

９）英語　・・・・・・・・・　33

10）中国語　・・・・・・・・・　34

11）体育　・・・・・・・・・　35

分野	基礎分野	授業科目	論理学	単位数	1	時期	1年次 後期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　論理的な文章の作成による表現方法を身につける。 目標　1　文章作成の筋道を理解し、それを身につける必要性がわかる。 2　文章により自己の主張を論理的にすすめる方法がわかる。 3　論理的に文章を書くための表現方法や文章構成を習得する。 4　論理学の知識を活用し、論文作成ができる。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜論理的な文章を書く技術＞ ・論理性のある文章を書くための表現方法や文章構成を学ぶ。	1）論理的な文章 (1)　文と文章 (2)　話し言葉と書き言葉の違い 2）文節と文成分 (1)　文節と文成分とは	講義	非常勤講師
2				
3		1）文の種類（構造） (1)　文の構造とは (2)　主観的な文章と客観的な文章 (3)　二義的な文、ねじれ文		
4				
5		1）文の種類（意味） (1)　事実文と意見文 2）文の接続 (1)　文と文の関係 (2)　接続関係と接続語の正しい使い方		
6				
7		1）論理的な文章の作成 (1)　文章作成の実際 (2)　指示語を使った文章作成の実際		
8	＜論文作成＞ ・与えられた課題を論理学の知識を活用し、論文作成する。	1）演習の進め方 2）課題の提示、選択 3）文献検索 4）論文作成	講義 演習 （14ｈ）	非常勤講師
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15	試験		筆記試験 小論文 作成	

評価方法	筆記試験、レポート
参考文献と資料	
備　考	

分野	基礎分野	授業科目	教育学	単位数	1	時期	2年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	
目的	教育の本質、目的、方法を理解し、人間形成における教育の機能について学ぶ。
目標	1　人間にとっての教育の意味を理解する。 2　教育の目的・影響因子・評価・方法の基本について理解する。 3　現代の教育における問題について考える。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜人間の成長と教育の意義＞ ・人間の成長にとっての教育の意義と機能を理解する。	1）人間の成長・発達と学習 2）人間形成と教育 3）教育力を左右する条件 4）教育の種類	講義	非常勤講師
2	＜教育の目的＞ ・教育目的の考え方がわかる。	1）教育目的の考え方 ⑴　教育目的としての人間 ⑵　教育目的における個人と社会 ⑶　教育の目的と目標		
3 4 5	＜教育に影響を与える諸条件＞ ・教育効果に影響を与える背景について理解できる。	1）教育に影響を与える条件 2）教育効果を高める関わり ⑴　動機づけなど ⑵　構成的グループ・エンカウンター		
6	＜教育評価＞ ・教育評価の方法がわかる。	1）教育評価とは 2）教育評価の方法		
7	＜人権と教育について＞ ・人間の人権と教育について理解する。	1）基本的人権について		
8 9 10 11	＜教育の方法＞ ・教育の基本的方法について理解できる。	1）教育方法の諸類型 2）教育指導のありかた ⑴　読書教育		
12 13 14	＜今を生きる人々と教育問題＞ ・現代の教育における問題を考える。	1）教育をめぐる問題 2）これからの社会と教育		
15	まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	看護のための教育学　医学書院
備考	

分野	基礎分野	授業科目	情報科学	単位数	1	時期	2年次 後期
				時間数	30		

目的・目標	目的　情報処理システムについて学び、コンピューターの基本的操作と活用方法を習得する。 目標　1　情報科学の基本的理論を学ぶ。 2　コンピューターの機構・特性を理解し、基本的な操作方法を習得する。 3　情報化社会における個人情報保護やセキュリティ、情報の取り扱いについて理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜情報科学の基礎＞ ・情報科学に関する基本的考え方を学ぶ。	1）情報科学とは ⑴　情報科学の考え方	講義	非常勤講師
2	＜情報化社会＞ ・情報ネットワーク社会の特質とそれが社会及び人間に及ぼす影響について学ぶ。 ・情報の取り扱いに関する考え方とその方法について学ぶ。	1）情報ネットワーク社会 ⑴　情報ネットワーク社会の変革 ①　情報社会システム ⑵　情報ネットワーク社会の展望 2）情報の取り扱いについて ⑴　必要な情報の獲得 ⑵　個人情報保護と著作権 ⑶　セキュリティ		
3	試験・まとめ		筆記試験	
4	＜コンピューターの基礎知識＞ ・コンピューターの特徴を理解し、基礎的操作を習得する。	1）コンピューターのしくみと基本ソフト（OS）に関する知識 2）ワープロ・ソフトの基本操作 3）表計算ソフトの基本操作 4）パワーポイントの基本的操作	講義 演習 （10ｈ）	非常勤講師
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14	まとめ			
15	試験（1ｈ）		実技試験	

評価方法	筆記試験、実技試験、演習の学習姿勢
参考文献と資料	
備考	

分野	基礎分野	授業科目	心理学	単位数	1	時期	1年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　人間の心理と思考及びそのメカニズムを理解し、人間の行動との関連について知る。 目標　1　人間の心理や思考の仕組みについて理解する。 2　人間の心理と行動についての関係がわかる。 3　問題行動への対応について学ぶ。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜心理学とは＞ ・人間理解のための心理学を学ぶ意味を理解する。	1）心理学とはどのような学問か 2）心理学の歴史	講義	非常勤講師
2	＜感覚・知覚の心理＞ ・感覚知覚について理解する。	1）感覚 2）知覚		
3	＜記憶の心理＞ ・記憶の仕組みが理解できる。	1）記憶のしくみ 2）日常記憶 3）高齢者の記憶		
4 5	＜感情・動機の心理＞ ・感情や動機づけについて理解できる。	1）感情・情緒 2）動機・欲求		
6 7	＜性格・知能の心理＞ ・性格形成とその障害、知的機能について理解できる。	1）性格に関する概念と用語 2）性格理論 3）パーソナリティーの障害と成熟 4）知的機能と創造性		
8 9	＜社会・集団の心理＞ ・社会集団における心理や社会的態度について理解する。	1）対人認知 2）社会的態度 3）社会的スキル 4）集団の心理		
10 11	＜健康の心理と人間理解＞ ・人間の認知と行動の関連について理解できる。	1）人間行動の理解と心理学 2）ストレス理論 3）主観的統制感と健康		
12 13 14	＜行動する人間の理解＞ ・人間の行動のとらえ方を学ぶ。 ・心問題行動の対応について学ぶ。	1）行動の科学：行動とは 2）行動の科学：原因の考え方 3）行動科学の実践 (1)　問題行動を改善するには (2)　ヒューマンエラーについて		
15	まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	看護学生のための心理学　医学書院
備　考	

分野	基礎分野	授業科目	生涯発達心理学	単位数	1	時期	1年次 後期
				時間数	30		

目的・目標	目的　人間のライフサイクルにおける発達を心理学的な視点から捉えて理解する。 目標　1　発達にかかわる基本概念を理解する。 2　人間の発達を心理学的視点から学ぶ。 3　誕生から老年期にいたる各ライフステージの心身の発達の特徴および問題を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2	＜人間と発達＞ ・発達心理学に関する基礎的知識を学ぶ。	1）発達の定義・原理 2）発達に影響を及ぼす因子	講義	非常勤講師
3	＜自我の発達＞ ・理論を通じ自我の発達について理解する。	1）フロイトの発達理論 2）エリクソンの発達理論		
4	＜認知の発達＞ ・理論を通じ認知の発達について理解する。	1）ピアジェの発達理論		
5	＜愛着の発達＞ ・理論を通じ愛着の発達について理解する。	1）ボウルビィの発達理論 2）ホスピタリズムと母性剥奪		
6	＜言語の発達＞ ・言語の発達について理解する。	1）言語の発達 2）言語の機能		
7 8	＜発達理論と発達課題＞ ・様々な発達理論と発達課題について学ぶ。	1）レビンソンの発達理論 2）ハヴィガーストの発達理論と発達課題		
9	＜胎児期の心と体＞	1）胎児期の心と身体の特徴 2）発達に関わる問題と発達に影響を及ぼす因子 3）発達に必要な支援		
10 11	＜乳幼児期の心と体＞ ・乳幼児期・幼児期の発達の特徴と健康上の問題を理解する。	1）乳幼児の心と身体の特徴 2）身体・心理・社会的側面の発達 3）発達に関わる健康上の問題 4）発達に必要な支援		
12	＜児童期＞ ・児童期の発達の特徴と健康上の問題を理解する。	1）児童期の心と身体の特徴 2）身体・心理・社会的側面の発達 3）発達に関わる健康上の問題 4）発達に必要な支援		
13	＜思春期・青年期＞ ・思春期青年期の発達の特徴と健康上の問題を理解する。	1）思春期・青年期の心と身体の特徴 2）身体・心理・社会的側面の発達 3）発達に関わる健康上の問題 4）発達に必要な支援		

14	＜成人期の特徴＞ ・成人期の発達の特徴と健康上の問題を理解する。	1）成人期の心と身体の特徴 2）身体・心理・社会的側面の発達 3）発達に関わる健康上の問題 4）発達に必要な支援	講義	非常勤講師
	＜老年期の特徴＞ ・老年期の発達の特徴と健康上の問題を理解する。	1）老年期の心と身体の特徴 2）身体・心理・社会的側面の発達 3）発達に関わる健康上の問題 4）発達に必要な支援		
15	まとめ（1 h）・試験（1 h）		筆記試験	
評価方法	筆記試験			
参考文献と資料	看護のための人間発達学，医学書院			
備　　考				

分野	基礎分野	授業科目	人間関係論	単位数	1	時期	1年次 後期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　人間関係に関連する知識を学び、人間関係作りの基礎について理解する。 目標　1　人間関係の基本的意義について理解する。 2　人間関係に影響を与える条件を理解する。 3　人間関係構築に必要なコミュニケーションの基本的技法がわかる。 4　人間関係にもとづく心理療法について学ぶ。 5　自己理解を深めることで、人間関係の形成に役立てることができる。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜人間存在と人間関係＞ ・人間関係の基本的意義を理解する。	1）人間関係の基本的意義	講義	非常勤講師
2	＜人間関係の形成＞ ・人間関係に影響を与える諸条件について学ぶ。	1）人間関係形成に影響を与える条件 ⑴　言葉の発達 ⑵　価値観の影響 ⑶　思い込みの影響		
3				
4				
5	＜コミュニケーション＞ ・人間関係構築のためのコミュニケーションの実際を理解する。	1）コミュニケーションの基本概念 2）コミュニケーションの発達史 3）コミュニケーションの実際	講義 演習 （4h）	
6				
7				
8	＜カウンセリング＞ ・カウンセリングについての基礎を理解する。	1）カウンセリングとは 2）カウンセリングの基本的技法	講義	
9				
10	＜心理的問題と心理療法＞ ・人間関係にもとづく心理療法について学ぶ。	1）心理的問題 2）心理療法 ⑴　来談者中心療法 ⑵　精神分析療法 ⑶　行動療法　など		
11				
12	＜自己理解＞ ・様々な取り組みを通して、自己理解を深めることで、人間関係形成に役立てる。	1）「自己」を知る。 2）感受性訓練 ⑴　自己を感じる、他者を感じる ⑵　関係性を味わう ⑶　集団を感じ	講義 演習 （4h）	
13				
14				
15	まとめ（1h）・試験（1h）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　基礎分野　人間関係論　　医学書院
備　考	

分野	基礎分野	授業科目	人間と社会	単位数	1	時期	1年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	目的　社会や地域環境における様々な知識を学び、人間やその生活への理解を深める。 目標　1　社会と人間の関係性について学ぶ。 2　社会における様々な問題やその対応について学び、人間の生活への影響について理解する。 3　西濃地域の歴史と文化・慣習やその生活について学び、看護の対象である人間やその生活に対する理解を深める。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2	＜人間と社会＞ ・社会の中における人間とは何かを学ぶ。 ・人間と社会の関係性について学ぶ。	1）社会学とは 2）人間とは何か 3）社会的弱者とは 4）社会の中の人間	講義	非常勤講師
3 4 5	＜家族の構造と機能＞ ・家族の変遷と現代家族が抱える問題について学ぶ。	1）家族の機能と構造 2）家族の歴史的発展 ⑴　前近代家族 ⑵　近代家族 ⑶　現代家族 3）現代家族における諸問題 ⑴　結婚、晩婚化、ＤＶなど		
6	＜地域社会＞ ・地域社会における生活の現状とそこでの問題点について学ぶ。	1）地域社会における生活とその変化 2）地域社会における諸問題 ⑴　都市化 ⑵　介護問題		
7	＜職場と職場集団＞ ・職業の社会的意義と職場における問題について学ぶ。	1）社会と職場 2）職場集団における諸問題		
8	＜社会問題と政策的対応＞ ・現代社会や医療における諸問題に対して学ぶ。	1）社会問題のとらえ方 2）科学技術と専門職 3）医療や看護に関わる社会問題		
9	＜社会調査＞ ・社会調査についての基礎的知識を学ぶ。	1）社会調査とは何か 2）社会調査の手順		
10	＜西濃の歴史と文化＞ ・地域社会の歩みを人々の生活面からみつめ、人々の生活は地域社会と深く関わっていることを知る。 ＜交通の要衝大垣＞ ・地域社会の歩みを人々の生活面からみつめ、人々の生活は地域社会と深く関わっていることを知る。	1）地理的条件 2）古代の美濃 3）江戸時代の大垣 4）近現代の西濃 1）美濃路大垣宿・墨俣宿 2）中仙道赤坂宿 3）船町湊	講義	非常勤講師

11	＜城下町大垣＞ ・戸田家十万石の城下町として、都市文化の基盤が築かれ文教と産業が調和した豊かな郷土に発展したことを知る。 ＜生命を守る人々の知恵＞ ・戦いや災害から生命を守る人々の努力があったことを知り、生命の尊厳について考える。	1）大垣城の築城 2）城下町の名残り 3）藩主の美意識と文教政策 1）戦場の出来事 2）戦争奴隷 3）人狩りの禁止 4）関ヶ原合戦と人狩り	講義	非常勤講師
12 13	＜市内史跡見学＞ ・地域の史跡をたどり、昔の人々の生活に関心を深める。	グループ見学 1）大垣城と大垣町 2）美濃路と大垣宿 3）芭蕉と大垣 4）船町湊の盛衰	演習（6ｈ）	
14	＜まとめと発表＞ ・グループのまとめから、地域文化の理解を深める。			
15	まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	健康支援と社会保障①　健康と社会・生活　　メディカ出版
備　　考	

分野	基礎分野	授業科目	倫理学	単位数	1	時期	1年次 前期
				時間数	15		

目的・目標	
目的	倫理とは何かを理解し、生命や医療について倫理学的に考える姿勢を身につける。
目標	1　「よく生きる」とはいかなることか、倫理学的に考える。 2　他者とともに「よく生きる」ことの可能性を模索する。 3　医療の現場において「よく生きる」ための基盤を培う。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜倫理学の基礎＞ ・「よく生きる」ことに対して、倫理学的に考えることで、倫理学の基礎を学ぶ。	私たちが様々な場面で「どうしたらよいのか」と自ら問う際、実は「よく生きる」ことを目指した倫理学の問いを発している。この問いに倫理学的に答えるとはいかなることかを考える。	講義	非常勤講師
2	＜善き生と幸福＞ ・よく生きることと幸福の違いから、人間にとっての生について考える。	「よく生きる」ことを目指すと、必ず私たちは「幸福に生きたい」という願いにぶつかる。「善き生」と「幸福」とは両立するのかどうかを考える。		
3	＜絶対的善と相対的善＞ ・絶対的善と相対的善の違いを考えることで、倫理的判断について学ぶ。	「善い」と言っても、場面によって良かったり悪かったりすることや、どんな場合にでも「良い」と言えることとがある。これらの違いは何かを考える。		
4	＜手段の善さと目的の善さ＞ ・手段の善さと目的の善さの違いについて考えることで、善の意味を学ぶ。	「善いこと」を考える場合に、「～のために善いこと」と「それ自体として善いこと」とはどう違うのか。さまざまな例について検討する。		
5	＜医療従事者と患者＞ ・医療従事者―患者間における望ましい関係づくりについて考える。	医療従事者と患者の関係は、徐々に変化している。その変化を追いながら、これからいかなる関係を作っていくべきかを考える。		
6	＜生誕の倫理問題＞ ・医療現場における倫理的問題を理解する。	医学の進歩にしたがって、これまでの人間観や死生観が揺らいでいる。まずは、生誕の現場で医療がどのような問題に直面しているかを考える。		
7	＜死をめぐる問い＞ ・死のあり方を考える。	医学の進歩は、人間の生死の境界をも揺るがせている。人間の死とはどうあるべきなのかを考える。		
8 (1)	試験		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	
備考	

分野	基礎分野	授業科目	英語	単位数	1	時期	1年次 後期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　看護・医療や福祉等の問題について学びながら、英語力を身につける。 目標　1　看護の現場で役に立つ基礎的コミュニケーション能力を養う。 2　看護、医療関係の基本語彙を学ぶ。 3　英文で書かれた看護論文や医療問題が理解できる。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜英会話＞ ・看護や医療の現場において必要と思われる会話を学ぶことにより、コミュニケーション能力を養う。	1）自己紹介と挨拶	講義	非常勤講師
2		1）症状を聞く		
3		1）検温　検査		
4	＜英語＞ ・英文の基本語彙を学ぶ。 ・看護、医療、福祉に関する話題を多読、精読しながら直読直解に努める。	1）Parts of the Body		
5		1）Concepts about Humans		
6		1）Concepts about Human Functions		
7		1）Current Topics in Health & Medicine		
8		1）Roles of Health Care Personnel		
9		1）Assessing and Supporting Health		
10		1）Current Topics in Therapeutics		
11		1）Ethical and Legal Concerns		
12		1）Care of Diseases and Mental Problems		
13		1）End of Life Care		
14		1）Health and welfare		
15	まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ）		筆記試験	

評価方法	小テスト、課題レポート、筆記試験
参考文献と資料	Talking with Your Patients in English　成美堂
備考	英和辞典 講義に関する文献等を調べて臨む

分野	基礎分野	授業科目	中国語	単位数	1	時期	1年次 後期
				時間数	15		

目的・目標	
	目的　　中国語の簡単な日常会話を身につける。 目標　　1　中国語の発音をマスターする。 　　2　簡単な日常会話ができる。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	中国語と発音＞ ・中国語を正しく発声できる。	1）中国語について 2）声調と発音	講義	非常勤講師
2				
3	＜名前・挨拶＞ ・中国語での挨拶ができる。	1）挨拶文 2）名前の書き方　呼び方 「こんにちは」「元気ですか」「おはようございます」「おやすみなさい」「さようなら」の言葉		
4				
5	＜簡単なコミュニケーション＞ ・中国語による基本的な日常会話ができる。	1）コミュニケーション言葉 2）基本的な会話文 ・食事　買い物　家族 「－がほしい」「今何時」 「－はどこにありますか」 「－にします」「いくらですか」		
6				
7				
8 (1h)	試験		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	
備　　考	

分野	基礎分野	授業科目	体　育	単位数	1	時期	1年次 前期
				時間数	45		

目的・目標	
	目的　心と体を一体としてとらえ、自己の健康の保持増進および体力の向上を図るとともに自律した人として好ましい態度を身につける。 目標　1　心身に対する運動の重要性が理解できる。 2　スポーツ実践を通し、自己の健康維持や体力の向上をはかる。 3　スポーツマン精神の学びやチーム活動を通し、チームワークの重要性を学ぶとともに、相手を尊重する気持ちや協調性を養う。 4　伝統的な礼儀作法を通し、心身のバランスがとれた人格を養う。

回数	単　元	教育内容	方法	担当教員
1 2	＜スポーツとは＞ ・運動が心身に与える影響について理解する。	1）スポーツマンのこころ 2）スポーツの歴史 3）スポーツの意義・効用	講義	非常勤講師
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	＜体育実技＞ ・自己の健康づくりや体力向上のため、自主的にスポーツを実践することができる。 ・チーム活動を通じ、相手を尊重する気持ちや協調性を養う。	ソフティバレー バドミントン バスケットボール 卓球　等	(実技) (24ｈ)	
15	まとめ(1ｈ)・試験(1ｈ)		筆記試験	
16 17 18 19 20 21 22	＜なぎなた＞ ・動と静の動きから身体に与える影響を考える。 ＜実技＞ ・作法を通じ、自己を律する姿勢を身につける。	1）武道とは 2）武道と姿勢について 3）なぎなたとは 4）姿勢と立ち振る舞い	講義 (実技) (12ｈ)	非常勤講師
23 (1h)	試験		実技試験	

評価方法	学習姿勢、実技試験、筆記試験
参考文献と資料	
備　考	体育実技：運動のできる服装、体育館用のシューズ

２．専門基礎分野

１）解剖生理学Ⅰ　・・・・・・・・・　39

２）解剖生理学Ⅱ　・・・・・・・・・　41

３）代謝栄養学　・・・・・・・・・　43

４）感染・免疫学　・・・・・・・・・　45

５）病理学　・・・・・・・・・　46

６）病態生理学Ⅰ　・・・・・・・・・　47

７）病態生理学Ⅱ　・・・・・・・・・　48

８）病態生理学Ⅲ　・・・・・・・・・　49

９）病態生理学Ⅳ　・・・・・・・・・　50

10）薬理学　・・・・・・・・・　51

11）現代医療論　・・・・・・・・・　53

12）公衆衛生　・・・・・・・・・　54

13）社会福祉　・・・・・・・・・　55

14）関係法規　・・・・・・・・・　56

分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅰ （人体の構造） (呼吸器・循環器) （消化器）	単位数	1	時期	1年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	目的　人体を構成する各器官の形態と機能を系統的に理解する。 目標　1　人体の様々な形態をもった器官を系統化して理解する。 2　生命現象の基本である呼吸・循環・体温調節のしくみを知り、バイタルサインを読み取ることを習得する。 3　人が食べ物を摂取し、排泄するまでの一連の消化器系と栄養素が代謝されるまでの過程を系統立てて理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2 3 4	＜人体の構造＞ ・人体の概要を理解し人体の発生とその構成を理解する。	1）人体の概要と人体各部の名称の確認 2）人体とその構成 ⑴　細胞の成り立ち ⑵　細胞の形態・内部構造 ⑶　上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織の構造 ⑷　器官の集合とその系統 3）人体の発生 ⑴　生殖細胞 ⑵　性染色体と性の決定、原胚子の分割と発生 ⑶　胎児の栄養と胎盤、正常発生と奇形	講義	非常勤講師
5 6 7 8 9 10	＜生命現象の基本＞ ・呼吸・循環・体温調節のしくみを理解する。	1）呼吸のしくみ ⑴　換気 ①　鼻腔・咽頭・気管・肺の構造 ②　呼吸運動 ③　肺機能の測定 ⑵　ガス交換 ①　外呼吸と内呼吸　②　ガス分圧 ⑶　ガスの運搬 ①　酸素の運搬 ②　二酸化炭素の運搬 ⑷呼吸調節 ①　呼吸中枢 2）循環のしくみ ⑴　心臓血管系 ①　心臓の構造と機能 ②　血管の構造 ③　動脈系と静脈系 ④　脈拍 ⑤　血圧 ⑵　リンパ系 ①　リンパの流れ ⑶　循環器系の発達 ①　胎児の血液循環 3）体温調節 ⑴　体熱の産生と放散 ⑵　体温の調節と異常	講義	非常勤講師

11 12 13	＜栄養の消化と吸収＞ ・栄養の消化と吸収・代謝の過程を系統立てて理解する。	1）食欲 ⑴ 血糖と食欲中枢 2）咀嚼 ⑴ 咀嚼の過程 ⑵ 口腔の構造と機能 3）嚥下 ⑴ 嚥下の過程 ⑵ 咽頭・食道の構造と機能 4）消化と吸収・代謝 ⑴ 胃の構造と作用 ① 胃の構造と運動機能 ② 胃の分泌機能（胃液の分泌機序と胃液の成分） ⑵ 小腸の構造と作用 ① 小腸の構造と運動機能 ② 小腸における消化吸収 ⑶ 大腸の構造と作用 ① 大腸の構造と運動機能 ② 大腸の分泌と吸収機能 ⑷ 肝臓・胆嚢・膵臓の構造と作用 ① 肝臓・胆嚢・膵臓の構造 ② 膵液・胆汁の分泌機序と働き	講義	非常勤講師
14	＜解剖見学＞ ・人体解剖を見学し、人体の構造を理解する。	1）人体解剖の見学	演習（２ｈ）	非常勤講師
15	まとめ（１ｈ）・試験（１ｈ）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［１］　解剖生理学，医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　　成人看護学［15］　歯・口腔疾患，医学書院
備　　考	

分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅱ (内分泌、体液) (生殖器、神経系) (感覚器・運動器)	単位数	1	時期	1年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	目的　人体を構成する各器官の形態と機能を系統的に理解する。 目標　1　人間の内部変化や外部の環境変化に対し、常に一定の恒常性を保つしくみを理解する。 　　2　人間が外部環境を認識するしくみと、それを調整するしくみを理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2 3 4	＜人体の恒常性＞ ・身体の内部、外部環境の変化に伴う調整機能について理解する。 ・人体の生命活動を調整するホルモンを生成する臓器とその作用を理解する。	1）ホルモンの作用機序 ⑴　ホルモンの作用機序 ①　内分泌のあらわし ②　ホルモンの作用機序 ⑵　ホルモンの分泌調整 ①　フィードバック構築 ⑶　内分泌の構造と機能 ①　視床下部・下垂体・甲状腺・上皮小体・膵頭・副腎皮質・副腎髄質の構造とホルモン ②　消化管・腎臓・性ホルモン 2）内部環境の恒常性 ⑴　体液 ⑵　体液の電解質 ⑶　体液の酸塩基平衡とその調節 ①　酸・塩基について ②　水素イオン濃度とpH ③　pHの調節機序 ④　呼吸による調節機序 ⑤　腎臓による調節	講義	非常勤講師
5	＜体液の調節と尿の生成＞ ・泌尿器系の解剖・生理について学び、体液の調節と尿の生成について理解する。	1）尿の生成 ⑴　腎臓の構造　⑵　濾過 ⑶　再吸収　⑷　分泌 2）尿量の調節 3）排尿 ⑴　膀胱の構造と神経支配 ⑵　尿道の構造と機能	講義	非常勤講師
6	＜生殖・発生のしくみ＞ ・生殖器系の解剖・生理について学び、生殖・発生のしくみを理解する。	1）生殖器官 ⑴　男性生殖器 ①　男性生殖器官の構造 ②　精子の形成		
7		⑵　女性の生殖器 ①　女性の生殖器官の構造 ②　性周期	講義	非常勤講師
8	＜情報の受容と処理＞ ・外界の刺激を受容する仕組み・各刺激に応じた反応の仕組みを理解する。	1）神経系のしくみ ⑴　神経系の構造と機能 ⑵　神経組織	講義	非常勤講師

9 10 11 12		2）中枢神経系 ⑴　脊髄･脳幹･間脳･小脳･大脳の構造と機能 ⑵　中枢神経系を保護する組織 ⑶　伝達路 3）末梢神経系 ⑴　脳神経の構造と機能 ⑵　脊髄神経と神経叢の機能 ⑶　体神経系の機能 ⑷　自律神経系の機能 4）感覚器による作用 ⑴　視覚 ①　視覚の構造と機能 ②　視覚の伝導 ③　眼球運動と反射 ⑵　聴覚と平衡感覚 ①　平衡感覚器の構造 ②　平衡覚 ③　聴覚 ⑶　嗅覚と味覚 ①　嗅覚と嗅覚受容器 ②　味覚と味蕾 ⑷　皮膚感覚 ①　皮膚の感覚受容器 ②　皮膚感覚の種類	講義	非常勤 講師
13 14	＜からだの支持と運動＞ ・骨格系と筋系との運動する関係を理解する。 ・筋肉運動の仕組みを理解する。	1）運動系 ⑴　姿勢 ①　体位と構え ②　体位と神経・筋の発達 ⑵　骨格 ①　骨の構造と機能 ②　体の支柱 ③　四肢の骨 ⑶　筋の収縮 ①　筋の構造 ②　収縮機能 ⑷　骨格筋 ①　抗重力筋・四肢・頚部・表情筋・呼吸筋・骨盤底筋の役割 ⑸　関節運動 ①　関節の構造 ②　関節運動の種類 ⑹　運動のメカニズム ①　随意運動と不随意運動	講義	非常勤 講師
15	まとめ（1 h）・試験（1 h）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能［1］ 解剖生理学，医学書院
備　　考	

分野	専門基礎分野	授業科目	代謝栄養学	単位数	1	時期	1年次 後期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　生命維持に必要な栄養素の構造と性質、生体内の物質代謝を学び、人間の生命現象を科学的に理解する。 人間の生命維持、成長発達、健康維持に必要な栄養について理解する。また、健康障害時の食事療法の基礎を理解する。 目標　1　生体の成り立ちと生体を構成している基本物質について理解する。 2　三大栄養素（糖質・脂質・たんぱく質）の代謝を理解する。 3　ビタミン・ホルモンの役割を知り、生体の恒常性維持機構を理解する。 4　生存のために必要な栄養のアセスメントについて理解する。 5　ライフサイクルに応じた栄養の特徴を理解する。 6　疾病の予防や治療における食事療法の基礎を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜生体の成り立ちと生体分子＞ ・生体の成り立ちと生命維持に必要な栄養素について理解する。	1）生体の成り立ち 2）個体、器官、組織、細胞 3）真核細胞の構造と機能 4）生体を構成する物質 5）生体で起きている化学反応 6）生命維持に必要な栄養素 糖質・脂質・蛋白質・ビタミン	講義	非常勤講師
2 3 4	＜生体内の物質代謝＞ ・生命を維持していくために、物質がどのように代謝され利用されるかを理解する。	1）酵素 2）糖質代謝 3）脂質代謝 4）アミノ酸とタンパク質の代謝 5）エネルギー代謝の統合と制御		
5	＜核酸と遺伝情報＞ ・人体の構造や機能で重要な役割をもつ遺伝子の本体、発現の機構を理解する。	1）核酸代謝 2）遺伝情報		
6 7	＜生体の恒常性維持＞ ・体液の役割を理解する。 ・ビタミンの役割、作用、栄養学的意義について理解する。	1）体液 (1)　水 (2)　無機質と微量成分 (3)　酸・塩基平衡 2）ビタミン (1)　水溶性ビタミン (2)　脂溶性ビタミン		
8	＜栄養のアセスメント＞ ・栄養所要量とエネルギー所要量の算出方法について理解する。	1）栄養のアセスメント 2）栄養所要量の定義 3）栄養所要量、エネルギー必要量の算定 4）各種栄養素の所要量	講義	非常勤講師
9 10	＜ライフサイクルと栄養＞ ・それぞれのライフステージに必要な栄養の特徴を理解する。	1）食文化 2）運動と栄養 3）ライフステージにおける健康生活と栄養		

11 12 13 14	＜臨床栄養＞ ・臨床栄養の意義と食事療法の概要をふまえて、食事療法の基礎を学ぶ。	1）臨床栄養の意義 2）食事療法の概要 3）疾患別食事療法 ・消化器系疾患の食事療法 ・内分泌・代謝疾患の食事療法 ・循環器系疾患の食事療法 ・腎疾患の食事療法	講義	非常勤講師
15	まとめ（1 h）・試験（1 h）		筆記試験	
評価方法	筆記試験			
参考文献と資料	わかりやすい生化学　　ヌーヴェルヒロカワ ナーシンググラフィカ　臨床栄養学　　メディカ出版 糖尿病食事療法のための食品交換表　日本糖尿病協会・文光堂			
備　　考				

分野	専門基礎分野	授業科目	感染・免疫学	単位数	1	時期	1年次 後期
				時間数	15		

目的・目標	
	目的　感染と感染防御について学び、感染予防および対処方法を理解する。 目標　1　病原体の種類と病原因子について理解する。 2　病原体の感染様式と感染経路について理解する。 3　生体の感染防御機構、特に適応免疫の成立機構について理解する。 4　感染症の病原体の制御方法について理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2	＜微生物と病原微生物＞ ・微生物と病原微生物の特徴について理解する。	1）微生物とは 2）微生物の分類・構造・物質代謝 (1) 細菌の性質 ・常在細菌叢 (2) 真菌・原虫・ウイルスの性質 (3) おもな病原微生物	講義	非常勤講師
3 4 5	＜感染と感染防御＞ ・感染の様式や感染源・感染経路などと感染防御のしくみについて理解する。	1）感染とその防御 (1) 微生物感染の機構 (2) 感染の成立から発症・治癒まで (3) 細菌感染・真菌感染・ウイルス感染の機構 2）感染に対する生体防御機構 (1) 自然免疫のしくみ (2) 獲得免疫のしくみ ・過敏症と免疫 ・移植、癌、輸血と免疫 ・自己免疫、免疫不全 (3) 粘膜免疫のしくみ	講義	非常勤講師
6	＜感染に対する対策＞ ・感染症の予防及び治療のための病原体の制御方法（化学療法・血清療法・ワクチン）について理解する。	1）感染症の予防（感染源対策） (1) 社会的とりくみ：感染予防の理念と実際 (2) 病院でのとりくみ ・院内感染とは ・滅菌と消毒 2）感染症の予防（宿主対策） (1) ワクチンと予防接種 3）感染症の治療 (1) 化学療法剤と耐性菌 (2) その他の治療：血清療法	講義	非常勤講師
7	＜病原体と感染症＞ ・病原体とそれによって起こる代表的疾病との関係を理解する。	1）気道感染症：インフルエンザ 2）腸管感染症：腸管出血性大腸炎 3）尿路感染症 4）その他のウイルス感染症		
8 (1h)	試験		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進［3］ 微生物学，医学書院
備考	

分野	専門基礎分野	授業科目	病理学	単位数	1	時期	1年次 前期
				時間数	15		

目的・目標	目的　疾病の原因、形態的・機能的変化について理解する。 目標　1　病理学全体（各病変カテゴリー）の疾病構造や特徴について理解する。 　　2　さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化について理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜病理学で学ぶこと＞ ・正常な人間の構造と機能が疾病におかされることによって引き起こされる形態的・機能的変化について理解する。	1）看護と病理学 ⑴　病気とは ⑵　病理学とは 2）病気の原因 3）病気の分類	講義	非常勤講師
2	＜先天異常と遺伝性疾患＞ ・先天異常と遺伝性疾患の原因、発生機構を理解する。	1）先天異常と遺伝性疾患 ⑴　先天異常 ⑵　遺伝性の異常と疾患 ⑶　先天異常・遺伝性疾患の診断と治療		
3	＜代謝障害＞ ・細胞の適応現象、変性と死、物質沈着について理解する。	1）代謝障害 ⑴　脂質代謝障害 ⑵　タンパク質代謝障害 ⑶　糖現病・痛風・先天性代謝異常症・黄疸		
4	＜循環障害＞ ・局所性循環障害，全身性循環障害，リンパ循環障害を理解する。	1）循環障害 ⑴　循環系の概要 ⑵　局所性・全身性循環障害 （浮腫、充血とうっ血、出血と止血、血栓症、塞栓症、虚血と梗塞、多臓器不全） ⑶　播種性血管内凝固症候群	講義	非常勤講師
5	＜炎症と免疫＞ ・生体の防御反応としての炎症と免疫、免疫反応について理解する。	1）細胞・組織の損傷と修復・炎症 ⑴　細胞・組織の損傷と適応 ⑵　細胞・組織の損傷に対する反応としての炎症 ⑶　炎症の分類と治療 2）免疫 ⑴　免疫と免疫不全 ⑷　アレルギー		
6	＜腫瘍＞ ・腫瘍の発生病理やがんの転移等について理解する。	1）腫瘍 ⑴　腫瘍の定義と分類 ⑵　悪性腫瘍の広がりと影響 ⑶　腫瘍の発生病理	講義	非常勤講師
7	＜老化と死＞ ・個体の老化、全身諸臓器の変化、ヒトの死について理解する。	1）老化と死 ⑴　個体の老化と老年症候群 ⑵　加齢に伴う諸臓器の変化 ⑶　個体の死		
8 (1h)	試験		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進［1］　病理学，医学書院
備考	

分野	専門基礎分野	授業科目	病態生理学1 (循環機能障害) (生命維持機能障害) (呼吸機能障害) (造血機能障害)	単位数	1	時期	1年次 後期
				時間数	30		

目的・目標	目的　看護に必要な病態生理をとらえるために、主な疾患の病態・症状・治療について理解する。 目標　1　循環機能障害、生命維持機能障害、呼吸機能の障害、造血機能の障害によって引き起こされる疾病の病態生理と治療について理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2 3 4	＜循環機能障害＞ ・循環機能障害がもたらす疾病とその病態生理及び治療について理解する。	1）循環機能障害による疾病と治療 (1) 症状とその病態生理 (2) 検査と治療・処置 (3) 疾患の理解 ① 虚血性心疾患　② 心不全 ③ 不整脈　④ 血圧異常 ⑤ 弁膜症　⑥ 動脈性疾患	講義	非常勤講師
5 6 7	＜生命維持機能障害＞ ・生命維持機能障害によって起こる疾病の病態生理及び治療について理解する。	1）生命の危機とその治療 (1) ショック (2) 播種性血管内凝固症候群＜DIC＞ (3) 多臓器不全＜MOF＞ (4) 死の兆候	講義	非常勤講師
8 9 10 11 12	＜呼吸機能障害＞ ・呼吸機能障害がもたらす疾病とその病態生理及び治療について理解する。	1）呼吸機能障害による疾患と治療 (1) 呼吸機能の障害 (2) 症状とその病態生理 (3) 検査と治療・処置 (4) 疾患の理解 ① 感染症　② 間質性肺疾患 ③ 気道の閉塞をきたす疾患(気管支喘息等) ④ 呼吸不全　⑤ 肺腫瘍 ⑥ 肺循環障害（肺塞栓，肺梗塞）	講義	非常勤講師
13 14	＜造血機能障害＞ ・造血機能障害がもたらす疾病とその病態生理及び治療について理解する。	1）造血機能障害による疾患と治療 (1) 造血機能の障害 (2) 症状とその病態生理 (3) 検査と治療・処置 (4) 疾患の理解 ① 造血器の腫瘍（白血病･悪性リンパ腫等） ② 貧血	講義	非常勤講師
15	まとめ(1h)・試験(1h)		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［2］呼吸器，医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［3］循環器，医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［4］血液・造血器，医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　別巻4　救急看護学，医学書院
備考	

分野	専門基礎分野	授業科目	病態生理学Ⅱ (脳・神経機能障害) (免疫機能障害) (運動機能障害)	単位数	1	時期	1年次 後期
				時間数	30		

目的・目標	
目的	看護に必要な病態生理をとらえるために、主な疾患の病態・症状・治療について理解する。
目標	1　脳・神経機能障害、免疫機能の障害、運動機能の障害によって引き起こされる疾病の病態生理と治療を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2 3 4 5 6	＜脳･神経機能障害＞ ・脳・神経機能障害がもたらす疾病とその病態生理及び治療について理解する。	1）脳・神経機能障害によって起こる疾病と治療 ⑴　症状とその病態生理 ⑵　検査・診断と治療・処置 ⑶　疾患の理解 ①　脳血管障害　②　脳腫瘍 ③　頭部外傷　④　脳脊髄液(髄液)の異常 ⑤　ギランバレー症候群 ⑥　単神経障害 ⑦　筋ジストロフィー ⑧　脱髄・変性疾患 ⑨　脳・神経系の感染症	講義	非常勤講師
7 8 9 10	＜免疫機能障害＞ ・免疫機能の障害がもたらす疾病とその病態生理及び治療について理解する。	1）免疫機能障害と治療 ⑴　アレルギー ①　免疫担当細胞と伝達物質 ②　診断・検査と治療 ③　症状と疾患の理解 ・アナフィラキシー　等 ⑵　膠原病 ①　機序と症状の病態生理 ②　検査と治療 ③　疾患の理解 ・関節リウマチ ・全身性エリテマトーデス ・シェーグレン症候群 ・ベーチェット病 ⑶　感染症と治療 ①　感染症の病態生理と症状 ②　検査・診断と治療 ③　疾患の理解 ・皮膚軟部組織感染症 ・悪性腫瘍自体に伴う感染症 ・真菌感染症 ・HIV感染症 ・多剤耐性菌感染症	講義	非常勤講師
11 12 13 14	＜運動機能障害＞ ・運動機能障害によって起こる疾病の病態生理及び治療について理解する。	1）運動機能障害による疾患と治療 ⑴　症状と病態生理 ⑵　診断・検査と治療と処置 ⑶　疾患の理解 ①　外傷性の運動器疾患（骨折･捻挫･脱臼） ②　炎症（脊椎カリエス･慢性関節リウマチ） ③　腫瘍（良性腫瘍・悪性腫瘍） ④　脊椎の疾患（椎間板ヘルニア） ⑤　その他	講義	非常勤講師
15	まとめ(1h)・試験(1h)		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［7］　脳・神経，医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［10］　運動器，医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［11］　アレルギー　膠原病　感染症，医学書院
備考	

分野	専門基礎分野	授業科目	病態生理学Ⅲ (消化機能障害) (排泄機能障害) (生殖機能障害) (内分泌機能障害)	単位数	1	時期	1年次 後期
				時間数	30		

目的・目標	目的　看護に必要な病態生理をとらえるために、主な疾患の病態・症状・治療について理解する。 目標　1　消化機能障害、排泄機能障害、生殖機能障害、内分泌機能障害によって引き起こされる疾病の病態生理と治療について理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜消化機能障害＞ ・消化機能障害によって起こる疾病の病理生理及び治療について理解する。	1）消化管機能障害と治療 (1)　症状とその病態生理 (2)　検査と治療・処置 (3)　疾患の理解 ①　消化管の炎症と潰瘍 ②　消化管の腫瘍（胃がん、結腸･直腸がん） ③　イレウス 2）肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害と治療 (1)　肝臓・胆嚢の炎症 (2)　肝臓・胆嚢の腫瘍 (3)　胆汁代謝・排泄の障害	講義	非常勤講師
2				
3				
4				
5				
6	＜排泄機能障害＞ ・腎・泌尿器系の機能障害によって起こる疾病の病理生理及び治療について理解する。	1）排泄機能障害と治療 2）症状とその病態生理 3）疾患の理解 ①　腎不全 ②　腎・尿路の炎症 ③　腎・尿路の腫瘍 ④　腎・尿路の通過障害	講義	非常勤講師
7				
8				
9	＜生殖機能障害＞ ・生殖機能障害によって起こる疾病の病理生理及び治療について理解する。	1）生殖機能障害と治療 (1)　男性生殖器の疾病と治療 ①　奇形、炎症、前立腺肥大、腫瘍	講義	
10		(2)　女性生殖器の疾病と治療 ①　乳腺の疾患 ②　卵巣・卵管の疾患 ③　子宮の疾患 (3)　性感染症と治療	講義	非常勤講師
11				
12	＜内分泌機能の障害＞ ・内分泌・代謝障害によって起こる疾病の病態生理及び治療について理解する。	1）内分泌機能障害と治療 (1)　内分泌機能の低下・亢進 (2)　症状とその病態生理・検査 (3)　疾患の理解 ①　甲状腺疾患　②　糖尿病　③　高脂血症 ④　肥満症とメタボリックシンドローム ⑤　尿酸代謝障害	講義	非常勤講師
13				
14				
15	まとめ(1h)・試験(1h)		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［5］　消化器，医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［8］　腎・泌尿器，医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［9］　女性生殖器，医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［6］　内分泌・代謝，医学書院
備考	

分野	専門基礎分野	授業科目	病態生理学Ⅳ（精神障害）（感覚機能障害）	単位数	1	時期	1年次後期
				時間数	15		

目的・目標	
目的	看護に必要な病態生理をとらえるために、主な疾患の病態・症状・治療について理解する。
目標	1　精神障害によって引き起こされる疾病の病態生理と治療を理解する。 2　感覚機能障害によって引き起こされる疾病の病態生理と治療を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2 3 4 5	＜精神障害と治療＞ ・精神障害がもたらす疾病とその病態生理及び治療について理解する。	1）精神障害者の抱える症状 ⑴　精神症状 ⑵　精神障害の診断と検査の種類 2）主な治療・検査 ⑴　薬物療法 ⑵　電気けいれん療法 3）主な疾患と分類 ⑴　器質性精神障害 ①　認知症 ②　症状精神病 ⑵　発達障害 ⑶　アルコール・薬物依存症 ⑷　てんかん ⑸　統合失調症 ⑹　気分障害 ⑺　神経症と心因精神病 ⑻　パーソナリティー障害 ⑼　精神遅滞 ⑽　心身症 ⑾　小児・思春期に起こりやすい精神障害 ⑿　産後うつ	講義	非常勤講師
6	＜感覚機能障害と治療＞ ・感覚機能の障害がもたらす疾病とその病態生理及び治療について理解する。	1）感覚機能の障害 ⑴　視機能の障害と治療	講義	非常勤講師
7		⑵　聴機能の障害と治療	講義	非常勤講師
8 （1h）	試験		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　精神看護学［1］　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［13］　眼疾患，医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［14］　耳鼻咽喉疾患，医学書院
備考	

分野	専門基礎分野	授業科目	薬理学	単位数	1	時期	2年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	目的　薬理学の基礎的知識と主な薬物の作用と副作用を理解する。また、医薬品の安全対策を理解する。 目標　1　薬理学の基礎を理解する。 2　臨床で使用される代表的な薬剤の種類と作用を理解する。 3　薬物の副作用を知るとともに、医薬品の安全対策について理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2 3	＜薬理学の概念＞ ・薬理学の基礎を理解する。 ・医薬品の安全対策について理解する。	1）薬理学とは何か（薬事法） 2）薬物治療の目ざすもの 3）薬理作用 4）薬の吸収・分布・代謝・排せつ 5）薬効に影響する因子 6）薬の有効性と有害性（安全性） 7）医薬品の安全対策 ⑴　混合の可否 ⑵　禁忌 ⑶　保存方法 ⑷　薬理効果に影響する要因 ⑸　誤薬	講義	非常勤講師
4 5	＜抗感染症薬・抗がん薬＞ ・抗生物質などの感染症治療薬及びがん治療に関する基礎知識とその作用を理解する。	1）感染症の治療とは 2）抗生物質 3）特殊な感染症治療薬 4）がん治療に関する基礎事項 5）抗がん薬		
6	＜免疫治療薬＞ ・免疫反応の仕組みと免疫系に作用する薬物を理解する。 ＜抗アレルギー薬・抗炎症薬＞ ・アレルギー及び炎症に対する薬物の薬理作用を理解する。	1）免疫反応 2）免疫抑制薬・増強薬 3）予防接種薬 1）抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 2）炎症と抗炎症薬 3）関節リウマチ治療薬 4）痛風・高尿酸血症治療薬 5）片頭痛治療薬		
7	＜末梢・中枢神経系に作用する薬物＞ ・各神経に作用する薬物とその薬理作用を理解する。	1）自律神経と薬の作用 2）交感神経作用薬 3）副交感神経作用薬 4）筋弛緩薬、局所麻酔薬		
8		5）中枢神経系と薬物 6）全身麻酔薬 7）催眠薬・抗不安薬 8）麻薬性鎮痛薬	講義	非常勤講師
9 10	＜心臓・血管系に作用する薬物＞ ・心臓と血管系に作用する薬物とその薬理作用を理解する。	1）うっ血性心不全治療薬（ジギタリス） 2）狭心症治療薬 3）抗高血圧薬 4）利尿薬 5）抗不整脈薬		

11	＜呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物＞ ・呼吸器･消化器･生殖器系に作用する薬物を理解する。	1）気管支喘息治療薬 2）胃・十二指腸潰瘍治療薬 3）性ホルモン	講義	非常勤講師
12	＜物質代謝に作用する薬物＞ ・生体内の物質代謝に関与する薬物を理解する。	1）糖尿病治療薬 2）甲状腺疾患治療薬 3）骨粗鬆症の治療薬 4）ビタミン製剤		
13	＜皮膚科用薬・眼科用薬＞ ・皮膚科用薬・眼科用薬を理解する。	1）皮膚に使用する薬物 2）眼科外用薬		
	＜救急の際に使用される薬物＞ ・緊急時に際して使用される薬物の作用を理解する。	1）救急蘇生時に用いられる主な薬物 2）救急・急変時の症候に対して用いられる薬物 3）急性中毒に対する薬物治療		
14	＜漢方薬・消毒薬＞ ・漢方薬及び消毒薬の基礎知識を理解する。	1）漢方薬 2）消毒薬		
15	まとめ（1 h）・試験（1 h）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門基礎分野　疾病の成立ちと回復の促進［2］ 薬理学，医学書院
備　　考	

分野	専門基礎分野	授業科目	現代医療論	単位数	1	時期	2年次 前期
				時間数	15		

目的・目標	目的　医療の変遷から現代医療のかかえている問題を理解し、生命倫理について認識を深める。 目標　1　医療の変遷を学び、現代医療のかかえている問題を理解する。 2　患者の権利と義務を理解する。 3　現代医療における諸問題を通し、専門職業人としての命の大切さを考える。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2	＜医学医療のあゆみと医療倫理＞ ・医学・医療のあゆみを通して、医療と倫理のあり方について考える。	1）人類の誕生と医療の原始的形態 2）古代・中世・近代医学の発展 3）現代医療と倫理 4）生命倫理とは（生命倫理の4原則）	講義	非常勤講師
3	＜患者の権利と責任＞ ・患者の権利と義務について理解する。	1）医療における患者の権利 2）患者と医師の関係 3）インフォームドコンセントとは 4）セカンドオピニオン		
4	＜現代医療における諸問題＞ ・現代医療のかかえている問題を通して、人間の人権や生命倫理について考え、命の大切さを学ぶ。	1）人間生命の始期をめぐる問題 (1) 遺伝子解析・遺伝子医療と倫理 (2) 生殖補助医療と倫理 （人工授精・体外受精） (3) 出生前診断と倫理	講義	非常勤講師
5		1）人間生命の質をめぐる問題 (1) 脳死と臓器移植	講義	非常勤講師
6		1）人間生命の終期をめぐる問題 (1) 病状告知と終末期医療	講義	非常勤講師
7		2）安楽死と尊厳死 (1) リビング・ウイル		
8 (1h)	試験		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	別巻　現代医療論　メヂカルフレンド社
備考	

分野	専門基礎分野	授業科目	公衆衛生	単位数	1	時期	2年次 後期
				時間数	15		

目的・目標	
目的	公衆衛生の概要と人々の健康問題の現状や健康づくり対策を学ぶことで、組織的な保健活動を理解する。
目標	1　最近の健康問題、疾病構造等を通して公衆衛生活動の意義、重要性を理解する。 2　地域で個人や集団を対象として行われている保健活動を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜健康問題と公衆衛生活動＞ ・最近の疾病を通し公衆衛生活動の果たす役割と意義、重要性を理解する。	1）公衆衛生の目的 2）公衆衛生の歴史 3）最近の疾病と公衆衛生活動の必要性	講義	非常勤講師
2 3	＜保健医療情報としての統計＞ ・衛生統計について学び、統計のもつ意味や活用の仕方について理解する。	1）疫学と健康指標 2）衛生統計の特徴と調査方法 3）保健問題と衛生統計の活用		
4	＜生活環境と健康＞ ・環境と人々の健康とのかかわりについて学び、公衆衛生活動を理解する。	1）環境とは ⑴　環境因子について 2）食生活と健康 3）ゴミ・廃棄物と健康 4）生活環境の保全		
5 6 7	＜保健活動の内容と実践＞ ・保健活動の現状と、今後の課題を理解する。	1）健康管理の考え方 2）健康づくりを支援する方法 3）地域保健行政 4）地域における保健活動 ⑴　母子保健 ⑵　学校保健 ⑶　成人・老人保健 ⑷　精神保健 ⑸　難病保健 ⑹　産業保健 5）今後の課題		
8 (1h)	試験		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度［2］ 公衆衛生，医学書院 国民衛生の動向
備考	

分野	専門基礎分野	授業科目	社会福祉	単位数	1	時期	2年次 後期
				時間数	15		

目的・目標	目的　社会保障制度や社会福祉を理解し、それらを社会資源として活用する基礎的知識を身につける。 目標　1　社会保障の概要を理解する。 2　社会福祉の動向と福祉サービスの実際を理解する。 3　社会のニーズや制度から保健医療福祉の連携の必要性を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜社会保障制度と社会福祉＞ ＜現代社会の変化と社会保障と社会福祉の動向＞ ・社会保障と社会福祉およびそれを支える法制度の概要を学ぶ。	1）社会福祉制度と社会福祉 (1)　社会保障制度 (2)　社会福祉の法制度 2）現代社会と社会福祉の動向 (1)　現代社会の変化 (2)　社会保障・社会福祉の動向	講義	非常勤講師
2	＜医療保障＞ ・医療保険制度と保険診療の仕組みについて理解する。	1）医療保障制度の沿革 2）医療保障制度の構造と体系 3）健康保険と国民健康保健 4）高齢者医療制度 5）保険診療のしくみ		
3	＜介護保障＞ ・介護保険制度の概要と今後の課題・展望について学ぶ。	1）介護保険制度創設の背景と歴史 2）介護保険制度の概要 3）介護保険制度の課題と展望		
4	＜所得保障＞ ・国民の生活背景を知る手掛かりにできるよう、所得保障について学ぶ。	1）所得保障制度のしくみ 2）年金保険制度 3）社会手当 4）労働保険制度		
5	＜公的扶助＞ ・公的扶助制度の内容と適応の実際と動向について学ぶ。	1）貧困・低所得者問題と公的扶助制度 2）生活保護制度のしくみ 3）低所得対策 4）近年の動向		
6	＜社会福祉の分野とサービス＞ ・各分野の実態と課題について学ぶ。	1）高齢者福祉 2）障害者福祉 3）児童家庭福祉		
7	＜社会福祉実践と医療･看護＞ ・社会福祉援助方法を学び、医療・看護との連携の重要性を理解する。	1）社会福祉援助とは 2）個人・集団援助技術、間接・関連援助技術 3）社会福祉と医療・看護の連携		
	＜社会福祉の歴史＞ ・社会福祉の歴史を学ぶことで、今後の社会福祉の展開について考える。	1）福祉史の枠組み 2）前近代・近代の救済諸相 3）現代社会の構造変化と生活支援 4）戦後の社会福祉の再生		
8 (1)	試験		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度［3］ 社会福祉，医学書院
備考	

分野	専門基礎分野	授業科目	関係法規	単位数	1	時期	3年次 前期
				時間数	15		

目的・目標	
目的	人々の生活に関わる法の基礎知識を学び、保健師助産師看護師法並びに看護に関係する法規を理解する。
目標	1　社会の規律、安全を守る法についての基礎的知識を学ぶ。 2　保健師助産師看護師法、及び看護に関連する法規を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜法の基礎知識＞ ・法の基礎を学び、人々の生活における法の意義を理解する。	1）法の概念 2）生活と法 3）法規の種類	講義	非常勤講師
2	＜労働に関連する法規＞ ・夜勤なども含めた看護師の労働者としての立場と法について理解する。	1）労働基準法 2）労働安全衛生法 3）雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律 4）育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律 5）個人情報の保護に関する法律		
3	＜患者の権利を守る法＞ ・医療中心から患者中心の医療に向け、法がどのように関わっているかを学ぶ。	1）医療ミス（過誤）と法 2）医療訴訟について 3）生命倫理と法		
4 5 6 7	＜看護に関連する法規＞ ・看護に関連する法規、看護業務に直接関係する保健師助産師看護師法を学び、看護の役割及び法規上の看護業務について理解する。	1）衛生法について 2）保健師助産師看護師法 ⑴　看護職に関する法規の変遷 ⑵　保健師助産師看護師法の内容 ⑶　保健師助産師看護師法と看護業務 3）看護師等の人材確保の促進に関する法律 4）医事法 ⑴　医療法 ⑵　医療関係資格法 ⑶　医療を支える法 5）保健衛生法 ⑴　感染症に関する法律	講義	専任教員
8 (1h)	試験		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度［4］ 看護関係法令，医学書院
備考	

3．専門分野Ⅰ

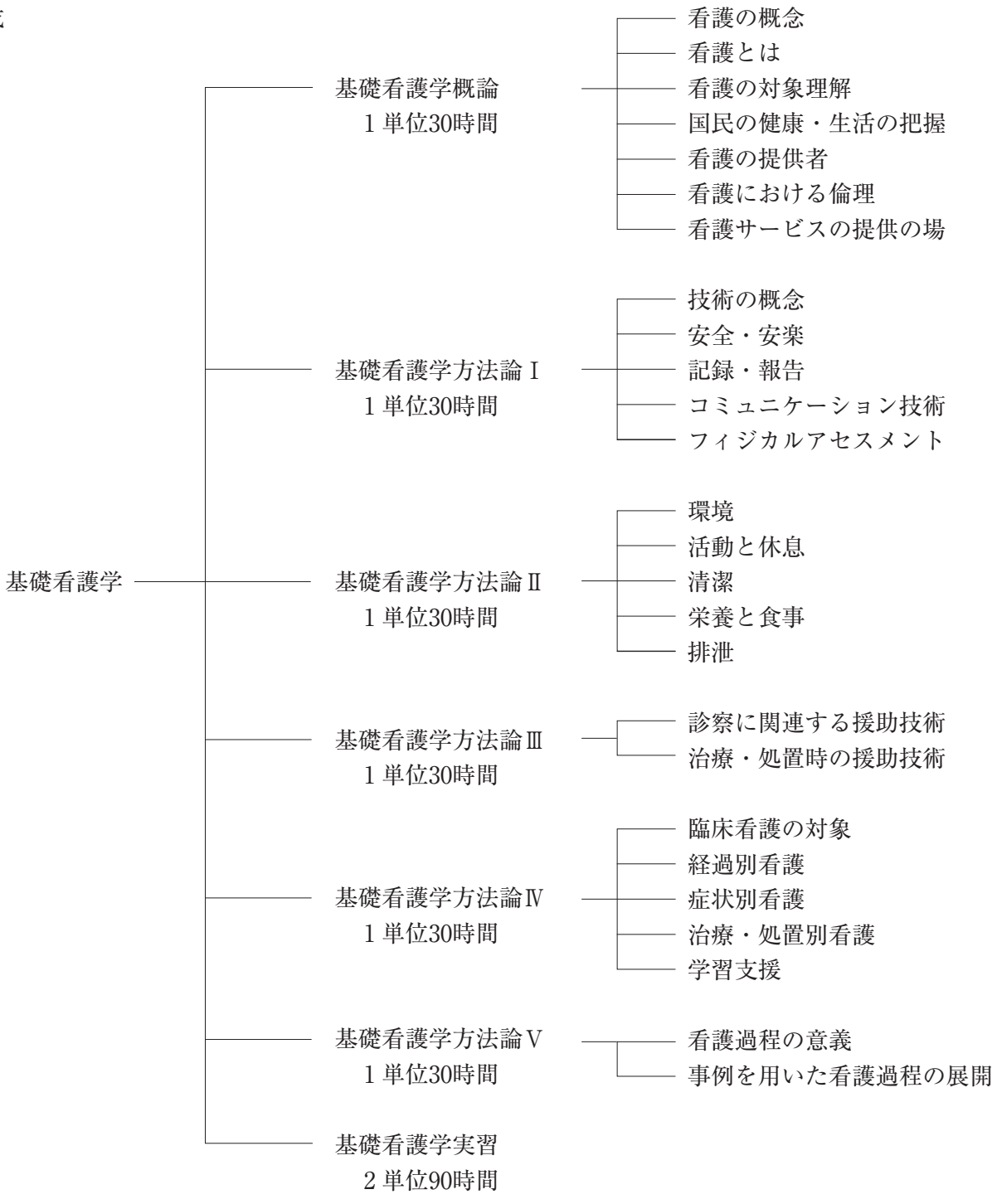
1）基礎看護学　・・・・・・・・・・　59
(1) 基礎看護学概論　・・・・・・・・・・　60
(2) 基礎看護学方法論Ⅰ　・・・・・・・・・・　61
(3) 基礎看護学方法論Ⅱ　・・・・・・・・・・　62
(4) 基礎看護学方法論Ⅲ　・・・・・・・・・・　63
(5) 基礎看護学方法論Ⅳ　・・・・・・・・・・　65
(6) 基礎看護学方法論Ⅴ　・・・・・・・・・・　66

基礎看護学

目的　　看護の概念と社会における看護の役割を理解し、人間理解と看護実践に必要な基礎的能力を養うとともに、自己の看護観を深める。

目標
1　看護に必要な人間・健康・環境・看護の概念を理解する。
2　看護の対象としての人間理解を深める。
3　社会における看護の機能と役割を理解する。
4　科学的根拠に基づいた看護を実践するための基本となる知識・技術・態度を習得する。
5　専門職業人としての態度を身につけ、主体的に学ぶ姿勢を養う。
6　自己の看護観を育む。

構成



分野	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護学概論	単位数	1	時期	1年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　看護の基本となる概念、および現代社会の中で果たすべき看護について理解する。 目標　1　看護の基本概念（人間・健康・環境・看護）について理解する。 2　看護の変遷や看護理論から現代社会に求められる看護の機能・役割について理解する。 3　生活者としての看護の対象を総合的に理解する。 4　現代における健康のとらえ方と国民の健康状態を理解する。 5　職業倫理としての看護倫理の重要性を理解するとともに、倫理的取り組みがわかる。 6　看護が提供される場と看護の特徴を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2 3	＜看護の概念＞ ・人間・健康・環境・看護の概念について考える。	1）看護の概念 人間・健康・環境・看護について	講義 演習 （6ｈ）	専任教員
4 5	＜看護とは＞ ・看護の変遷や定義を学び、その本質を理解する。 ・看護の役割を理解するとともに、継続看護やチーム医療の重要性・ケアチームの連携の必要性について理解する。	1）看護の本質 ⑴　看護の定義：看護理論家による看護の定義 ⑵　看護の変遷 2）看護の役割と機能 3）看護の継続性と情報共有 ⑴　医療機関：多職種チームにおける情報共有と継続性 ⑵　在宅療養に関する連携と継続性	講義	
6 7	＜看護の対象理解＞ ・看護の対象である人間が身体的・心理社会的存在であり生活者であることを理解する。 ・看護の対象を広く理解する。	1）人間のこころとからだ：ストレス理論、ニード理論 2）生涯発達しつづける存在：発達段階 3）人間の「暮らし」の理解 ⑴　生活者としての人間：生活の理解 ⑵　看護の対象としての家族・集団・地域		
8 9	＜国民の健康･生活の把握＞ ・現代の健康のとらえ方について理解する。 ・現代社会における健康観と生活の状況について学ぶ。	1）健康のとらえ方 2）国民の健康の全体像 3）国民のライフサイクルと健康・生活 4）現代の日本人の健康と生活		
10 11	＜看護の提供者＞ ・看護の歴史的背景を学ぶとともに、現代の看護職養成制度や就業状況を理解し、今後の看護における課題を知る。	1）職業としての看護 2）看護職の資格と養成に関わる制度 3）看護職者の就業状況と継続教育 4）看護職の養成制度の課題		
12 13	＜看護における倫理＞ ・看護倫理の重要性を理解し、現代医療における倫理的問題と取り組みについて学ぶ。	1）現代社会と倫理 2）医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 3）看護実践における倫理問題への取り組み ⑴　看護の倫理綱領 ⑵　看護実践場面での倫理的ジレンマと対応	講義 演習 （2ｈ）	
14	＜看護サービスの提供の場＞ ・看護が提供される場と看護の特徴を理解する。	1）医療施設における看護 2）地域における看護 3）継続看護	講義	
15	まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学［1］　看護学概論，医学書院 看護者の基本的責務　日本看護協会出版会
備考	

分野	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護学方法論Ⅰ	単位数	1	時期	1年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	目的　看護実践を行うための共通する知識・技術を習得する。 目標　1　看護における技術の考え方を理解する。 2　看護における安全の重要性を理解し、感染防止の技術を習得する。 3　看護における記録・報告の重要性を理解し、その基本を習得する。 4　看護におけるコミュニケーションの意義を学習し、効果的なコミュニケーション技術を習得する。 5　フィジカルアセスメントの具体的な方法・技術を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜看護技術の概念＞ ・看護における技術の考え方を理解する。	1）看護技術とは 2）看護技術の特徴 3）看護技術の基本原則	講義	専任教員
2 3 4 5	＜安全・安楽＞ ・看護技術の基盤としての安全・安楽を理解する。	1）看護における安全・安楽の意義 2）苦痛緩和・安楽確保の技術 3）感染防止の技術 ⑴　スタンダードプリコーション ⑵　ガウンテクニック ⑶　無菌操作 ⑷　感染性廃棄物の取り扱い	講義 (実技) (4h)	
6	＜記録・報告＞ ・看護における記録・報告の基本を理解する。	1）看護における記録、報告の基本 2）記録の必要性 3）報告の必要性 4）記録・報告の技術	講義	
7 8	＜コミュニケーション＞ ・効果的なコミュニケーション技術について理解する。	1）看護におけるコミュニケーションの意義 2）コミュニケーションの基礎知識 3）コミュニケーション技術の基本		
9 10 11 12 13 14	＜フィジカルアセスメント＞ ・対象の状態を的確に把握するための技術を理解する。	1）ヘルスアセスメントとは 2）全体の概観 ⑴　バイタルサインの観察とアセスメント ⑵　フィジカルアセスメント ①　呼吸器系のフィジカルアセスメント ②　腹部のアセスメント ③　筋・骨格系のアセスメント	講義 (実技) (4h)	
15	まとめ(1h)・試験(1h)		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学［2］基礎看護技術Ⅰ，医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学［3］基礎看護技術Ⅱ，医学書院 看護がみえるvol.1　基礎看護技術，メディックメディア 看護がみえるvol.2　臨床看護技術，メディックメディア 看護がみえるvol.3　フィジカルアセスメントがみえる，メディックメディア
備考	

分野	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護学方法論Ⅱ	単位数	1	時期	1年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	
目的	人々がよりよい健康生活を維持するために必要な基礎知識を理解し、日常生活の援助技術を習得する。
目標	1　健康的な生活環境を整えるための知識と技術を習得する。 2　日常生活の自立を支える援助技術を習得する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2 3	＜環境＞ ・快適な環境のための援助技術を理解する。	1）健康生活と環境 2）療養環境のアセスメント 3）療養環境の援助 (1)　病床環境の整備 (2)　ベッドメーキング (3)　臥床患者のシーツ交換	講義 (実技) (2h)	専任教員
4 5 6	＜活動・休息＞ ・活動・運動のための援助技術を理解する。 ・休息と睡眠のための技術を理解する。	1）活動・運動の意義 2）健康生活と睡眠の意義 3）睡眠行動のアセスメント 4）運動と休息の関係 5）睡眠・覚醒の援助 6）姿勢・活動のアセスメント 7）姿勢運動を補助する用具・設備の活用 8）移動と移送 9）健康生活とレクリエーション	講義 (実技) (2h)	
7 8 9 10	＜清潔＞ ・身体を清潔に保つための援助技術を理解する。	1）健康生活と清潔の意義 2）清潔行動のアセスメント 3）清潔の援助方法 (1)　寝衣交換 (2)　全身清拭 (3)　洗髪 (4)　口腔ケア (5)　足浴	講義 演習 (4h)	
11 12	＜栄養と食事＞ ・栄養と食事のための援助技術を理解する。	1）健康生活と食事の意義 2）食事行動のアセスメント 3）食事行動障害と援助の方法	講義 (実技) (2h)	
13 14	＜排泄＞ ・排泄のための援助技術を理解する。	1）健康生活と排泄の意義 2）排泄行動のアセスメント 3）排泄障害と援助の方法	講義 (実技) (2h)	
15	まとめ(1h)・試験(1h)		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学［3］ 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 看護がみえるvol.1　基礎看護技術，メデックメディア 看護がみえるvol.2　臨床看護技術，メディクメディア
備考	

分野	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護学方法論Ⅲ	単位数	1	時期	1年次後期
				時間数	30		

目的・目標	目的　診療に伴う患者の心理・看護の役割と援助方法を理解する。 目標　1　診察に関連する援助技術を習得する。 2　検査時の援助技術を学ぶ。 3　治療処置を受ける患者の心理を理解し、アセスメントと援助方法を学ぶ。 4　生命の危機に関わる技術を習得する。 5　医療機器の原理と実際を学ぶ。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2 3	＜診察に関連する援助技術＞ ・診察時・検査時の看護師の役割を学び、基本的な援助技術を理解する。	1）診察・検査時の看護師の役割 2）診察・検査を受ける患者の理解 3）検査時の看護技術 ⑴　検体検査 尿・便・喀痰・血液の採取および検査 ⑵　生体検査 X線撮影・CT・MRI 内視鏡検査・超音波検査・肺機能検査 核医学検査 4）静脈血採血の実際	講義 演習 （2h）	専任教員
4 5 6 7	＜治療・処置時の援助技術＞ ・治療処置時における看護師の役割を理解し、その基本的な援助技術を理解する。	＜薬物療法＞ 1）薬物療法とは 2）薬物療法の目的と各職種の責任と権限 3）薬物療法のアセスメント 4）薬物療法を受ける患者の看護 5）与薬の看護技術 ⑴　与薬に伴う具体的な援助 ⑵　輸血時の看護技術 6）与薬の実際 ⑴　皮下注射 ⑵　筋肉内注射	講義 (実技) （4h）	
8 9		＜穿刺＞ 1）穿刺の介助 ⑴　胸腔穿刺 ⑵　腹腔穿刺 ⑶　腰椎穿刺 ⑷　骨髄穿刺 ＜吸入・吸引＞ 1）酸素吸入療法 2）吸引 ⑴　一時的吸引 口腔内・鼻腔内・気管内吸引 ⑵　持続吸引 胸腔ドレナージの管理 ＜罨法＞ 1）冷罨法 2）温罨法 ＜包帯法＞ 1）援助の目的 2）巻軸帯の巻き方 3）三角巾を用いた上肢の固定方法	講義	

10		＜創傷管理＞ 1）創傷管理の基礎知識 2）創傷処置の方法 3）ドレッシング材	講義	非常勤講師
11		＜救急処置技術＞ 1）止血法 ⑴　直接的圧迫止血法 ⑵　間接的圧迫止血法 2）胃洗浄 ＜医療機器の原理＞ 1）医療機器の取り扱い ⑴　心電図 ⑵　パルスオキシメータ ⑶　輸液ポンプ ⑷　シリンジポンプ	講義	専任教員
12				
13		＜援助技術の実際＞ 1）酸素ボンベの操作 2）一時的吸引の技術 ⑴　口腔内・鼻腔内 ⑵　気管内吸引 3）基本的な包帯法 4）医療機器の基本的操作 ⑴　輸液ポンプ ⑵　シリンジポンプ	（実技） （4 h）	
14				
15	まとめ（1 h）・試験（1 h）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学［2］　基礎看護技術Ⅰ，医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学［3］　基礎看護技術Ⅱ，医学書院 看護がみえるvol.1　基礎看護技術，メデックメディア 看護がみえるvol.2　臨床看護技術，メデックメディア
備　　考	

分野	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護学方法論Ⅳ	単位数	1	時期	1年次後期
				時間数	30		

目的・目標	目的　健康障害を持つ対象を理解し、健康状態に応じた看護実践のための基礎的知識を身に付ける。 目標　1　臨床看護総論の意義と特徴、および健康障害を持つ患者と家族について理解し、援助する基本的知識を学ぶ。 2　健康障害の経過で起こりうる看護上の問題と患者の特徴を理解し、援助の基本を学ぶ。 3　主要症状に関する基礎的知識と、症状がおよぼす影響を理解し、援助の基本を学ぶ。 4　主な治療・処置に対する看護について学ぶ。 5　看護における保健指導の必要性を学ぶ。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜臨床看護の対象＞ ・健康障害をもつ対象の特徴を理解する。	1）患者と家族の理解 (1)　健康障害をもつ患者の理解 (2)　健康障害をもつ家族の理解	講義	専任教員
2 3 4	＜経過に基づく患者の看護＞ ・健康障害の経過でおこりうる看護上の問題点を学び、その援助方法の基本を理解する。	1）経過別看護の特徴 2）健康期における患者の看護 (1)　健康維持・増進をめざす看護の特徴 (2)　健康維持・増進をめざす人々のニーズと看護 3）急性期における患者の看護 (1)　急性期の特徴 (2)　急性期の患者のニーズと看護 4）慢性期における患者の看護 (1)　慢性期の特徴 (2)　慢性期の患者のニーズと看護 5）リハビリテーション期における患者の看護 (1)　リハビリテーション期の特徴 (2)　リハビリテーション期の患者のニーズと看護 6）終末期における患者の看護 (1)　終末期の特徴 (2)　死をめぐる倫理的課題 (3)　終末期の患者のニーズと看護		
5 6 7 8 9 10	＜主要症状を示す患者の看護＞ ・主要症状が身体におよぼす影響を学び、その援助方法の基本を理解する。	1）痛みのある患者の看護 2）呼吸障害のある患者の看護 (1)　呼吸困難の看護 3）循環障害のある患者の看護 (1)　浮腫の看護 4）体温調整障害のある患者の看護 (1)　発熱の看護 5）消化・排泄障害のある患者の看護 (1)　便秘の看護 (2)　下痢の看護 (3)　嘔吐の看護 6）睡眠障害のある患者の看護 (1)　不眠の看護		
11 12	＜治療・処置別看護＞ ・主な治療・処置時の看護を学び、その援助方法の基本を学ぶ。	1）放射線療法を受ける患者の看護 2）化学療法を受ける患者の看護	講義	非常勤講師
13 14	＜学習支援＞ ・看護における学習支援の必要性を理解する。	1）看護における学習支援 2）健康状態の変化に伴う学習支援 3）看護の中に含まれる学習支援	講義	専任教員
15	まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学［4］ 臨床看護総論，医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学［2］ 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 看護過程に沿った対症看護　病態生理と看護のポイント，学研
備考	

分野	専門分野Ⅰ	授業科目	基礎看護学方法論Ⅴ	単位数	1	時期	1年次 後期
				時間数	30		

目的・目標	目的　看護を科学的に実践するための、看護理論を用いて看護過程を展開できる基礎的能力を養う。 目標　1　看護過程の意義を理解する。 2　看護過程の展開方法を理解する。 3　事例を用いて、看護過程の展開ができる。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜看護過程の意義＞ ・看護過程の意義を理解する。	1）看護過程とは 2）看護過程の構成要素	講義	専任教員
2	＜看護過程の展開方法＞ ・看護過程の展開方法を理解する。	1）看護過程の展開方法 ⑴　情報収集の内容と方法 ⑵　情報の解釈・分析 ⑶　看護診断 ⑷　看護計画の立案 ⑸　実施 ⑹　評価		
3				
4	＜事例展開＞ ・事例を通して、看護過程の展開方法を習得する。	1）事例による看護過程の展開の実際 ⑴　情報の収集と整理 ⑵　情報の分析 ⑶　全体像の把握 ⑷　看護問題の明確化 ⑸　看護計画の立案 ⑹　評価・修正	講義 演習 （22ｈ）	
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15	まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ）		筆記試験	

評価方法	筆記試験、看護過程展開のレポート
参考文献と資料	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学［2］ 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント，ヌーヴェルヒロカワ 看護診断ハンドブック，医学書院 看護過程に沿った対症看護　病態生理と看護のポイント，学研
備考	

4．専門分野Ⅱ

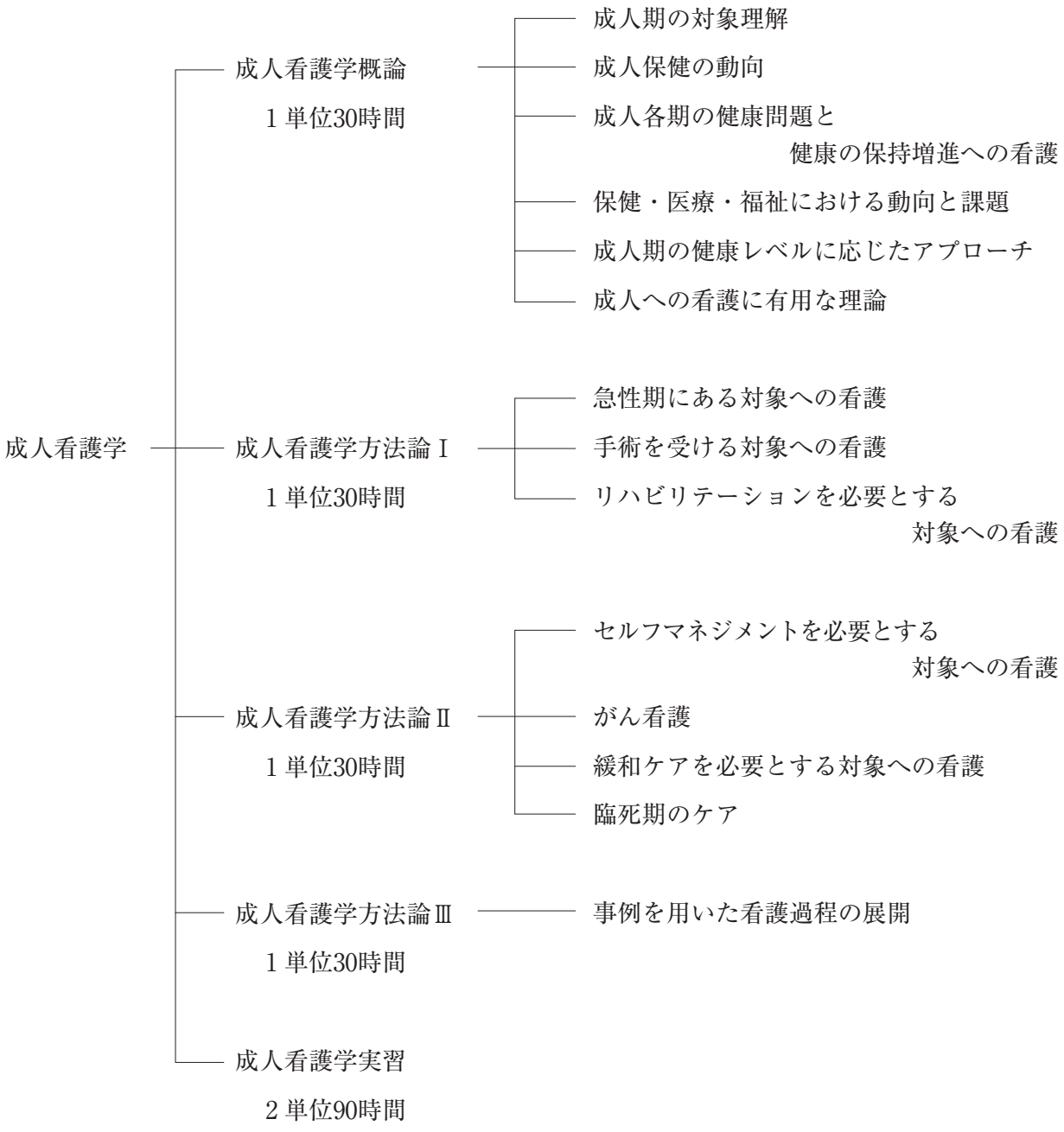
1）成人看護学 ・・・・・・・・・・ 69
(1) 成人看護学概論 ・・・・・・・・・・ 70
(2) 成人看護学方法論Ⅰ ・・・・・・・・・・ 72
(3) 成人看護学方法論Ⅱ ・・・・・・・・・・ 74
(4) 成人看護学方法論Ⅲ ・・・・・・・・・・ 76
2）老年看護学 ・・・・・・・・・・ 77
(1) 老年看護学概論 ・・・・・・・・・・ 78
(2) 老年看護学方法論Ⅰ ・・・・・・・・・・ 80
(3) 老年看護学方法論Ⅱ ・・・・・・・・・・ 81
3）小児看護学 ・・・・・・・・・・ 82
(1) 小児看護学概論 ・・・・・・・・・・ 83
(2) 小児看護学方法論Ⅰ ・・・・・・・・・・ 84
(3) 小児看護学方法論Ⅱ ・・・・・・・・・・ 86
4）母性看護学 ・・・・・・・・・・ 88
(1) 母性看護学概論 ・・・・・・・・・・ 89
(2) 母性看護学方法論Ⅰ ・・・・・・・・・・ 91
(3) 母性看護学方法論Ⅱ ・・・・・・・・・・ 93
5）精神看護学 ・・・・・・・・・・ 94
(1) 精神看護学概論 ・・・・・・・・・・ 95
(2) 精神看護学方法論Ⅰ ・・・・・・・・・・ 96
(3) 精神看護学方法論Ⅱ ・・・・・・・・・・ 97

成人看護学

目的　　成人期にある対象を総合的に理解し、健康の保持増進および健康障害時の看護を実践できる能力を養う。

目標　　1　成人期の身体的・精神的・社会的特徴をふまえて、対象を総合的に理解する。
2　成人期にある対象の健康上の課題をとらえ、健康レベルに応じた看護について理解する。
3　成人保健の動向および予防対策を学び、保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割を理解する。

構成



分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学概論	単位数	1	時期	1年次 後期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　成人各期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的にとらえ、健康問題と健康を保持増進するために必要な看護を学ぶ。 目標　1　成人各期の発達と特徴を学び、その時期に起こりやすい健康問題を理解する。 2　健康段階別の看護アプローチの基礎を理解する。 3　成人の特性や能力に応じた基本的なアプローチについて理解する。 4　成人保健の動向から現代社会における成人期の健康問題を考え、健康を保持増進する援助方法を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2	＜成人期の対象理解＞ ・ライフサイクルにおける成人の位置付けと特徴を理解する。 ・成人各期の発達区分と発達課題を理解する。 ・成人を取り巻く生活や環境について理解する。	1）成人期にある対象の理解 ⑴　ライフサイクルにおける成人期の位置づけ ・成人各期の区分と特徴 ⑵　成人期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴 ・成人各期の発達課題 ⑶　家族形態と機能 ・生活様式、社会状況の変化	講義	専任教員
3	＜成人保健の動向＞ ・成人保健の動向を学ぶ。	1）成人保健の動向 ⑴　人口構造の変化 ⑵　平均寿命の延長 ⑶　死亡の動向：死亡原因の変化	講義	
4 5	＜成人各期の健康問題と健康の保持増進への看護＞ ・成人期における健康問題と健康の保持増進のための看護について理解する。	1）成人各期における健康問題 2）成人各期における健康の保持増進への看護 3）継続看護と健康教育 ⑴　継続看護の重要性 ⑵　成人とその家族への健康教育	講義 演習 （2ｈ）	
6 7 8	＜保健・医療・福祉における動向と課題＞ ・成人期の生活に直結した健康障害の発生機序と対処方法を理解する。 ・健康の保持・増進を図るための対応について理解する。	1）成人期の健康障害の特徴 ⑴　生活習慣・ストレスに関する問題 ⑵　感染に関する問題 ⑶　リウマチ・アレルギーに関する問題 ⑷　職業に関する問題 ⑸　セクシュアリティに関する問題	講義 演習 （4ｈ）	
9		2）一次・二次・三次予防対応について ⑴　ヘルスプロモーションの施策 ⑵　医療・福祉の施策	講義	
10 11	＜成人期の健康レベルに応じたアプローチ＞ ・多様な健康レベルに応じた成人特有なアプローチ方法を理解する。	1）健康段階別の対象理解とアプローチ ⑴　ヘルスプロモーションを必要とする対象とその援助 ⑵　治療を必要とする対象とその援助 ⑶　健康の再構築への支援を必要としている対象とその援助 ⑷　ターミナル期の援助を必要としている対象とその援助	講義	

12 13 14	＜成人への看護に有用な理論＞ ・成人期を理解するために有効な理論やモデルについて学び、成人看護について理解を深める。	1）成人看護に使用される理論・モデル ⑴　ニード論 ⑵　セルフケア理論 ⑶　適応理論 ⑷　アンドラゴジー ⑸　病みの軌跡	講義 演習 （4 h）	専任教員
15	まとめ（1 h）・試験（1 h）		筆記試験	
評価方法	筆記試験			
参考文献と資料	成人看護学概論，ヌーヴェルヒロカワ 国民衛生の動向			
備　　考				

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学方法論Ⅰ	単位数	1	時期	2年次前期
				時間数	30		

目的・目標	
目的	急性期・周手術期、リハビリテーション期にある対象への看護を学ぶ。
目標	1　急性の経過をたどる成人期の対象および家族を理解し、生命の危機状態を回避し、早期回復に向けての援助方法を理解する。 2　リハビリテーション期にある成人期の対象および家族を理解し、社会復帰を目指した援助方法を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2	＜急性期にある対象への看護＞ ・急性期看護の概念を理解する。 ・急性期にある成人期の対象と家族の特徴を理解する。 ・成人期における急性期看護の特徴を理解する。 ・急激な身体的変化をきたし、健康の危機状態にある成人期の対象の特徴と看護活動の基本について理解する。 ・主な生命危機状態に対する対応について理解する。	1）成人に対する急性期看護の考え方 ⑴　急性期看護の考え方 ①　急性期看護とは ②　急性期にある成人期の対象と家族の特徴 ③　急性期看護の特徴 2）急性期にある成人期の対象の理解 ⑴　身体的反応 ⑵　心理的反応 3）急性期にある成人期の対象への看護活動 ⑴　看護援助に必要な概念 ⑵　急性期の看護活動 ①　治療と介助 ②　モニタリング ③　合併症予防と苦痛・環境の調整 ④　家族支援 ⑤　多職種連携	講義	専任教員
3 4		1）生命危機状態のアセスメント 2）救急処置と看護 ⑴　心肺停止状態への対応 ⑵　意識障害への対応 ⑶　ショックへの対応 ⑷　外傷・熱傷・中毒への対応 3）救急救命処置 ⑴　気道確保 ⑵　人工呼吸 ⑶　胸骨圧迫 ⑷　ＡＥＤを用いた除細動	講義 （実技） （2ｈ）	非常勤講師
5 6	＜手術を受ける対象への看護＞ ・手術侵襲が身体的・心理的・社会的に、どのような影響を与えるのかを理解する。	1）周手術期の看護の考え方 ⑴　手術の定義 ⑵　手術療法の変遷 ⑶　手術患者の不安 ⑷　周手術期看護の専門性・看護の役割 2）周手術期にある対象の特徴 ⑴　手術侵襲による生体反応：術後合併症のリスク ⑵　手術患者の不安 ⑶　術後疼痛の体験 ⑷　ボディイメージの変容	講義	専任教員
7	・手術侵襲からの回復に向けての看護を理解する。	1）周手術過程に応じた看護 ⑴　術前看護 ①　インフォームドコンセント ②　手術オリエンテーション ③　術前アセスメント：合併症リスク ④　不安やボディイメージ変容への援助	講義	

8 9 10		(2) 術中の看護 ① 麻酔による影響と導入・覚醒の援助 ② 手術体位の固定 ③ 手術中の看護師の役割 (3) 術後の看護 ① 術直後のモニタリング ・生体反応、術後合併症 ・創部ドレーン、チューブ類の管理 ・低圧持続吸引 ② 疼痛緩和ケア ・硬膜外麻酔 ③ 術後回復促進のケア ・呼吸、循環ケア ・早期体動促進のケア ・創傷ケア ④ 退院支援	講義 演習 （4 h）	専任教員
11 12 13	＜リハビリテーションを必要とする対象への看護＞ ・リハビリテーションに関連した考え方や支援施策について理解する。 ・リハビリテーションを必要とする成人の対象と家族の特徴を理解する。 ・障害を抱える対象に対する支援の視点や具体的方法について多面的に理解する。	1）リハビリテーション看護の考え方 (1) リハビリテーション看護とは (2) リハビリテーション期にある成人の対象と家族の特徴 (3) 時期・目的に応じたリハビリテーション看護の特徴 2）リハビリテーションに用いられる概念 (1) 障害分類（ＩＣＦ）の確立 (2) ＡＤＬ、ＩＡＤＬ 3）リハビリテーションにおける倫理、法律、施策 (1) 障害者の概念と権利 (2) 障害者を支える法律とサービス 4）対象の身体的・心理・社会的支援 (1) 身体機能のアセスメント (2) 障害受容を支えるケア (3) 家族支援 (4) 居住環境の調整 5）チームアプローチと看護の役割 (1) 多職種によるチームアプローチ (2) チームにおける看護師の役割	講義	専任教員
14		6）障害からの身体機能回復を促す看護 (1) 廃用症候群予防 (2) ＡＤＬの再獲得を支援する援助 ① 身体機能回復を促す看護 ・大腿四頭筋等尺運動 ② 自助具・補助具の活用 ・歩行器、杖歩行	講義	非常勤講師
15	まとめ（1 h）・試験（1 h）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	成人看護学　急性期看護論，ヌーヴェルヒロカワ 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　別巻4　救急看護学，医学書院 成人看護学　周手術期看護論，ヌーヴェルヒロカワ 成人看護学⑤　リハビリテーション看護，　メディカ出版 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学〔11〕 運動器，医学書院
備　　考	

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学方法論Ⅱ	単位数	1	時期	2年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	目的　セルフマネジメントを必要とする対象とがんおよび終末期にある対象への看護を学ぶ。 目標　1　セルフマネジメントを必要とする成人期の対象および家族を理解し、セルフコントロールをするための援助方法を理解する。 2　成人期にあるがん患者とその家族の特徴およびがん治療について理解し、治療に関する看護と療養生活を支える看護について理解する。 3　終末期にある成人期の対象および家族を理解し、身体的・精神的苦痛の緩和方法と残された日々を有意義に過ごすための援助方法を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜セルフマネジメントを必要とする対象への看護＞ ・セルフマネジメントの考え方とセルフマネジメントが必要な対象の特徴を理解する。	1）セルフマネジメントとは ⑴　セルフマネジメントとは ⑵　セルフマネジメント支援の構成要素と主要概念 ⑶　セルフマネジメントにおける看護師の責任と必要な能力 2）セルフマネジメントのための対象理解 ⑴　本人と病気の位置関係モデル ⑵　コンプライアンスとアドヒアランス	講義	専任教員
2	・セルフケアマネジメントに関する様々な理論や考え方を理解する。	1）成人教育学 ⑴　成人教育学の基本的な考え方とその特徴 2）エンパワメントモデル ⑴　エンパワメントとパワレスネス ⑵　エンパワメントのアプローチ 3）自己効力理論 ⑴　効力予期と結果予期 ⑵　自己効力を高める情報と指導者の自己効力		
3	・セルフマネジメントを必要とする対象を理解する。 ・セルマネジメントの方法について理解する。	1）対象理解 ⑴　援助者としての役割の明確化 ⑵　生活者としての対象からの物語を聴く 2）援助方法 ⑴　対象の気になっていることの明確化 ⑵　共同目標の設定 ⑶　アクションプラン設定の援助 3）様々なマネジメントの概念		
4	・主要な慢性病とともに生きるためのセルフマネジメントの支援方法を理解する。	1）慢性病とともに生きるセルフマネジメント ⑴　糖尿病のセルフマネジメントに向けた看護 ①　糖尿病が生活に及ぼす影響 ②　セルフマネジメント支援の実際 ・簡易血糖測定、インスリン自己注射法 ⑵　腎不全のセルフマネジメントに向けた看護 ①　腎不全が生活に及ぼす影響 ②　セルフマネジメント支援の実際 ・血液透析、腹膜透析 ⑶　慢性呼吸不全のセルフマネジメント ①　慢性呼吸不全が生活に及ぼす影響 ②　セルフマネジメント支援の実際 ・呼吸法 ・人工呼吸器の管理と看護 ・在宅酸素療法の管理と看護	講義 (実技) (2h)	非常勤講師
5				
6				
7				

8 9 10	＜がん看護＞ ・がんを取り巻く現状を理解する。 ・成人期のがん患者とその家族の特徴および苦痛の緩和に向けた看護を理解する。 ・がん治療とその看護について理解する。 ・地域で療養するがん患者への支援について理解する。 ・がん患者の終末期におけるケアの考え方について理解する。	1）がん医療の現在 ⑴ がんを取り巻く状況 ⑵ がんについての理解：動向、リスク因子 2）がん患者の看護 ⑴ がん患者の苦痛 ① 転移・浸潤に伴う心身の苦痛 ② 再発や今後の見通しに関連した心理的苦痛 ③ 社会偏見や制約に伴う苦痛 ④ スピリチュアルな苦痛 3）がん治療と看護 ⑴ 広範囲で侵襲の高い手術療法 ⑵ 集約的治療 4）がん患者の療養における看護 ⑴ 就労と就労環境の調整 ⑵ 社会参加に向けた支援 5）がん患者における終末期の理解 ⑴ 終末期のとらえ方 ⑵ がん医療における意思決定支援 ・アドバンスケアプランニング	講義	非常勤講師
11 12 13	＜緩和ケアを必要とする対象への看護＞ ・緩和ケアを必要とする対象を全人的に理解する。 ・緩和ケアを必要とする対象の抱える全人的苦痛その治療・看護を理解する。 ・緩和ケアを必要とする対象の家族の看護について理解する。 ・緩和ケアを必要とする対象の終末期における看護について理解する。	1）緩和ケアとは ⑴ 緩和ケアとは ⑵ 緩和ケア、ターミナルケア、サポーティブケア、エンドオブライフケア 2）緩和ケアを必要とする対象の理解 ⑴ 緩和ケアを必要とする成人期の対象の心身の特徴 ⑵ 緩和ケアを必要とする成人期の対象の社会的・霊的特徴 ⑶ 緩和ケアを必要とする成人期の対象の家族の特徴 3）緩和ケアを必要とする対象の全人的アセスメント 4）身体症状とその治療・看護 ・疼痛、全身倦怠感、消化器症状、呼吸困難 5）精神症状とその治療・看護 ⑴ 不安・不眠の治療と看護 ⑵ 抑うつ・せん妄の治療と看護 6）社会的ケア：ソーシャルサポート 7）スピリチュアルケア 8）意思決定とコミュニケーション ⑴ がん医療における意思決定 ・アドバンスケアプランニング ⑵ 意思決定を指させるコミュニケーション 9）家族ケア ⑴ 緩和ケアにおける看護師の役割 ⑵ 予期悲嘆と家族ケア ⑶ 悲嘆と遺族ケア	講義	非常勤講師
14	＜臨死期のケア＞ ・臨死期にある対象の身体変化と看護を理解する。	1）臨死期にある対象の全身状態 2）臨死期のケア 3）臨終後のケア	講義	非常勤講師
15	まとめ（1 h）・試験（1 h）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	成人看護学③　セルフマネジメント，メディカ出版 系統看護学講座　別巻　がん看護学，医学書院 ナーシンググラフィカ　緩和ケア，メディカ出版
備　　考	

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	成人看護学方法論Ⅲ	単位数	1	時期	2年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	
目的	成人期にある対象の理解や看護に関する知識を総合し、看護問題の解決に必要な知識と技術を習得するとともに問題解決能力を養う。
目標	1　成人期にある対象の健康問題をアセスメントし、計画・実施・評価できるよう看護過程の展開の基本技術を習得する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜成人期にある対象をとらえた看護過程＞ ・成人期にある対象をとらえた看護過程の特徴を理解する。	1）成人期にある対象をとらえた看護過程 ⑴　対象の特徴と看護過程のポイント ⑵　健康レベルを踏まえた看護過程のポイント	講義	専任教員
2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	＜事例を用いた看護過程の展開＞ ・成人の特徴をふまえた看護過程の展開方法を理解する。	1）アセスメント ⑴　情報整理と情報分析 ①　個人的特性、年、学歴、職業、経済状況、発達課題、家族構成など ②　生活状況と習慣 ③　疾病・治療について ・現状とそれに対する本人家族の認識 ④　日常生活でセルフケアを困難にさせる要因 ⑵　問題点の明確化 ①　関連図による全体像の把握 ②　問題リスト：看護診断、優先順位の決定 2）計画立案 ⑴　期待される結果の設定 ⑵　具体策 ①　合併症の予防 ②　回復を促す援助 ③　患者および家族に対する指導 3）実施 4）評価 5）まとめ	講義 演習 （28ｈ）	

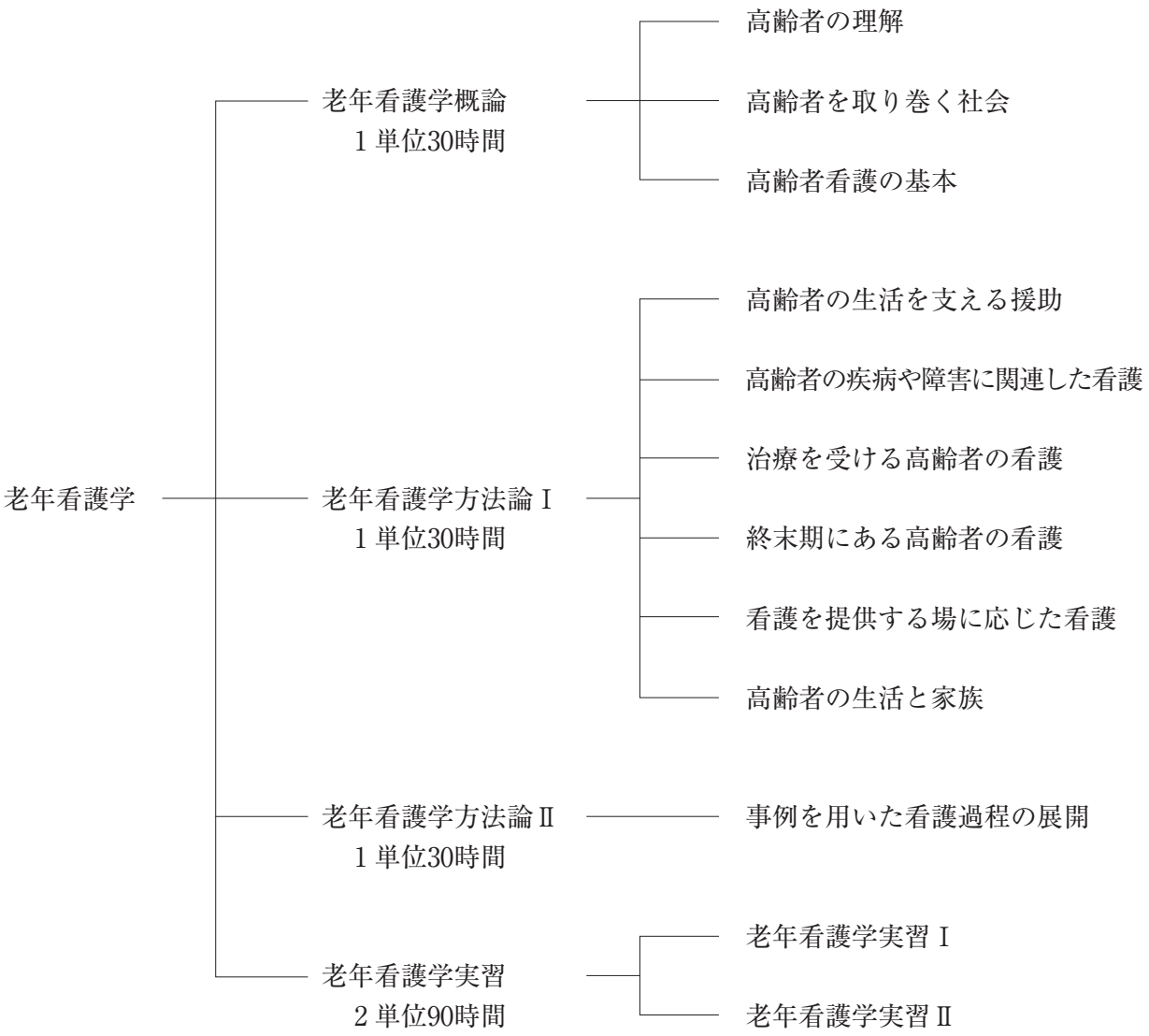
評価方法	看護過程展開のレポート　学習姿勢
参考文献と資料	成人看護学　周手術期看護論，ヌーヴェルヒロカワ 看護過程に沿った症状看護　病態生理と看護のポイント，学研 看護診断ハンドブック，医学書院 系統別看護講座　専門分野Ⅱ　成人看護学［5］ 消化器，医学書院 ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント，ヌーヴェルヒロカワ
備考	

老年看護学

目的　　老年期にある人と家族を中心としたソーシャルサポートについて理解し、加齢と健康障害による影響を受けた高齢者に対する看護について学ぶ。

目標　1　高齢者の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化について理解できる。
2　高齢者の健康や生活の個別性や多様性が理解できる。
3　老年看護の目的と役割が理解できる。
4　高齢社会による社会の現状と動向が理解できる。
5　高齢者の日常生活に起こりやすい問題と健康的な生活を過ごすための援助が理解できる。
6　高齢者における健康障害の特徴と、残存機能を生かした自立した日常生活を支える援助が理解できる。
7　高齢者の特徴と健康障害の影響をふまえた看護過程の展開方法が理解できる。

構成



分野	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学概論	単位数	1	時期	1年次 後期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　老年期にある対象の健康と生活を理解するとともに、高齢者を取り巻く社会情勢を学び、老年看護の役割を理解する。 目標　1　老年期にある対象について理解する。 2　高齢者を取り巻く社会情勢と生活の実情を理解することで、保健・医療・福祉における課題がわかる。 3　老年看護の役割と老年看護活動の特徴を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜高齢者の理解＞ ・様々な側面から高齢者を理解する。	1）高齢者とは ⑴　ライフサイクルからみた高齢者の理解 ⑵　加齢と老化 ⑶　人口の高齢化 ⑷　健康指標からみた高齢者の理解 ・平均寿命、死亡率、死因、死亡場所 ・疾病構造、有病率と有訴率 ・受診行動とその動向 ・要介護高齢者の動向 ⑸　生活視点からの老年期の理解 ・生活環境：住居 ・役割、社会活動、余暇活動 ・家族構成、世帯構成 ・就労、収入 2）高齢者の特徴と理解 ⑴　老年期の特徴 ・発達課題　・喪失体験 ⑵　高齢者の理解 ・高齢者の多様性 （人生や経験、生活習慣、生活様式） ・高齢者の生活史 3）高齢者にとっての健康 ⑴　高齢者の健康の目標 ・サクセスフルエイジング ⑵　高齢者の健康状態のアセスメント ⑶　高齢者の自立を妨げる要因 ・フレイル 4）高齢者とＱＯＬ	講義	専任教員
2				
3				
4		5）加齢に伴う変化 ⑴　加齢に伴う変化の特徴 ⑵　加齢に伴う身体的生理機能の変化 ⑶　加齢に伴う心理・精神的機能の変化 ⑷　加齢に伴う社会的機能の変化	講義 演習 （８ｈ）	
5				
6				
7				
8				

9 10 11	＜高齢者を取り巻く社会＞ ・高齢者を取り巻く社会資源について理解する。	1）高齢者を支える制度 ⑴　高齢者を支える制度の全体像 ⑵　医療保険制度 ⑶　介護保険制度 ⑷　成年後見制度 2）高齢者を支える社会資源 ⑴　社会支援とは何か ⑵　サービスの内容・特徴からみた社会資源の種類	講義	非常勤講師
12 13 14	＜高齢者看護の基本＞ ・高齢者に対する看護の基本を理解する。	1）高齢者看護の特性 ⑴　高齢者を看護する者の態度 ⑵　高齢者の特性からみた高齢者看護 2）高齢者看護に関わる諸理論 ⑴　身体面に関する理論 ・エイジング　・生理的老化と病的老化 ⑵　心理社会面に関する理論 ・エイジズム　・発達課題　・適応 3）高齢者看護に適用する理論 ・エンパワメント　・ストレングスモデル ・ライフレビュー　・ナラティブアプローチ ・アドボカシー　・コンフォート理論 4）高齢者看護における倫理 ・自己決定　・虐待と身体拘束 ・死と医療　・尊厳死と延命治療 5）高齢者に対するアセスメント ⑴　包括的な機能のアセスメント ・高齢者総合機能評価 ・ＡＤＬとＩＡＤＬ　・寝たきり度 6）高齢者によくみられる疾患 ⑴　高齢者に起こりやすい疾患の特徴 7）高齢者看護におけるチームアプローチ 8）高齢者のリスクマネジメント	講義	専任教員
15	まとめ（１ｈ）・試験（１ｈ）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版 国民衛生の動向
備　　考	

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学方法論Ⅰ	単位数	1	時期	2年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	目的　老年期における健康障害の特徴を学び、健康と生活を支える援助方法を理解する。 目標　1　高齢者の生活を支える援助方法を理解する。 2　高齢者特有の症状や障害・疾病に応じた援助方法を理解する。 3　高齢者の終末期に対する看護を理解する。 4　高齢者の療養や生活の場に応じた看護を理解する。 5　高齢者を支える家族に対する看護を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2 3	＜高齢者の生活を支える看護＞ ・高齢者の状況をとらえ生活を支える援助方法を理解する。	1）高齢者の生活を支える看護 (1)　コミュニケーション (2)　食生活：嚥下や嗜好に応じた食生活 (3)　排泄：便秘 (4)　清潔・更衣：負荷や危険性をとらえた援助 (5)　活動と休息：生活リズムの調整 (6)　セクシュアリティ (7)　社会参加	演習 （6ｈ）	専任教員
4 5 6 7	＜高齢者の疾病や障害に関連した看護＞ ・高齢者特有の症状や障害に応じた援助方法を理解する。	1）高齢者に特有な症状・障害と看護 (1)　脱水症に対する看護 (2)　摂食・嚥下障害、低栄養に対する看護 (3)　掻痒症に対する看護 (4)　尿失禁に対する看護 (5)　うつ・せん妄に対する看護 (6)　廃用症候群に対する看護 (7)　パーキンソン症候群に対する看護	講義	
8		2）スキンケア・褥瘡に関する看護	講義	非常勤講師
9 10	・認知症に関する知識を学び、基本的な援助方法を理解する。	1）認知症の看護 (1)　認知症の病態と要因 (2)　症状の理解とケア (3)　評価方法 (4)　コミュニケーションの基本 (5)　療法的アプローチ：予防治療 (6)　家族支援とサポートシステム	講義	非常勤講師
11	＜治療を受ける高齢者の看護＞ ・治療を受ける高齢者に対する援助方法を理解する。	1）治療を受ける高齢者の看護 (1)　薬物療法を受ける高齢者に対する看護 (2)　手術療法を受ける高齢者に対する看護	講義	専任教員
12	＜終末期にある高齢者の看護＞ ・終末期にある高齢者への援助方法を理解する。	1）終末期にある高齢者に対する看護 (1)　高齢者の終末期看護の実践 (2)　高齢者を看取る家族への援助		
13	＜看護を提供する場に応じた看護＞ ・保健施設、福祉施設における看護を理解する。	1）長期療養施設・在宅の看護 (1)　介護保険施設と看護 ・特別養護老人ホーム、介護老人保健施設 (2)　地域密着型サービスと看護 ・グループホーム、小規模多機能型居宅介護 (3)　デイサービス・デイケアと看護	講義	非常勤講師
14	＜高齢者の生活と家族＞ ・高齢者を支える家族に対する援助を理解する。	1）高齢者の生活と家族 (1)　高齢者と家族のライフサイクル (2)　高齢者がいる家族 (3)　高齢者と家族の関係 (4)　要介護高齢者と家族介護者 ・介護者の生活と健康 2）地域包括ケアシステムとは	講義	専任教員
15	まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	老年看護学①　高齢者の健康と障害　　メディカ出版 老年看護学②　高齢者看護の実践　　メディカ出版
備考	

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	老年看護学方法論Ⅱ	単位数	1	時期	2年次前期
				時間数	30		

目的・目標	目的　健康障害のある高齢者を対象として看護過程を展開することで、問題解決能力を養う。 目標　1　老年期にある対象の健康問題を明確にし、看護計画立案・援助の実践と評価を行うことで、看護過程を展開できる基礎的能力を習得する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	＜老年期にある対象の看護過程＞ ・老年期の特徴を踏まえた事例を展開することで、看護過程の展開方法を理解する。	1）老年期を対象とした看護過程の展開 ⑴　老年期にある対象の特徴を踏まえた看護過程の展開とは 2）病態の理解 ⑴　病態のとらえ方（病態マップの作成） 3）老年期にある対象の事例を用いた看護過程の実際 ⑴　情報収集 ・フェイスシートについて ・病理的状態について ・11の機能的健康パターンについて ⑵　病理的状態のアセスメント ⑶　11の機能的健康パターンにおけるアセスメント ⑷　関連図について ⑸　問題点の明確化：看護診断、問題リスト ⑹　看護計画の立案 ⑺　看護援助の実際 ⑻　援助の実施と評価	講義 演習 （28ｈ）	専任教員

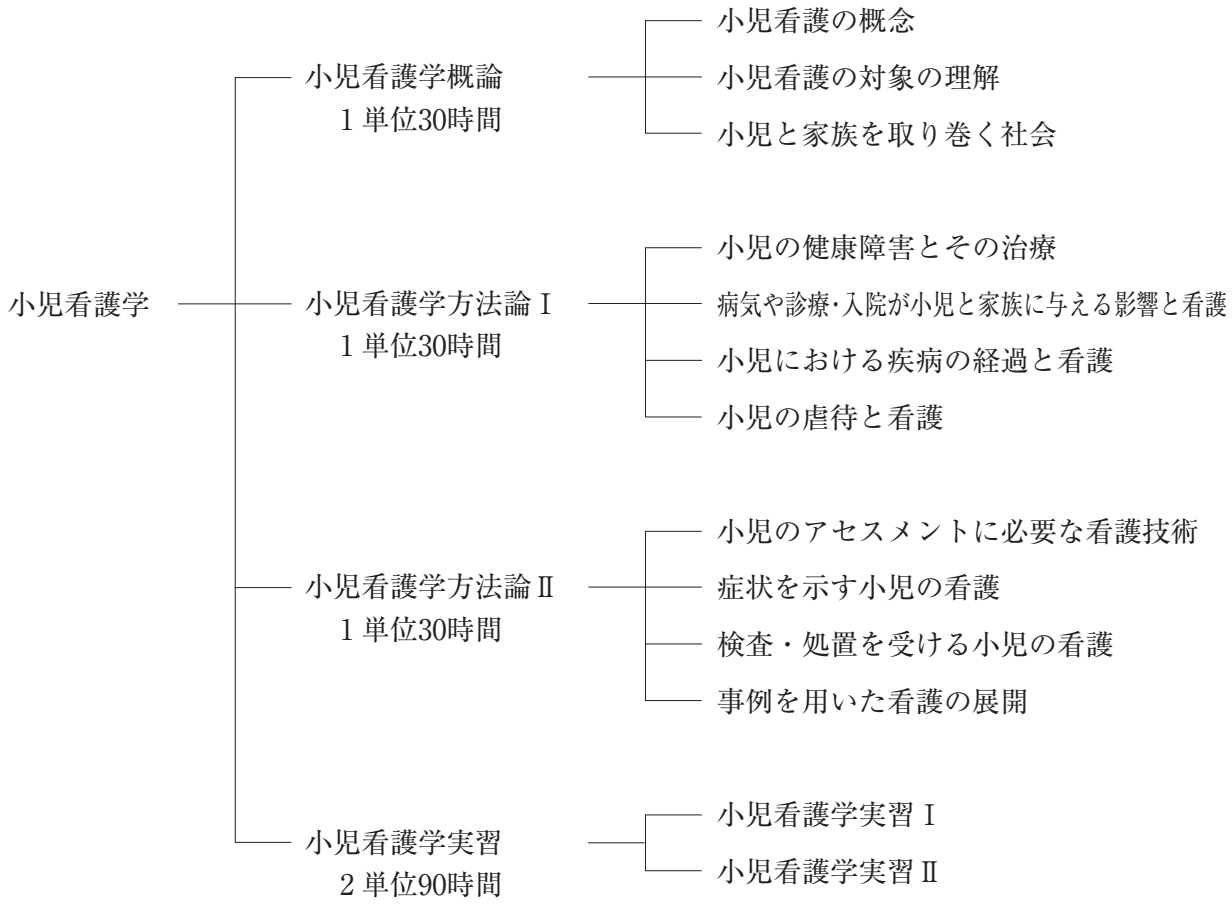
評価方法	看護過程展開のレポート、学習姿勢
参考文献と資料	老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版 老年看護学②　高齢者看護の実際　メディカ出版 看護診断ハンドブック，医学書院
備考	

小児看護学

目的　　小児の特徴を理解し、成長・発達に応じた擁護と、あらゆる健康段階にある小児とその家族に必要な看護ができる基礎的能力を養う。

目標　　1　小児各期の成長・発達の特徴と日常生活や小児を取り巻く環境の意義を理解する。
2　様々な健康障害をもつ小児と家族を理解し、適切な看護ができる基礎知識・技術を習得する。
3　小児とその家族を取り巻く社会の状況と動向および健康を保持増進するための保健・医療・福祉について理解する。
4　小児を一人の人間として尊重できる態度を養う。

構成



分野	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学概論	単位数	1	時期	2年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　小児の成長・発達および小児各期の特徴に適した生活と養護を理解し、健全な成長・発達を促進するための看護を理解する。 目標　1　小児と家族を取り巻く環境を理解する。 2　小児の成長・発達と特徴を理解する。 3　小児各期の成長・発達に応じた健康な生活を送るための看護を理解する。 4　小児にとっての家族の機能と役割を理解する。 5　小児を保護する法律や政策を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2	＜小児看護の概念＞ ・小児看護の目的・役割を理解する。	1）小児看護の対象の理解 2）小児看護の目的と役割 3）小児と家族の諸統計 4）小児医療・小児看護の変遷 5）小児看護の課題 6）小児看護における倫理	講義	専任教員
3 4 5 6 7 8 9 10 11	＜小児看護の対象の理解＞ ・小児の成長発達のプロセスと評価方法を知り、小児の特徴を理解する。 ・小児各期の特徴をふまえ健康な生活と看護を理解する。 ・小児にとっての家族の機能と役割を理解する。	1）小児の成長・発達 (1)　成長・発達の概念 (2)　成長・発達の原則と影響因子 (3)　成長・発達の評価 2）小児各期における成長・発達の特徴 (1)　形態的発達 (2)　機能的発達 (3)　感覚・運動機能の発達 (4)　心理・社会的発達 3）小児各期の成長・発達に応じた養育および看護 4）小児各期における栄養・食事の特徴 (1)　栄養の意義 (2)　栄養の特徴 (3)　食育 5）家族の特徴とアセスメント (1)　小児にとっての家族 (2)　家族アセスメント		
12 13 14	＜小児と家族を取り巻く社会＞ ・小児を保護する法律や政策を理解する。	1）小児をめぐる法律と政策 (1)　児童福祉 (2)　虐待防止 (3)　学校保健 (4)　予防接種 (5)　医療費の支給	講義 演習 （4 h）	
15	まとめ（1 h）・試験（1 h）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論　医学書院 国民衛生の動向
備　考	

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学方法論Ⅰ	単位数	1	時期	2年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　小児の健康障害の特徴および健康障害が小児と家族に及ぼす影響を理解し、健康段階に応じた看護をするための援助方法を習得する。 目標　1　小児の健康障害の特徴およびその治療を理解する。 2　健康障害が小児と家族に及ぼす影響を理解する。 3　小児の健康障害に応じた看護の方法を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜小児の健康障害とその治療＞ ・小児に出現しやすい疾病・症状とその治療について理解する。	1）遺伝子・染色体の異常と形態異常 (1) ダウン症候群 (2) ターナー症候群 2）代謝性疾患 (1) 新生児マススクリーニング (2) 先天性代謝異常 (3) 糖尿病（成人との違いのみ） 3）新生児の疾患 (1) 高ビリルビン血症 4）循環器疾患 (1) 先天性心疾患 (2) 後天性心疾患（川崎病を含む） 5）血液・造血器疾患 (1) 血友病 (2) 紫斑病（血小板減少性、アレルギー性）	講義	非常勤講師
2				
3		6）悪性新生物 (1) 白血病 (2) 脳腫瘍 7）腎・泌尿器疾患 (1) 泌尿・生殖器の奇形 (2) 腎糸球体疾患 (3) ネフローゼ症候群 8）神経疾患 (1) てんかん (2) 熱性けいれん (3) 脳性麻痺 (4) 筋ジストロフィー (5) 水頭症 9）精神疾患 (1) 自閉症 (2) 注意欠陥／多動性障害	講義	非常勤講師
4				
5		10）アレルギー性疾患 (1) 小児気管支喘息 (2) アトピー性皮膚炎 11）感染症 (1) 麻疹 (2) 風疹 (3) 水痘 (4) 髄膜炎 (5) 百日咳 (6) 流行性耳下腺炎 (7) 伝染性紅斑	講義	非常勤講師
6		12）呼吸器疾患 (1) 肺炎 13）消化器疾患 (1) 唇裂・口蓋裂 (2) 腸重積症 (3) 肥厚性幽門狭窄症 (4) ロタウイルス腸炎 (5) ノロウイルス感染症		

7 8	＜病気や診療･入院が小児と家族に与える影響と看護＞ ・病気・障害をもつ小児と家族の看護について理解する。 ・小児の状況に特徴づけられる看護について理解する。	1）病気・障害をもつ小児と家族の看護 (1) 病気・障害が小児と家族に与える影響 (2) 小児の健康問題と看護 2）外来における小児と家族の看護 (1) 外来の特徴と看護の役割 (2) 外来の機能と求められる看護 3）入院中の小児と家族の看護 (1) 入院環境と看護の役割 (2) 入院中の小児と家族の特徴 (3) 入院中の小児と家族の看護 4）障害のある小児と家族の看護 (1) 障害のとらえ方 (2) 障害のある小児と家族の特徴 (3) 障害のある小児と家族の社会的支援 5）在宅療養中の小児と家族の看護 6）災害時の小児と家族の看護	講義	非常勤講師
9 10 11 12	＜小児における疾病の経過と看護＞ ・小児における疾病の経過と看護について理解する。 ・特殊な状況にある小児と家族の看護について理解する。	1）慢性期にある小児と家族の看護 (1) 慢性期の特徴 (2) 小児と家族の看護 2）急性期にある小児と家族の看護 (1) 急性期の特徴 (2) 小児と家族の看護 3）周手術期の小児と家族の看護 (1) 周手術期の特徴 (2) 小児と家族の看護 4）終末期の小児と家族の看護 (1) 終末期の特徴 (2) 小児と家族の看護 5）生活制限のある小児と家族の看護 (1) 隔離 (2) 活動制限 (3) 食事制限	講義	専任教員
13 14	＜小児の虐待と看護＞ ・虐待を受けている小児と家族の看護について理解する。	1）児童虐待と看護 (1) 児童虐待へ対策の経緯と現状 (2) 児童虐待の特徴と看護	講義 演習 （2 h）	
15	まとめ（1 h）・試験（1 h）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論，医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔2〕小児臨床看護各論，医学書院 写真でわかる小児看護技術　アドバンス，インターメディカ
備　　考	

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	小児看護学方法論Ⅱ	単位数	1	時期	2年次後期
				時間数	30		

目的・目標	目的　健康上の問題をもつ子どもの看護を学ぶ。 目標　1　小児のアセスメントに必要な知識と技術を習得する。 2　健康障害をもつ子どもの看護を症状別、検査・処置別に理解する。 3　小児看護の特性をふまえ、健康問題をアセスメントし、計画・実施・評価できるよう看護過程の展開の基本技術を習得する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2 3	＜小児のアセスメントに必要な看護技術＞ ・小児看護学に特有な技術を理解する。	1）小児のアセスメントに必要な技術 ⑴　アセスメントに必要な技術 ①　コミュニケーション ②　バイタルサイン ③　身体測定（身長、体重、胸囲、頭囲、大泉門） ⑵　身体的アセスメント ①　フィジカルアセスメント	講義 （実技） （2ｈ）	専任教員
4 5	＜症状を示す小児の看護＞ ・子どもの病気の症状とその看護を理解する。	2）症状を示す小児の看護 ⑴　それぞれの症状の特徴と原因 ①　不機嫌・啼泣　②　痛み ③　発熱 ④　脱水 ⑤　嘔吐・下痢 ⑥　呼吸困難 ⑦　けいれん ⑵　アセスメントと看護	講義	
6 7	＜検査・処置を受ける小児の看護＞ ・子どもが受ける検査・処置時の看護を理解する。	3）検査・処置を受ける小児の看護 ⑴　検査・処置総論 ⑵　薬物動態と薬用量の決定 ⑶　検査・処置各論 ①　与薬（内服・輸液・注射）の方法と注意事項、輸液管理、持続点滴の固定方法 ②　検体採取（採血・採尿・測尿） ③　穿刺（骨髄・腰椎）の固定方法と注意事項 ④　呼吸症状の緩和（吸引・吸入時のポイント、ネブライザー吸入の工夫） ⑤　蘇生法（人工呼吸法と注意事項、心肺蘇生法と注意事項） 4）救命救急処置を受ける小児の看護 ⑴　小児救急におけるトリアージと対応 ⑵　小児の一次救命処置 ⑶　頭部外傷・転落 ⑷　誤飲・誤嚥 ⑸　熱傷	講義	非常勤講師
8	まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ）		筆記試験	

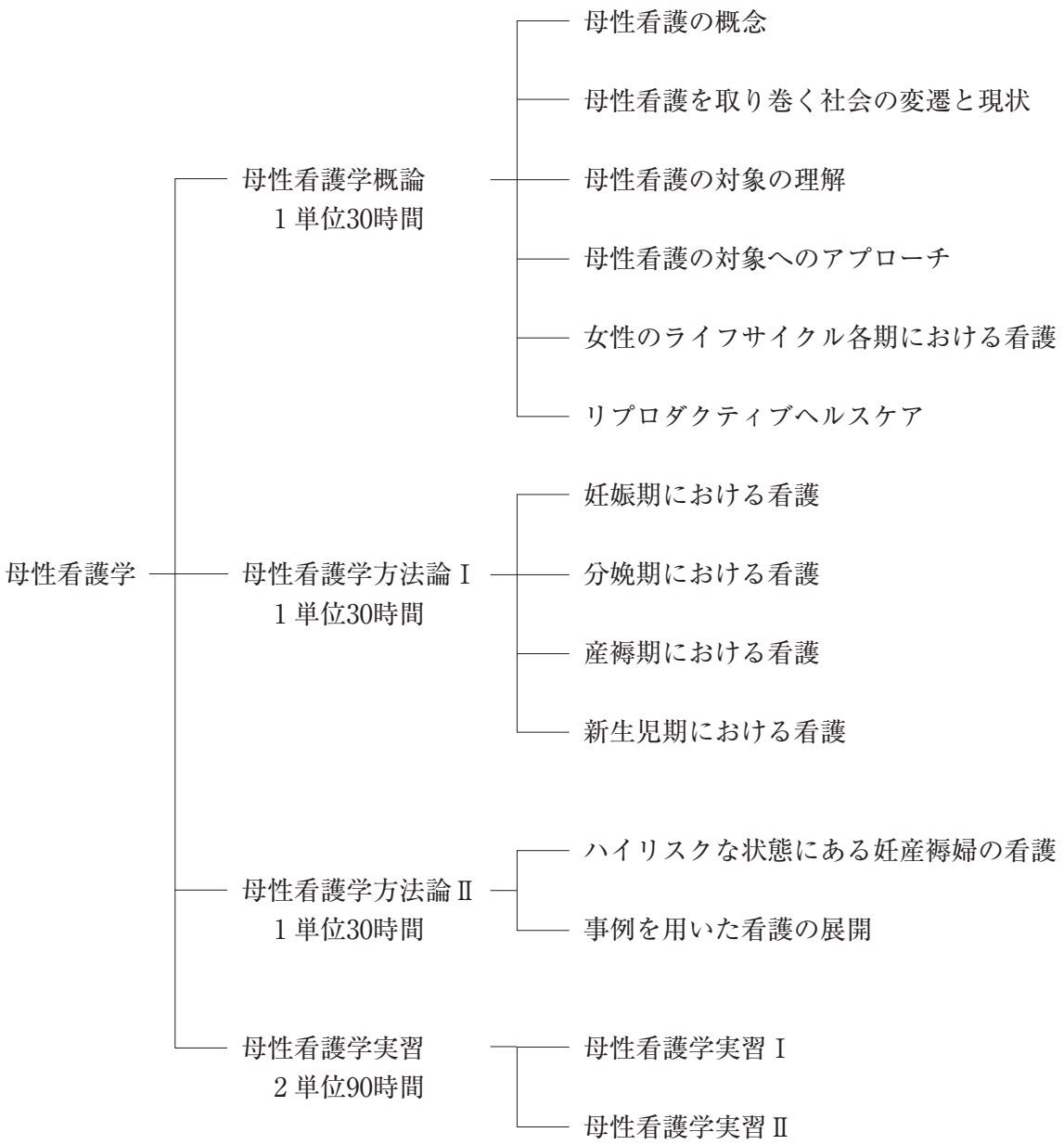
9 10 11 12 13 14 15	＜事例による看護過程の展開＞ ・小児の特徴をふまえた看護過程の展開ができる。	1）小児の特徴と場をふまえた看護 2）事例による看護の展開 ⑴ アセスメントの視点 ⑵ 情報の整理・分析 ⑶ 看護援助の明確化・優先順位	講義 演習 （12 h）	専任教員
評価方法	筆記試験　レポート			
参考文献と資料	系統的看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論　医学書院 系統的看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学〔2〕小児臨床看護各論，医学書院 写真でわかる小児看護技術　アドバンス，インターメディカ			
備　　考				

母性看護学

目的　女性のライフサイクル各期において、対象自身が健康を維持増進するための看護に必要な知識・技術・態度を養う。さらに、それらを通して、生命倫理観や母性観、父性観を養う。

目標
1　母性看護の概念と意義を理解する。
2　女性のライフサイクル各期における特徴と、女性がライフサイクルを健全に送るために必要な看護を理解する。
3　新しい家族の誕生期にある対象が、順調な経過と健康生活を送るために必要な看護ができるための基礎的知識・技術・態度を習得する。
4　母性保健の動向を学び、母性看護における母子保健医療チームの一員としての看護の役割を理解できる。
5　自己の生命倫理観、母性・父性観について考える。

構成



分野	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学概論	単位数	1	時期	2年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　母性看護の概念と意義、女性のライフサイクル各期における特徴を知り、女性がライフサイクルを健全に送るために必要な看護を理解する。 目標　1　母性看護の概念と意義を理解する。 2　母性看護の対象と特徴を理解する。 3　母性看護の変遷と社会の動向を知り、母性看護の果たす役割を理解する。 4　母性の健康を保持・増進するための看護を理解する。 5　自己の生命倫理観、母性観・父性観について考える。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2	＜母性看護の概念＞ ・母性看護の概念と意義を理解する。	1）母性とは (1) 母性をめぐる定義 (2) 母性の特性 (3) 母性看護における母性 2）父性とは 3）セクシュアリティ (1) 人間の性 (2) セクシュアリティの発達と課題 4）リプロダクティブヘルス／ライツ (1) リプロダクティブヘルス／ライツとは (2) リプロダクティブヘルス／ライツの課題 5）母性看護のあり方 (1) 母性看護とは (2) 母性看護の課題と展望 6）母性看護における倫理 (1) 看護倫理と倫理的問題	講義	専任教員
3 4	＜母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状＞ ・母性看護の変遷と対象を取り巻く社会の現状を理解する。	1）母性看護の歴史的変遷と現状 (1) 母性看護の変遷 (2) 母子保健統計の動向 (3) 母性看護に関する組織と法律 (4) 母子保健施策に関連する施策 3）母性看護の場と職種 4）母性看護の対象を取り巻く環境 (1) 家族 (2) 地域社会 (3) 生物学的環境 (4) 社会文化的環境	講義	
5 6 7	＜母性看護の対象理解＞ ・母性看護の対象を理解する。	1）女性のライフサイクル各期の特徴 2）女性のライフサイクルと家族 (1) 現代女性のライフサイクル (2) 家族の発達段階 3）母性の発達・成熟・継承 (1) 女性性の発達 (2) 母性・父性・親性の発達 (3) 母子関係と愛着 (4) 母性の世代間伝達	講義 演習 （4 h）	

8 9	＜母性看護の対象へのアプローチ＞ ・母性看護で主に用いられるアプローチを理解する。	1）母性看護に使われる看護技術 ⑴　女性の意思決定を支える看護技術 ⑵　ヘルスプロモーションのための看護技術 ⑶　親になる過程および家族適応を促す看護技術 ⑷　不快症状・苦痛を緩和するための看護技術 ⑸　周産期の死に対する看護技術	講義	専任教員
10 11 12	＜女性のライフサイクル各期における看護＞ ・女性のライフサイクル各期における健康問題および看護を理解する。	1）思春期の健康問題と看護 2）成熟期の健康問題と看護 3）更年期の健康問題と看護 4）老年期の健康問題と看護	講義 演習 （4 h）	
13 14	＜リプロダクティブヘルスケア＞ ・女性の一生を通じた健康問題について、その現状と看護を理解する。	1）家族計画 2）人工妊娠中絶と看護 3）喫煙女性の健康と看護 4）性暴力を受けた女性に対する看護 5）不妊症と看護	講義 演習 （2 h）	
15	まとめ（1 h）・試験（1 h）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学［1］　母性看護学概論，医学書院 看護者の基本的責務　日本看護協会出版会 国民衛生の動向
備　　考	

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学方法論Ⅰ	単位数	1	時期	2年次後期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　妊娠・分娩・産褥期における母子の特徴を理解し、母子とその家族に必要な看護が提供できる基礎的知識・技術を習得する。 目標　1　妊娠・分娩・産褥期の正常な経過と対象の身体的・心理・社会的特性を理解する。 2　妊産褥婦および新生児とその家族に必要な看護を理解する。 3　妊産褥婦および新生児とその家族の看護に必要な援助技術を習得する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2 3 4	＜妊娠期における看護＞ ・妊娠期にある対象と、妊婦と家族に対する看護を理解する。	1）妊娠期の身体的特性 (1) 妊娠の生理 (2) 胎児期の発育とその生理 (3) 母体の生理的変化 2）妊娠期の心理・社会的特性 3）妊婦と胎児のアセスメント (1) 妊娠とその診断 (2) 胎児の発育と健康状態の診断 (3) 妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント 4）妊婦と家族の看護 (1) 妊婦の保健相談の実際 (2) 親になるための準備教育 (3) 妊婦の運動と産痛緩和法	講義	非常勤講師
5 6	＜分娩期における看護＞ ・分娩期にある対象と，産婦と家族に対する看護を理解する。	1）分娩の要素 (1) 分娩の3要素 (2) 胎児と子宮および骨盤との関係 (3) 分娩の機序 (4) 分娩の進行と身体的変化 (5) 産痛 (6) 胎児におよぼす影響 (7) 産婦の心理・社会的変化 2）産婦・胎児、家族のアセスメント (1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント 3）産婦と家族の看護 (1) 分娩期の看護目標と産婦のニード (2) 安全分娩への看護 (3) 安楽な分娩への看護 (4) 出産体験が肯定的になるための看護 (5) 基本的ニードに関する看護		
7 8 9 10	＜産褥期における看護＞ ・産褥期にある対象と，褥婦と家族に対する看護を理解する。	1）産褥経過 (1) 産褥期の身体的変化 (2) 産褥期の心理・社会的変化 2）褥婦の健康状態のアセスメント (1) 産褥経過の診断 (2) 褥婦の健康状態のアセスメント 3）褥婦と家族の看護 (1) 身体機能回復および進行性変化への看護 (2) 児との関係確立への看護 (3) 育児技術に関わる看護 (4) 家族関係再構築への看護 4）施設退院後の看護	講義	専任教員

11 12 13 14	＜新生児期における看護＞ ・新生児の身体的特徴と，新生児に対する看護を理解する。	1）新生児の生理 ⑴　新生児とは ⑵　新生児の機能 2）新生児のアセスメント ⑴　子宮外生活への適応状態のアセスメント ⑵　新生児の生活のアセスメント 3）新生児の看護 ⑴　出生直後の看護 ⑵　出生後から退院時までの看護 ⑶　生後1か月健診に向けた退院時の看護 ⑷　新生児の身体の清潔の援助技術	講義 （実技） （4 h）	専任教員
15	まとめ（1 h）・試験（1 h）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学〔2〕 母性看護学各論，医学書院 写真でわかる母性看護技術　アドバンス，インターメディカ
備　　考	

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	母性看護学方法論Ⅱ	単位数	1	時期	2年次後期
				時間数	30		

目的・目標	
目的	ハイリスク状態にある妊産褥婦の特徴を理解し、母子とその家族に必要な看護を理解する。母性看護の対象の特徴や看護に関する知識を統合し、科学的根拠に基づいた問題解決能力を養う。
目標	1　ハイリスク状態にある母子の身体的、心理・社会的特性を理解する。 2　ハイリスク状態にある母子とその家族に必要な看護を理解する。 3　母性の特性をふまえ、看護の展開の基本技術を習得する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜ハイリスクな状態にある妊産褥婦の看護＞ ・妊娠、分娩、産褥期のハイリスクな状態と看護を理解する。	1）妊娠経過の健康逸脱 (1) 流早産 (2) 感染症 (3) 常位胎盤早期剥離 (4) 前置胎盤 (5) 妊娠高血圧症候群 (6) 多胎妊娠 2）分娩経過の健康逸脱 (1) 前期破水 (2) 帝王切開術 (3) 産科出血 (4) 胎児機能不全 3）産褥経過の健康逸脱 (1) 子宮復古不全 (2) 産褥熱	講義	非常勤講師
2				
3				
4		4）健康逸脱状況にある妊産褥婦の看護 (1) 切迫流早産の妊婦の看護 (2) 妊娠高血圧症候群妊婦の看護 (3) 帝王切開術を受ける産婦の看護 (4) 母子分離時の褥婦および新生児の看護	講義	専任教員
5				
6	まとめ（1 h）・試験（1 h）		筆記試験	
7	＜事例による看護の展開＞ ・母性の特性をふまえた看護の展開ができる。	1）ウェルネスの考え方 2）周産期にある対象のアセスメントの視点 (1) 妊娠・分娩・産褥期のアセスメント視点 (2) 新生児のアセスメント視点	講義	専任教員
8		3）紙上事例による看護の展開 (1) アセスメント (2) 情報の整理・分析 (3) 看護援助の明確化と優先順位	講義 演習 （14 h）	
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				

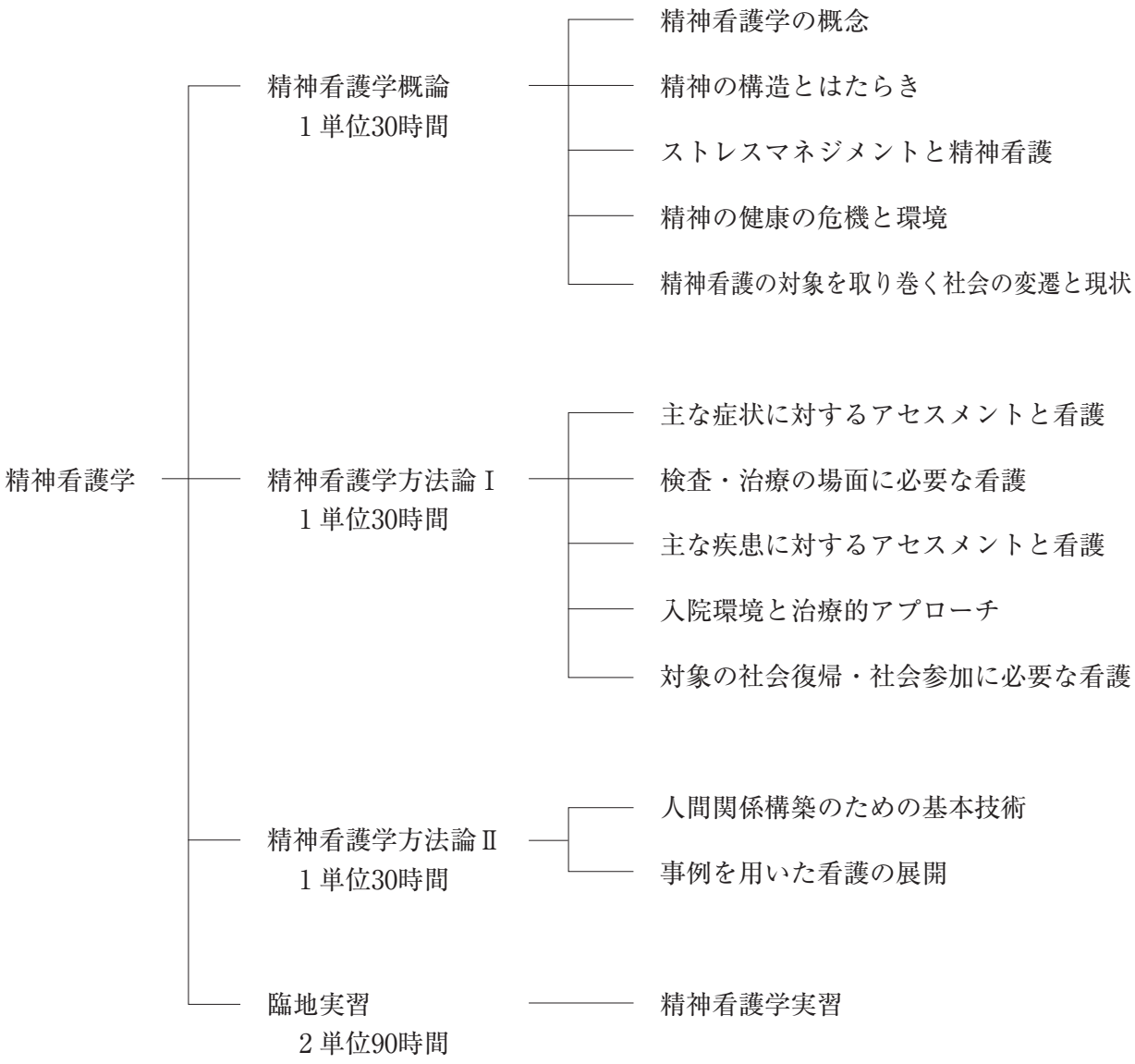
評価方法	筆記試験，看護展開のレポート
参考文献と資料	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学［1］　母性看護学概論，医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学［2］　母性看護学各論，医学書院
備考	

精神看護学

目的　　すべてのライフサイクルにおける人の心の発達を理解し、精神の健康の保持・増進および精神に障害をもつ人の看護が実践できる知識・技術・態度を養う。

目標
1　精神看護の概念と意義を理解する。
2　精神の機能と構造を学び、現代社会に生きる人々の心の健康について理解を深める。
3　精神に障害をもつ人に対して必要な看護を行うための基礎的知識・技術・態度を身につける。
4　精神の健康問題を抱える人々を社会で生活する人と捉え、保健医療福祉チームにおける看護の役割と社会資源の活用を学ぶ。
5　精神の健康問題を理解し、対象とのかかわりの中で精神に障害をもつ人に対する人権擁護と人間を尊重する態度を身につける。

構成



分野	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学概論	単位数	1	時期	2年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　心の健康について理解を深め、精神保健看護の機能と役割を理解する。 目標　1　精神のはたらきについて理解し、精神の健康・不健康について考える。 2　精神の健康について、ライフサイクルにおける危機および現代社会の環境的要因から理解する。 3　社会の変化に伴う精神保健医療活動を理解し、人権擁護と倫理的配慮および看護の役割について考える

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜精神看護学の概念＞ ・精神看護の目的や意義および看護の役割を理解できる。	1）精神看護学の目的と意義 ⑴　精神看護学とは ⑵　精神看護学の概念 ⑶　精神看護と精神科看護	講義	専任教員
2	＜精神の構造とはたらき＞ ・精神の健康と発達について理解できる。 ・精神の機能と障害について理解できる。	1）精神の健康とは 2）精神力動論 ⑴　自我の構造（イド・自我・超自我） ⑵　防衛機制 3）精神の発達と理論 4）精神の機能と障害		
3				
4	＜ストレスマネジメントと精神看護＞ ・心身の健康保持の大切さを理解できる。 ・精神看護にかかわる役割と活動の実際を理解できる。	1）リエゾン精神看護 2）看護師のメンタルヘルス 3）精神看護にかかわる資格認定		
5				
6	＜精神の健康の危機と環境＞ ・ライフサイクルと生活の場において危機的状況に直面したときの反応と介入方法について理解できる。	1）ストレスと危機介入 ⑴　ストレスとその反応 ⑵　危機理論 ⑶　ストレスと対処行動 2）ライフサイクルにおける危機的状況と介入 3）生活の場における危機的状況と介入	講義 演習 （4h）	
7				
8				
9				
10				
11	＜精神看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状＞ ・精神医療の変遷について学び、現状の問題や課題および看護の役割を理解する。 ・看護師として、患者の権利擁護について理解する。	1）精神医療の歴史 ⑴　世界の歴史　　⑵　日本の歴史 2）精神保健医療福祉の法律の流れ 3）精神保健医療福祉の展望 4）心の健康に関する法律と人権擁護 ⑴　精神保健福祉法以外の法律 ⑵　精神保健福祉法 ⑶　患者の人権擁護		
12				
13				
14				
15	まとめ（1h）・試験（1h）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	ナーシング・グラフィカ　精神看護学①　情緒発達と精神看護の基本，メディカ出版
備考	

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学方法論Ⅰ	単位数	1	時期	2年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　心の健康の保持・増進のための看護および心の問題がある対象に必要な看護を実施するための基礎的な知識・技術を習得する。 目標　1　さまざまな状況に直面したときに必要な精神看護を理解する。 2　主な症状に対する看護について理解する。 3　精神に障害をもつ人に必要な看護を理解する。 4　精神科で行われる診察・検査・治療の場面に必要な看護を理解する。 5　地域生活支援と治療的環境を整えるための方法を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2 3 4 5 6	＜主な症状に対するアセスメントと看護＞ ・主な症状や状態に応じた看護の方法を理解する。	1）精神症状のアセスメント (1) 不安　(2) 抑うつ (3) 幻覚　(4) 思考内容と思路の障害 (5) 強迫思考・強迫行為 (6) せん妄　(7) 離脱症状（退薬症候群） 2）精神状態・対象の行動と看護援助 (1) 不安緊張状態　(2) ひきこもり状態 (3) 抑うつ状態　(4) 躁状態 (5) 幻覚妄想状態　(6) 拒絶・拒否 (7) 攻撃的行動　(8) 操作・試し行為 (9) 強迫行為	講義	非常勤講師
7 8	＜検査・治療の場面に必要な看護＞ ・検査・治療の場面で必要な看護を理解する。	1）医学的検査と心理検査 (1) 臨床検査における看護の役割 (2) 心理検査の種類と特徴 2）精神科での治療 (1) 精神科における治療	講義	専任教員
9 10 11	＜主な疾患に対するアセスメントと看護＞ ・主な疾患に応じた看護の方法を理解する。	1）精神疾患のアセスメントと看護 (1) うつ病　(2) 双極性障害 (3) 統合失調症　(4) 不安性障害 (5) 適応障害　(6) パーソナリティ障害		
12	＜入院環境と治療的アプローチ＞ ・治療的環境について理解する。	1）治療の場としての精神科病棟 2）治療的環境 (1) 入院治療 (2) 治療的環境		
13	＜対象の社会復帰・社会参加に必要な看護＞ ・地域生活支援の技術と治療的感情を整えるための方法を理解する。	1）精神科における人的資源 2）社会復帰・参加のための看護	講義	専任教員
14		3）地域生活を支える社会資源の活用 4）地域生活（移行）支援の実際	講義	非常勤講師
15	まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	ナーシング・グラフィカ　精神看護学②　精神障害と看護の実践，メディカ出版
備考	

分野	専門分野Ⅱ	授業科目	精神看護学方法論Ⅱ	単位数	1	時期	2年次後期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　精神に障害をもつ対象の理解や看護に関する知識を総合し、人間関係を築く方法および問題解決能力を養う。 目標　1　対象との相互作用や自己理解を向上させる技術を習得する。 2　精神障害をもつ対象の健康問題をアセスメントし、計画・実施・評価できるよう看護の展開の基本技術を習得する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2 3 4	＜人間関係構築のための基本技術＞ ・精神に障害をもつ対象へのコミュニケーションについて理解できる。 ・看護場面の再構成が実施できる。	1）コミュニケーション技法 ⑴　基本姿勢と技法 ⑵　心に健康問題のある対象とのコミュニケーションの特徴 ⑶　コミュニケーションに影響を与える要因 2）自己理解と他者理解 ⑴　プロセスレコード ①　プロセスレコードの理論 ②　ロールプレイング ・構成要素 ・具体的な展開方法 ③　看護場面の再構成	講義 演習 （12h）	専任教員
5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	＜事例を用いた看護の展開＞ ・精神に障害をもつ人の特徴をふまえた看護の展開方法を理解する。	1）アセスメント ⑴　アセスメント ⑵　情報の整理・分析 ⑶　看護援助の明確化と優先順位 ⑷　家族の支援について		

評価方法	プロセスレコード　　看護展開のレポート
参考文献と資料	精神看護学①　情緒発達と精神看護の基本，　メディカ出版 精神看護学②　精神障害と看護の実践，　メディカ出版 看護診断ハンドブック，医学書院
備　考	

5．統合分野

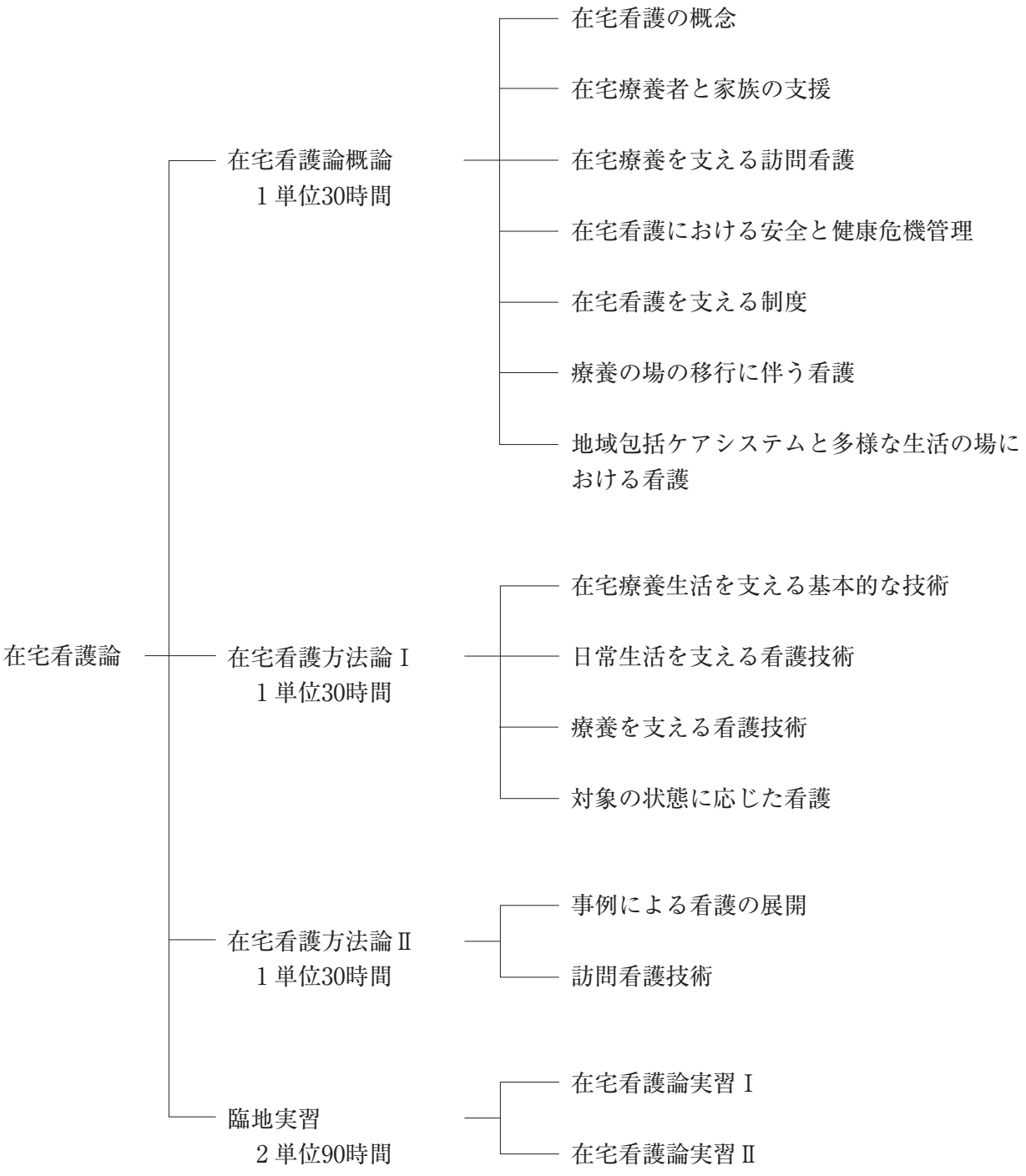
1）在宅看護論 ・・・・・・・・・・ 101
(1) 在宅看護論概論 ・・・・・・・・・・ 102
(2) 在宅看護論方法論Ⅰ ・・・・・・・・・・ 103
(3) 在宅看護論方法論Ⅱ ・・・・・・・・・・ 104
2）看護の統合と実践 ・・・・・・・・・・ 105
(1) 看護統合Ⅰ ・・・・・・・・・・ 106
(2) 看護統合Ⅱ ・・・・・・・・・・ 107
(3) 看護統合Ⅲ ・・・・・・・・・・ 108
(4) 看護統合Ⅳ ・・・・・・・・・・ 109

在宅看護論

目的　　地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、対象を取り巻く保健・医療・福祉制度の活用や関連職種と連携、協働する中で看護を実践できる基礎的能力を養う。

目標
1　在宅看護の意義と役割について理解する。
2　在宅で療養する対象とその家族の状態に応じた看護の基本を理解する。
3　基礎看護技術を応用した在宅での援助技術を習得する。
4　対象をとりまく保健・医療・福祉制度の活用や関連職種との連携・協働の必要性について理解する。

構成



分野	統合分野	授業科目	在宅看護論概論	単位数	1	時期	2年次後期
				時間数	30		

目的・目標	目的　地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅看護の基礎を理解する。 目標　1　在宅看護の対象を理解する。 2　社会資源について学び、保健・医療・福祉の連携・協働する中で看護が果たす役割を理解する。 3　在宅看護の特徴を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2	＜在宅看護の概念＞ ・日本の社会背景を通し在宅看護の意義、役割を理解する。また在宅看護の特徴を学ぶ。	1）在宅看護の背景 2）在宅ケアと在宅看護 3）在宅看護の役割・特徴 4）在宅看護を展開するための基本理念 5）在宅看護における倫理	講義	専任教員
3 4	＜在宅療養者と家族の支援＞ ・在宅療養者の特徴や家族について理解し、看護の役割を理解する。	1）在宅看護の対象者 2）在宅療養の場における家族のとらえ方 3）家族のアセスメント 4）在宅療養者の家族への看護		
5 6	＜在宅療養を支える訪問看護＞ ・訪問看護のしくみ等を理解する。	1）訪問看護の特徴 2）訪問看護ステーション 3）訪問看護サービスの展開 4）訪問看護の記録		
7	＜在宅看護における安全と健康危機管理＞ ・在宅看護における安全性の確保について理解する。	1）在宅看護における危機管理 2）日常生活における安全管理 3）災害時における健康危機管理		
8 9 10	＜在宅看護を支える制度＞ ・在宅看護を支える社会資源を理解する。 ・在宅療養者の権利に関する法について理解する。	1）社会資源の活用 2）在宅看護を支える制度 3）権利を擁護する制度と社会資源		
11 12	＜療養の場の移行に伴う看護＞ ・療養の場の再考の必要性とその支援・調整について理解する。	1）在宅看護と医療施設内看護の相違と特徴 2）医療機関における入退院時の連携 3）医療施設や介護施設との連携	講義	非常勤講師
13 14	＜地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護＞ ・地域包括ケアシステムの概要と地域包括支援センターについて理解する。 ・多職種連携と看護が果たす役割について理解する。	1）地域包括ケアシステム 2）地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 3）在宅看護におけるケースマネジメント／ケアマネジメント	講義	非常勤講師
15	まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版 地域・在宅看護論②　在宅療養を支えるケア　メディカ出版
備考	

分野	統合分野	授業科目	在宅看護論方法論Ⅰ	単位数	1	時期	2年次後期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　在宅看護の対象の状態に応じた看護や援助方法を理解し、看護が実践できる基礎的能力を養う。 目標　1　在宅における日常生活の援助方法を理解する。 2　在宅での日常生活の援助技術の工夫を考える。 3　在宅における医療管理を必要とする対象への看護を理解する。 4　在宅療養者の状態に応じた看護を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2	＜在宅療養生活を支える基本的な技術＞ ・在宅療養生活を支える基本的な技術を理解する。	1）コミュニケーション 2）アセスメント 3）環境整備 4）生活リハビリテーション 5）感染予防	講義	専任教員
3 4 5	＜日常生活を支える看護技術＞ ・在宅における日常生活の援助方法を理解する。	1）食生活 2）排泄 3）清潔 4）肢位の保持と移動 5）睡眠		
6 7 8 9	＜療養を支える看護技術＞ ・在宅療養の場における医療的ケアを必要とする対象への看護を理解する。	1）医療ケアの原理原則 2）薬物療法 3）排尿ケア 4）ストマ管理 5）在宅経管栄養法（HEN） 6）輸液管理（在宅中心静脈栄養法、末梢静脈栄養法） 7）足病変のケア		
10 11 12 13 14	＜対象の状態に応じた看護＞ ・在宅療養者とその家族の状態に応じた看護を理解する。	1）難病療養者の看護 2）認知症療養者の看護 3）ターミナル期の療養者の看護 4）子どもの療養者の看護 5）精神障害をもつ療養者の看護	講義	非常勤講師
15	まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版 地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版 写真でわかる訪問看護　アドバンス、インターメディカ
備考	

分野	統合分野	授業科目	在宅看護論方法論Ⅱ	単位数	1	時期	3年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	
目的	在宅療養者とその家族を理解し在宅における看護活動に必要な知識・技術・態度を理解する。
目標	1．国際生活機能分類（ICF）について理解する。 2．ICFに基づく看護の展開方法を理解する。 3．家庭訪問・初回訪問における援助技術を理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1 2	＜事例による看護の展開＞ ・在宅療養を支える看護展開と特徴を理解する。	1）国際生活機能分類（ICF）について ⑴ ICFの特徴 ⑵ ICFでの対象のとらえ方	講義	非常勤講師
3 4 5 6 7 8 9 10 11 12		2）在宅療養における看護の特徴 3）紙上事例による看護の展開 ⑴ 情報収集の項目とアセスメントのポイント ⑵ 対象とその家族の全体像 （ICFの枠組みを用いた情報の統合・生活課題の明確化） ⑶ 対象とその家族の「つよみ」を重視した看護の方向性の抽出	講義 演習 （18ｈ）	専任教員
13 14 15	＜訪問看護技術＞ ・家庭訪問・初回訪問における援助技術について理解する。	1）家庭訪問・初回訪問 ⑴ 家庭訪問の意義 ⑵ 訪問看護導入時の療養者と家族 ⑶ 初回訪問の目的と配慮 ⑷ 療養方針の明確化 ⑸ 訪問の手順と倫理・心構え 2）訪問看護における援助技術の実際 ⑴ コミュニケーション技術 ⑵ マナー	講義 演習 （4ｈ）	専任教員

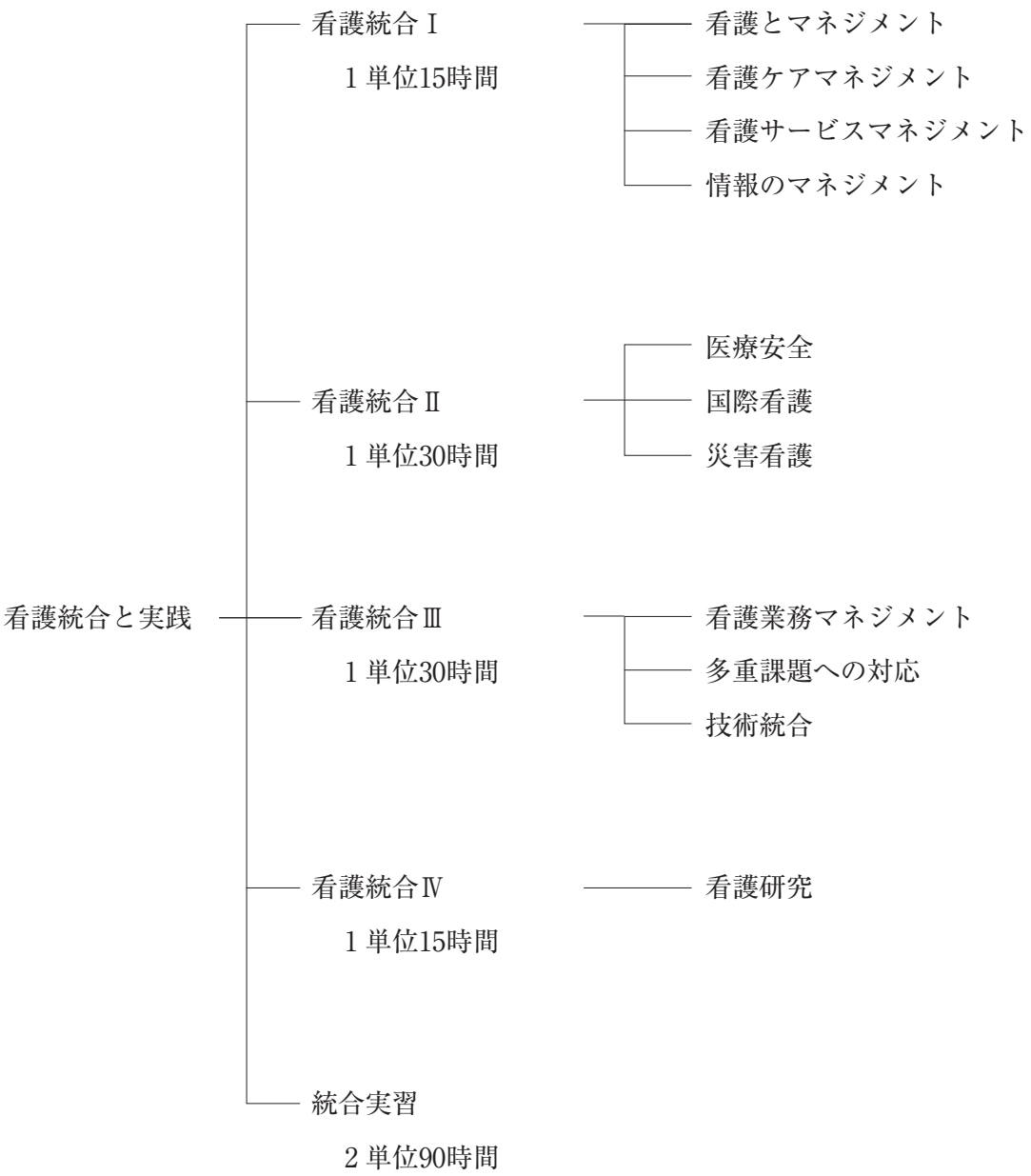
評価方法	課題レポート
参考文献と資料	地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア　メディカ出版 地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版 写真わかる訪問看護　アドバンス　　インターメディカ
備考	

看護の統合と実践

目的　　チームの医療における看護の役割が実践できる基礎的能力と専門職業人として主体的に学ぶ姿勢を養う。

目標　　1　チーム医療における他職種との協働の中で、看護師としてのメンバーシップを理解する。
2　看護をマネジメントする基礎的能力を身につける。
3　看護における国際協力の必要性を理解する。
4　医療における安全管理に関する基礎的知識と対象の安全を守る方法を習得する。
5　災害時に必要な看護が実践できる基礎的知識を身につける。
6　複合課題を通して、知識・技術・態度の統合と総合的な判断を学び、看護実践能力を養う。
7　看護を究明するために必要な看護研究に関する基礎的知識を身につける。

構成



分野	看護の統合と実践	授業科目	看護統合Ⅰ	単位数	1	時期	2年次 後期
				時間数	15		

目的・目標	目的　看護管理に関する基本的知識を習得する。 目標　1　看護管理の考え方がわかる。 2　看護ケアを提供するためのマネジメントについて学ぶ。 3　組織における看護サービスのマネジメントについて学ぶ。 4　医療現場における情報管理について理解する。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜看護とマネジメント＞ ・看護管理の考え方を学ぶ。	1）看護管理とは 2）看護におけるマネジメントとは	講義	専任教員
2 3	＜看護ケアマネジメント＞ ・看護ケアを提供するためのマネジメントに必要な知識を学ぶ。	1）看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2）患者の権利と尊重 3）チーム医療 (1)　チーム医療に必要な機能 (2)　看護職の責任と役割 (3)　他職種との連携・協働 4）看護業務の実践 (1)　看護業務、看護基準と看護手順 (2)　看護チームでのケア提供―看護ケア提供方式		
4 5	＜看護サービスのマネジメント＞ ・医療現場のマネジメントに関する知識を学ぶ。	1）看護サービスマネジメント―組織としての看護サービスマネジメント 2）組織目的達成のマネジメント 3）看護サービス提供のマネジメント (1)　看護単位の機能と特徴 4）人材マネジメント (1)　キャリアディベロップメント (2)　人材フローのマネジメント (3)　労働環境 5）施設・設備環境のマネジメント 6）物品マネジメント 7）組織におけるリスクマネジメント 8）サービスの評価 (1)　医療機能評価	講義	非常勤講師
6 7	＜情報のマネジメント＞ ・医療現場における情報のマネジメントについて学ぶ。	1）情報のマネジメント (1)　情報の種類と管理・活用 (2)　情報共有と守秘義務 (3)　患者の権利（プライバシーの保護） (4)　情報開示への対応 2）医療現場における情報管理：情報処理システム (1)　医療情報管理：電子カルテ ・システム導入の背景 ・看護支援システム：看護情報管理		
8 (1h)	試験		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	統合分野　看護管理　看護の統合と実践①　医学書院
備考	

分野	看護の統合と実践	授業科目	看護統合Ⅱ	単位数	1	時期	2年次 後期
				時間数	30		

目的・目標	目的　医療安全対策の必要性と方法を理解するとともに、災害発生時に支援できる看護の基礎的知識を学ぶ。また国際社会において広い視野に基づき看護を考える力を養う。 目標　1　医療安全対策の基本的考え方について学び、医療事故の背景・要因・対策について理解できる。 2　災害医療と災害看護活動に対する基礎的知識を学ぶ。 3　国際看護活動について学ぶ。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜医療安全の基本的考え方＞ ・医療安全に関する基本的対策が理解できる。	1）医療安全に関する用語の定義 2）ヒューマンエラーと対策 3）国の医療安全対策 4）組織としての医療安全対策	講義	専任教員
2	＜種類別にみた医療安全対策＞ ・インシデントの種類に応じた医療安全対策方法が理解できる。	1）看護師が関与した医療事故やヒヤリハット 2）危険の種類による医療安全対策 3）基本的な医療関連感染対策		
3				
4	＜医療安全対策の実際＞ ・ヒヤリハットの実際を体験し、医療安全対策について学ぶ。	1）事例を用いたヒヤリハットの実際 2）事例における対応の振り返り	演習 （4h）	
5				
6	＜災害医療と災害看護の概要と基本＞ ・災害看護と災害看護に関する基礎的知識を学ぶ。	1）災害医療の基礎知識 2）災害看護の基礎知識	講義	非常勤講師
7				
8	＜災害医療・災害看護の展開＞ ・災害時の医療・看護活動の実際を学ぶ。	1）災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護 2）災害者特性に応じた災害看護の展開 3）災害とこころのケア 4）地震災害看護	講義 演習 （4h）	
9				
10	＜トリアージ訓練＞ ・災害時のトリアージについて学ぶ。	1）トリアージの目的 2）カテゴリー 3）トリアージの実施場所 4）トリアージの実施者 5）トリアージの実際：方法、記載		
11				
12	＜国際看護活動＞ ・国際看護活動の必要性を理解し、活動の実際について学ぶ。	1）国際社会の現状と国際看護活動 2）国際看護活動の支援を必要とする対象 3）国際看護活動を推進する人と機関 4）国際看護活動の展開 5）異文化理解と国際看護活動 6）国際看護活動の実際	講義	非常勤講師
13				
14				
15	まとめ（1h）・試験（1h）		筆記試験	

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	新体系　看護学全書　看護の統合と実践① 看護実践マネジメント　医療安全　メヂカルフレンド社 系統看護学講座　統合　災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③　医学書院 医療安全ワークブック，医学書院
備考	

分野	看護の統合と実践	授業科目	看護統合Ⅲ	単位数	1	時期	3年次 前期
				時間数	30		

目的・目標	
	目的　臨床現場に対応できる看護実践能力を習得する。 目標　1　実践に即した演習を通して、臨床に対応できる看護業務のマネジメント能力を身につける。 2　安全で確実な看護技術を身につける。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜業務遂行のためのマネジメント＞ ・臨床現場の業務に対応する方法を学ぶ。	1）1日の業務の組み立て ⑴　複数患者を受け持つための情報収集・管理 ⑵　1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理	講義 演習 （8ｈ）	専任教員
2 3 4 5	＜事例を用いた業務管理の実際＞ ・患者に必要な援助のタイムスケジュールの立案ができる。	1）1日の業務の組み立ての実際 ⑴　情報整理 ⑵　計画修正 ⑶　タイムスケジュールの作成		
6	＜多重課題への対応＞ ・多重課題への対応の原則を学ぶ。	1）多重課題への対応 ⑴　多重課題の危険性 ⑵　多重課題発生時の対応の原則	講義 演習 （6ｈ）	専任教員
7 8 9	＜多重課題対応の実際＞ ・多重課題に対する対応方法の実際を学ぶ。	1）多重課題発生時の対応		
10 11 12 13 14	＜技術演習と評価＞ ・卒業時の技術到達レベルを踏まえ、安全な看護を提供するための知識技術を習得する。	1）安全な看護技術演習 ⑴　安全で確実な技術 ・点滴の技術 注射の準備・実施・観察	講義 演習 （6ｈ）	専任教員
15	まとめ（1ｈ）・試験（1ｈ）		筆記試験	

評価方法	筆記試験　レポート　受講態度
参考文献と資料	新体系　看護学全書　看護の統合と実践① 看護実践マネジメント　医療安全　メヂカルフレンド社 看護がみえるvol.2　臨床看護技術，メデックメディア
備考	

分野	看護の統合と実践	授業科目	看護統合Ⅳ	単位数	1	時期	2年次 後期
				時間数	15		

目的・目標	目的　看護における研究の意義及びその方法を理解することで、看護における問題意識を高め、学び続ける態度を養う。 目標　1　看護における研究の意義が理解できる。 2　看護研究の一般的な進め方が理解できる。 3　看護研究に関わる倫理的問題が理解できる。

回数	単元	教育内容	方法	担当教員
1	＜研究とは何か＞ ・看護における研究の意義がわかる。	1）研究とは 2）看護研究の意義・進め方	講義	専任教員
2 3	＜研究テーマと文献検索＞ ・研究テーマの決め方と文献検索の方法がわかる。	1）研究テーマの決め方 2）文献検索について		
4 5	＜文献検索の実際と研究テーマの絞込み＞ ・文献検索の方法を理解する。 ・研究テーマが決定できる。	1）文献検索の実際 2）研究テーマの決定	演習 （4 h）	
6 7 (1h)	＜看護研究の進め方＞ ・看護研究の進め方が分かる。 ・看護研究に関わる倫理的問題が理解できる。 ・研究計画書の作成ができる。	1）研究方法 2）研究における倫理 3）研究計画書 作成・発表	講義 演習 （3 h）	
8	まとめ（1 h）・試験（1 h）		筆記試験	

評価方法	筆記試験　レポート
参考文献と資料	基本がわかる　看護研究ビギナーズNOTE
備考	

６．臨地実習・科目の順序性

１）看護学実習の目的・目標　・・・・・・・・・・　113
２）看護学実習科目・実習施設・・・・・・・・・・　113
３）臨地実習・科目の順序性　・・・・・・・・・・　114

6．臨地実習・科目の順序性

1）看護学実習の目的・目標

目　的

既習の知識を応用し、あらゆる健康段階にある対象の健康問題に対し、科学的根拠に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養うとともに、臨床に対応できる看護実践能力の基盤を育成する。

目　標

1　人権を尊重する態度を身につけるとともに、対象に共感できる感性を深める。
2　対象の個別性を健康段階と生活から理解し、科学的思考にもとづき、看護の必要性を判断できる能力を身につける。
3　対象の状態に応じた看護援助技術が提供できる能力を習得する。
4　保健医療福祉チームにおける看護師の役割を認識するとともに、チーム医療を実践するための基礎的能力を身につける。
5　看護実践をとおして、自己の看護観を育むことができる。

2）看護学実習科目・実習施設

(1)	基礎看護学実習	基礎看護学実習（病院）
(2)	成人看護学実習	成人看護学実習（病院）
(3)	老年看護学実習	老年看護学実習Ⅰ（老人保健施設・特別養護老人ホーム）
		老年看護学実習Ⅱ（病院）
(4)	小児看護学実習	小児看護学実習Ⅰ（保育園）
		小児看護学実習Ⅱ（病院）
(5)	母性看護学実習	母性看護学実習Ⅰ（保健センター）
		母性看護学実習Ⅱ（病院・助産所・子育て支援センター）
(6)	精神看護学実習	精神看護学実習（病院・在宅支援施設）
(7)	在宅看護論実習	在宅看護論実習Ⅰ（老人保健施設デイケア・地域包括支援センター）
		在宅看護論実習Ⅱ（訪問看護ステーション）
(8)	統合実習	統合実習（病院）

3）臨地実習・科目の順序性

科目の単位認定にあたっては、教科目を効果的に履修するために順序性を踏まえて履修します。

実習区分	実習時期	看護学実習前に修得すべき科目
専門分野Ⅰ 基礎看護学実習	2年次　1月	基礎分野 心理学 生涯発達心理学 人間関係論 人間と社会 倫理学 教育学 専門基礎分野 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 専門分野Ⅰ 基礎看護学：概論、方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
専門分野Ⅱ 成人看護学実習 老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ 小児看護学実習Ⅰ・Ⅱ 母性看護学実習Ⅰ・Ⅱ 精神看護学実習	3年次　5―11月	基礎分野 専門基礎分野 専門分野Ⅰ 専門分野Ⅱ 成人看護学：概論、方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 老年看護学：概論、方法論Ⅰ・Ⅱ 小児看護学：概論、方法論Ⅰ・Ⅱ 母性看護学：概論、方法論Ⅰ・Ⅱ 精神看護学：概論、方法論Ⅰ・Ⅱ
統合分野 在宅看護論実習Ⅰ・Ⅱ	3年次　5―11月	基礎分野 専門基礎分野 専門分野Ⅰ 専門分野Ⅱ 統合分野 在宅看護論：概論、方法論Ⅰ・Ⅱ
統合分野 統合実習	3年次　12月	基礎分野 専門基礎分野 専門分野Ⅰ 専門分野Ⅱ 統合分野

大垣市医師会看護専門学校

〒503-0806　　大垣市緑園129番地
TEL　（教務）０５８４－７５－３０８２
　　（事務）０５８４－７５－３０８１

令和４年4月　作成